

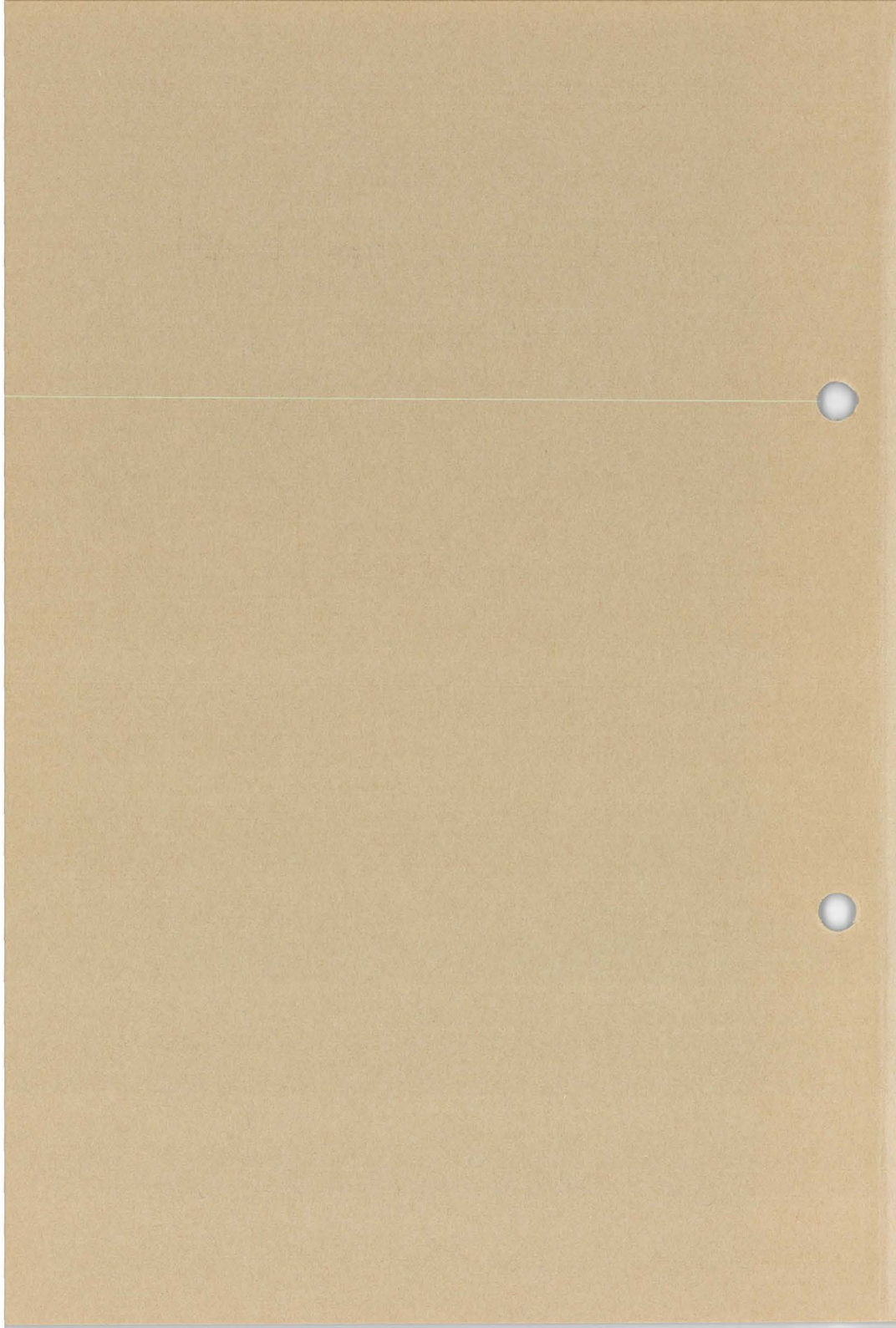
ISSN 1344-476X

財団
法人

東洋文庫年報

2008 年度

財団法人 東洋文庫



I 2008 年度の東洋文庫

2008 年度において東洋文庫が実施した諸事業の経過、及び内容の要旨は次の通りである。

まず本年度内に生じた役員・職員の異動について述べる。6 月の評議員会にて、任期満了となった山川尚義、石井米雄、斯波義信、中根千枝の各氏が理事に再任された。一方、監事、評議員の異動はなかった。これにて、当文庫の理事 15 名、監事 2 名、評議員 17 名の体制は変更がなかった。

次に職員であるが、4 月に図書部に會谷佳光研究員が、研究部に原山隆広研究員が着任し、総務部の橘伸子参事が図書部に異動となった。2009 年 1 月の昇級では、総務部柴代淳子参事が会計課長に、研究部瀧下彩子研究員が主幹研究員に、又、図書部會谷佳光研究員が主幹研究員にそれぞれ昇級した。又、9 月に当文庫に駐在しているフランス極東学院のマルケ・クリストフ氏代表がフランスに帰国し、彌永信美氏が新しい代表に就任した。

春の叙勲褒章では、安西祐一郎評議員（慶応義塾長）、立川武蔵客員研究員（国立民族学博物館名誉教授）が紫綬褒章を、梅田博之客員研究員（元麗澤大学長）が瑞宝中綬章を受章された。秋の叙勲では、石井米雄理事が瑞宝重光章を受章され、西田龍雄評議員が文化功労者に選ばれた。

誠に残念ながら、本年度中に、岩崎寛彌理事、佐竹昭広評議員、和田博徳前研究員、荒松雄研究員、矢澤利彦研究員、丸尾常喜研究員がご逝去された。

文庫の建替えに付いては、付属棟並びに書庫棟空調設備等の盛替え工事が、三菱地所設計による設計・監理、請負工事戸田建設の体制で 10 月末に完了し、11 月 5 日に竣工式を行った。事務所の移転を行い、11 月中旬より付属棟の臨時事務所での執務を開始した。本館工事は入札結果、引続き戸田建設が行う事となり、12 月 4 日に地鎮祭を行った。まず現事務所棟の解体工事に着手したが、既存建物には相当量のアスベストがある事が判明、この除去作業、並びに埋蔵文化財発掘調査が必要となり、工期が全体に約 2 ヶ月程度遅れ、完工は 2011 年 9 月末の予定となった。又、ゼネコン以外の大口契約先も、それぞれ入札により、発注先が内定した。尚、付属棟・臨時事務所は手狭であるので、後述の文科省からの受託研究並びに人間文化研究機

構との地域資料室を併せた事務所を近隣のマンション内に設置した。又、斯波特別顧問室を同様近隣に設置した。

今回新築の建物設備については、今後適切な修繕を行う事により長期の使用を図るべく、20年間の長期修繕計画を策定し、それに添って来年度より毎年23百万円を特定資産「修繕引当資産」として積み立てる事が、2月の理事会で決定された。

図書部関係では、1948年より約60年間続いた当文庫と国立国会図書館との支部契約が2009年3月末をもって解消された。今後は、当文庫の閲覧室は私立図書館として運営される事となる。尚、国立国会図書館との協力関係は今後も継続する事とし、2009年度は国立国会図書館より2名の実務研修員が派遣される事となった。

一方、当文庫のデータベースへの月間アクセス数は本年度中に飛躍的に増加し、月間約10万件のレベルに達している。本年度の当文庫の図書の増加は、購入約3,075冊、受贈約4,211冊、合計約7,286冊であった。

斯波特別顧問旧知のSkinner教授の遺言により、同氏所有の18世紀の中国海洋地図(1軸)を受贈した。池田温研究員よりは、同氏保有のオリジナル敦煌文献の寄贈を頂いた。当文庫には世界各地に保存されている敦煌文書のマイクロ・フィルムがあるが、これにより現物をも保有する事となった。又、当文庫友の会会員である中村菊之進氏より、ネパールの仏像等計67点受贈した。

研究部では、本年度は2003年度より始まった新しい研究体制の6年目の節目となり、定期出版物8冊の刊行に加え、論叢類9冊を発刊した。又、当文庫の金庫本の棚卸を数十年ぶりに実施し、一部資料の保管配置換えを実施した。

東洋学講座を春・秋それぞれ3回開講した。春は「三国志」をテーマとするシリーズ、秋は「越境するイスラーム」をテーマとした。いずれも大変好評で毎回ほぼ満員であった。又、各種研究会・講演会を計116回開催し、合計参加人数は1,837人であった。又、受入れ外国人研究者5名、外国人研究者への便宜供与は、カナダ、中国、エジプト、ドイツ、オランダ、ロシア、シンガポール、米国より28名に達した。

協力協定を締結している台湾中央研究院歴史語言研究所との交流は継続しており、2月には榎原理事長、山川専務理事が同研究所を訪問した。又、ハーバード大学エンチン図書館・財団とは、今後の当文庫との協力関係に付き打ち合わせを開始した。

本年度より新たに、文部科学省よりの委託研究事業として「イスラーム地域研究機構」の研究委託事業（12百万円）を受託した。又、斯波義信特別顧問のモリソン・パンフレット研究に対し、三菱財団より研究助成金が出される事となった。

財政面では、本年はここ数年来はじめて年間収支を黒字に保つ事が出来、運営調整積立資産を久しぶりに積み増しする事が出来た。

内部統制の面では、当文庫の諸規程の整備を継続しており、新たに、職員兼業規程、公印規程、権限規程（改定）、客員研究員取扱要領、一般書庫入場規程、身分証明書取扱要領、文書保存規程、給与規程（改定）、日本語逐次刊行物保存年限設定基準（改定）、文献資料複写規程附則1、科研費の内規、俸給表（改定）、就業規則（改定）、組織運営規程（改定）、臨時職員取扱要領（改定）、会計処理規則附則（改定）、文庫内通知の制度を制定・改定した。

広報活動では、2月3日の日本経済新聞の文化欄に東洋文庫についての榎原理事長の談話が掲載された。一方、広報誌関係では、三菱広報委員会が発行している月刊誌「マンスリー三菱」に隔月で東洋文庫の貴重本の紹介をする事となり、今年度中に6回掲載された。三菱商事の社内広報誌「菱和」12月号には、当文庫創設者岩崎久彌氏の末娘にあたる福澤綾子夫人の当文庫訪問記が掲載された。又、同社社内TVでは、当文庫の紹介並びに地鎮祭の様子が放映された。三菱地所の広報誌である「生活散歩」では、当文庫の見学会を企画して頂き、その様子が同誌に掲載された。文京区が区民に配布している広報誌「文京アカデミー・スクエア」（10万部配布）1月号トップに東洋文庫紹介記事が掲載された。

11月には従来の文庫内横断組織である「企画広報委員会」を発展的に改組し、新たに「普及展示委員会」を発足した。

主要訪問者としては、台湾中央研究院前院長李遠哲氏（ノーベル賞受賞者）、台北駐日経済文化代表処代表（大使）Chi-tai Feng氏、台湾中央研究院歴史語言研究所長王氏、大英博物館日本部長 Tim Clark氏、ハーバード大アジアセンター長 Kleinman氏等が来庫された。展示会としては、三菱グループの文化事業財団役員・日本学士院関係者等への特別展示会を開催した他、三菱商事新任役員研修、インド・タタ・グループ要人受け入れ、三菱ゆかりの地見学会等を開催した。

以上

Ⅱ 図 書 事 業

1. 資 料 の 収 集

A. 資料購入

本年度資料購入費の支出総額は 18,244,619 円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書（うち非図書）	洋書（うち非図書）	計
超域・現代中国研究	293	9	302
超域・現代イスラーム研究	60（60）	1,017	1,077（60）
東アジア研究	186	2	188
内陸アジア研究	96（4）	52	148（4）
インド・東南アジア研究	0	63（11）	63（11）
西アジア研究	0	277	277
共通（継続・大型資料）	351（3）	216（108）	567（111）
計	986（67）	1,636（119）	2,622（186）

※単位：冊（非図書資料はマイクロフィルム 1 リール、CD 1 枚を 1 冊に換算）

主な購入図書としては以下のものがある。

エジプト新聞 Al-Ahram 1931-1939 マイクロフィルム	108 リール
松葉集 他 和古書	3 点 28 冊
国家図書館蔵敦煌遺書 第 31 ～ 100 巻	70 冊
王重民向達所攝敦煌西域文獻照片合集	30 冊
清代稿鈔本第 2 輯	50 冊
『パレスチナ 1948 NAKBA』DVD BOX	60 枚

B. 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書(冊)	洋書(冊)	計(冊)	国内(冊)	国外(冊)	計(冊)
単 行 本	1,094	441	1,535	2,031	871	2,902
定期刊行物	2,004	672	2,676	5,027	1,458	6,485
非図書資料	7	17	24	0	0	0
計	3,105	1,130	4,235	7,058	2,329	9,387

主な受贈資料としては、以下のものがある。

G. William Skinner 氏寄贈 Skinner's strip map of the China coast.	1 軸
池田温氏寄贈 唐人雜鈔	1 軸
中華文化復興運動総会寄贈 明清台湾檔案彙編 第2集	22 冊
八尾師誠氏寄贈 ペルシア語史料	42 冊
The Great Public Library of Ayatallah al-Uzma Mar'ashi Najafi 寄贈資料	55 冊
佐口透氏寄贈 嘉慶十一年七月起至十二月止清漢奏稿八卷	8 冊

C. 蔵書数

収蔵する蔵書総数は 954,590 冊で、和漢書 535,568 冊、洋書 389,222 冊、複写資料 29,800 冊である。

2. 資料の整理

A. 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書	2,626 冊 (現代中国研究資料室の 706 冊を含む)
欧米語図書	526 冊
アジア諸言語図書	4,235 冊 (イスラム地域研究資料室の 1,646 冊を含む)

整理した主な図書

(1) 新編中華人民共和国地方志	69 冊
(2) 東北辺疆檔案選輯(清代・民国)	150 冊

(3) 清代稿鈔本

27 冊

(4) 台湾中央研究院歷史言語研究所寄贈 俗文学叢刊

500 冊

B. 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文 25 タイトル、欧文 11 タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	551	149	2,004	672
購入	172	82	1,084	169
小計	723	231	3,088	841
計	954		3,929	

C. 新聞

本年度は和・中・韓文で 45 種、欧文については 1 種を受入れた。

3. 資料の利用と複写サービス

A. 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は 103 名で、内訳は教職員 27 名（外国人 8 名）、研究機関関係者 10 名（外国人 3 名）、大学院生 39 名（外国人 10 名）、大学生 21 名（外国人 7 名）、その他 6 名（外国人 2 名）であった。

閲覧開館日は 224 日、利用者数は 1,869 名、利用資料数 27,628 冊で、詳細は次のとおりであった。

なお、東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ 805 名、2,038 冊であった。

また、建替工事に伴い、下記の資料について、2008 年 5 月 1 日から工事終了まで、閲覧（複写）利用を停止している。

◇日本語図書の一部の資料：

- ・ 東洋文庫図書部収集日本文図書（ローマ数字ではじまる請求記号の資料）
- ・ 近代日本関係日本語文献（ローマ数字ではじまる請求記号の資料）
- ・ 藤井文庫（「特-」ではじまる請求記号の資料など）

- ・辻文庫日本文図書（「T(J)-」ではじまる請求記号の資料）
- ・梅原コレクション日本文図書（「梅-」ではじまる請求記号の資料。中国語図書も含む）

◇日本語逐次刊行物の一部の資料：

- ・東洋文庫図書部収集日本語逐次刊行物（ローマ数字、もしくは「J」を冠したローマ数字ではじまる請求記号の資料）

◇四庫全書珍本 第二集～：洋装本部分（請求記号が「V-5-B-1001」の資料）

（１）開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比 (△印は減)
2008年 4月	(日) 20	(人) 157	(人) 8	(人) 11
5	19	154	8	△ 50
6	20	139	7	△ 52
7	21	170	8	△ 46
8	20	209	11	△ 46
9	19	186	10	△ 17
10	*20	150	8	△ 32
11	*13	96	7	△ 123
12	17	149	9	△ 47
2009年 1月	17	117	7	△ 54
2	18	162	9	△ 27
3	20	180	9	△ 13
計	224	1,869	8	△ 496

*2008年10月30日、11月5、6、7、10日は、建替工事のため臨時休館

(2) 閲覧カウンター出納冊数

	和 書		漢 書		洋 書		合 計		日 平 均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
2008年 4月	74	371	225	1,730	84	264	383	2,365	118	277
5	57	143	229	1,663	100	163	386	1,969	104	△ 95
6	31	60	231	1,849	95	267	357	2,176	109	△ 295
7	71	175	214	1,048	107	312	392	1,535	73	△ 1,590
8	111	351	434	2,360	97	445	642	3,156	158	△ 1,835
9	107	315	328	2,115	65	185	500	2,615	138	△ 1,337
10	31	72	212	1,282	102	242	345	1,596	80	△ 541
11	71	320	109	689	64	206	244	1,215	94	△ 1,672
12	74	519	171	1,248	151	736	396	2,503	147	△ 17
2009年 1月	30	131	152	1,141	91	767	273	2,039	120	△ 1,138
2	32	93	203	1,174	156	1,667	391	2,934	163	252
3	43	112	410	2,223	137	1,190	590	3,525	176	△ 639
計	732	2,662	2,918	18,522	1,249	6,444	4,899	27,628	123	△ 8,630
比率	9.64%		67.04%		23.32%		100.00%			

B. 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

(1) マイクロ・フィルム

申込件数	紙焼用撮影齎数	紙焼提供枚数	フィルム提供齎数
176	6,913	9,871	659

(2) 電子複写

申込件数	提供枚数
824	40,322

C. レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて 557 であった。

D. 資料の貸出

博物館・美術館などが主催しておこなう展覧会への資料の貸出は 5 件で、詳細は次のとおりである。

	展覧会名	主催者	展覧会会期	開催場所	主な資料と数量
1	「名所の誕生－飛鳥山で読み解く名所プロデュース」	東京都北区飛鳥山博物館	2008. 3.20 ～ 5. 6	東京都北区飛鳥山博物館	『桜花聚品』 全 1 点
2	「聖地★巡礼－自分探しの旅へ－」	島根県立古代出雲歴史博物館、 国立民族学博物館	2008. 7.26 ～ 9.15	島根県立古代出雲歴史博物館	『神道集』 全 1 点
3	「八犬伝の世界」	愛媛県美術館、 千葉市美術館、 美術館連絡協議会、 読売新聞社	2008. 9. 6 ～ 10. 5	名古屋市博物館	『曲亭蔵書目録』 全 1 点
4	名古屋市博物館企画展「名古屋城を記録せよ！－名古屋城百科『金城温古録の誕生』－」	名古屋市博物館	2008. 9. 6 ～ 10. 5	名古屋市博物館	『金城温古録』 はじめ全 4 点
5	「怒濤の幕末維新－攘夷・開国から民選議院設立建白書提出へ－特別展」	衆議院憲政記念館	2008.11. 5 ～ 11.28	衆議院憲政記念館	ダンカン：『中国戦艦を攻撃する鋼鉄戦艦ネメシス号』 全 1 点

4. 書庫資料の見学と研修

建替工事に伴い、2008 年度から工事終了まで停止している。

5. 資料の保存整理と複製

2006 年度末をもって、製本室並びに撮影室が閉鎖され、原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルム作成などの作業を行わないことになった。

実施した作業項目と内容は次のとおりである。

雑誌合冊製本（外注）

333 冊

6. 書誌情報の公開

2008 年度末現在、当文庫ホームページで提供している目録データベースは下記の 34 種である。

このうち※印のついている 4 種が 2008 年度新規公開分である。

- | | | |
|------|-----------------------------|-----------------------------|
| (1) | 中国語逐次刊行物 | (約 4,980 件収録) |
| (2) | 日本語逐次刊行物 | (約 2,010 件収録) |
| (3) | 欧文逐次刊行物 | (約 2,640 件収録) |
| ※(4) | 朝鮮・韓国語逐次刊行物 2008/6/17 up | (約 811 件収録) |
| (5) | 漢籍資料オンライン検索 | (約 30,060 件収録) |
| ※(6) | 新収蔵漢籍検索 2008/6/24 up | (約 12,430 件収録) |
| (7) | 續修四庫全書 | (約 6,230 件収録) |
| ※(8) | 越南本漢籍検索 2009/2/12 up | (約 316 件収録) |
| (9) | 岩崎文庫(和書貴重書) | (約 7,970 件収録) |
| (10) | ラテン文字資料 | (約 68,670 件収録) |
| (11) | 辻文庫(洋書)の検索 | (約 7,220 件収録) |
| (12) | キリル文字資料 | (約 11,460 件収録) |
| (13) | 中国語図書の検索 | (約 48,330 件収録) |
| (14) | 日本語図書の検索 | (約 61,550 件収録) |
| (15) | 和図書の検索(近代中国研究委員会収集)分類表による検索 | (約 17,000 件収録) ★ 2007 年度に同じ |
| (16) | 韓国・朝鮮語図書の検索 | (約 4,150 件収録) |
| (17) | 藤井文庫オンライン検索 | (約 1,450 件収録) |
| (18) | モンゴル語資料 検索 | (約 1,610 件収録) |
| (19) | アラビア語図書の検索 | (約 14,260 件収録) |

- | | | |
|-------|-------------------------------|----------------------------|
| (20) | ペルシャ語図書の検索 | (約 11,340 件収録) |
| (21) | 現代トルコ語図書の検索 | (約 10,540 件収録) |
| (22) | オスマントルコ語図書の検索 | (約 1,340 件収録) |
| (23) | 南アジア諸語(アラビア文字)図書検索 | (約 3,620 件収録) |
| (24) | キルギス語図書全リスト(PDF)(約 20 件収録) | ★ 2007 年度に同じ |
| (25) | ウイグル語図書全リスト(PDF)(約 1,100 件収録) | ★ 2007 年度に同じ |
| (26) | カザフ語図書全リスト(PDF)(約 240 件収録) | ★ 2007 年度に同じ |
| (27) | スインディー語図書 | (約 190 件収録) |
| (28) | チベット語文献(河口慧海将来蔵外文獻) | (約 500 件収録) ★ 2007 年度に同じ |
| (29) | チベット語文献(米国議会マイクロフィッシュ版) | (約 4,000 件収録) ★ 2007 年度に同じ |
| (30) | ビルマ語図書の検索 | (約 660 件収録) |
| (31) | インドネシア語・マレーシア語図書の検索 | (約 310 件収録) |
| (32) | タイ語資料検索 | (約 880 件収録) |
| (33) | 南方史資料 | (約 4,200 件収録) |
| ※(34) | 榎文庫 2008/6/13 up | (約 7,360 件収録) |

注1:「漢籍統合データベース」(2008/10/16 公開開始)は、(5)漢籍資料オンライン検索、(6)新収蔵漢籍検索、(7)續修四庫全書、(8)越南本漢籍検索の横断検索用のためリストからは除外

注2:「榎文庫 NDC8 による分類検索」は、(34)榎文庫の検索方法の相違に過ぎないのでリストからは除外

注3:件数を概算できないもののうち、件数に大きな変動がないものは、2007 年度年報の数字を用いた

7. 電子図書館情報システム

当文庫では、2004 年度より「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」の構築を進めてきた。

従来、岩崎文庫・モリソン文庫・梅原考古器物などは、マイクロフィルムによる複製保存を行い、現在まで約 6,000 件、1,000,000 コマを超えるフィルム(35mm)を所蔵している。これらをデジタルスキャンして、全頁データベースとして、2003 年度から

公開してきた。

また、地図・絵画・貴重書全頁データについては、2007 年度より高精細デジタル画像によるデータベースを公開している。

更に、1970 年代以来の中国現地調査で得られた「農村の祭祀と演劇」に関するビデオ資料を動画データベースとして 2008 年度に公開した。

一方、2003 年度より、国立情報学研究所と技術提携し、「デジタル・シルクロード・プロジェクト」の一貫として、資料のデジタル化を試行してきた。また、文化庁・総務省によるデジタルアーカイブの構築にも国立情報学研究所を通じて画像を提供している。

2008 年度末現在、当文庫ホームページで公開している「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」は下記のとおりである。

1. 画像データ

1) 地図

①中華帝国図 他	216 件 (216 コマ)
②江戸図	22 件 (22 コマ)
2) 浮世絵	36 件 (155 コマ)
3) 絵入り本	21 件 (655 コマ)
4) 香港銅版画・水彩画	392 件 (416 コマ)
5) 考古器物 (梅原考古資料)	15,343 件

2. 全頁データ

1) 岩崎文庫 古籍善本	55 件 (7,618 頁)
2) モリソン文庫 洋書稀覯本	11 件 (6,027 頁)
3) モリソンパンフレット (G. E. Morrison 収集、中国関係を中心とする小冊子、抜刷)	260 件 (4,840 頁)

3. 動画データ

1) 香港の祭祀と演劇 (概観)	約 50 分
2) 香港広東正一派道士の儀礼	
①龍躍頭太平清醮儀礼	約 50 分
②粉嶺太平洪朝儀礼	約 50 分
3) 中国 (江西) の儺舞・儺戯	
①萍郷県の儺舞	約 60 分
②万載県の儺舞	約 40 分

③婺源県の儺舞・儺戯

約 50 分

④南豊県石郵村の儺舞

約 30 分

8. 書 庫 内 資 料 と 書 架 ス ペ ー ス

書庫内資料の排架一覧と新規排架および主な調整箇所

階	1 号 棟	新規排架・調整箇所	2 号 棟	新規排架・調整箇所
6	朝鮮本、越南本、満洲本、蒙古本	タイ語、オスマントルコ語、漢籍（普通別置 VI-1-96～VI-4-12）		
5	Old Books、PB、MS、漢籍稀覯書、岩崎文庫、銅版画、古地図、榎文庫	モリソンパンフレット		洋書（II-1-A-1～VIII-16-39）、辻文庫（洋書）、漢籍（集部 IV）、参考図書
4	洋書（I-1-A-1～I-15-C-24、IX-0-1～XII-25-I-5、大型）、モリソン二世文庫、ペラルデ文庫、ロシア語別置資料、岩見文庫	チベット文献PL480（マイクロ・フィッシュ）、漢籍（叢書 V-2-200～V-5-B-5）	現代トルコ語資料、榎文庫、ペルシア語資料（P-A-1～P-LI-862）、チベット語資料	チベット語資料（洋装本 T）、漢籍（叢書 V-1-1～V-2-199）
3	漢籍（子部 III、普通別置 VI-1-1～VI-1-95）	漢籍（史部 II-11-B-g-1003～II-15-A-1152、叢書 V-5-B-6～V-5-B-131）、逐次刊行物（中文新聞）、梅原考古資料（日本・中国）	洋書（XIII～XVII・XIX）、アラビア語資料、ペルシア語資料（P-LI-863～P-Z-6）	梅原考古資料（朝鮮）
2	漢籍（史部 II-1-1～II-11-B-g-319、II-15-B-1～II-19-H-11）	逐次刊行物（中文新聞）、漢籍（叢書 V-5-B-132～V-5-C-179）	近代中国研究委員会収集資料	
1	逐次刊行物（中・朝・洋新聞）、中国語、欧文新着雑誌	漢籍（経部 I）、和書（岩崎文庫に由来するもの・裱装本の一部）、参考図書	逐次刊行物（欧文）	漢籍（叢書 V-5-C-180～V-5-E-1002）

1号棟1階保管庫
上記以外のアジア諸言語、フランス語・ドイツ語・ペルシア語雑誌の一部

全面建替に向けて旧本館・旧別館とともに書庫1号棟の一部および書庫Aも解体工事が行なわれた。解体工事にさきがけて、取毀部分の資料を待避した。主な資料移動は以下のとおりである。

- (1) 和書・和雑誌：東洋文庫において利用頻度の少ない資料を倉庫に預けたり箱詰めにして書庫内に保管するなどして活用可能な書架を捻出した。2号棟5階・1号棟6階の和書と1号棟1階の和雑誌がこれであり、利用休止の措置をとった。この空きスペースに順次資料を移動した。ただし、岩崎文庫に由来するものや綾装本の一部は、閲覧利用が可能なように1号棟1階集密書架に移動した。
- (2) アジア諸言語：書庫A排架のアジア諸言語のうち、タイ語とオスマントルコ語については1号棟6階に移動した。チベット語は2号棟4階に移動した。それ以外のアジア諸言語資料は、1号棟1階に新たに与えられた集密書庫（保管庫）に移動した。
- (3) 洋書：書庫4階の取毀部分にある「II-1-A-1」～「VIII-16-39」の洋書資料を、2号棟5階に移動した。洋書大型本の一部（「Lc-」）も残存部分に移動した。また、ペルシア語資料の排架スペース捻出のため、モリソンパンフレットを1号棟5階に移動した。
- (4) 漢籍：取毀部分にあたる1号棟3階の漢籍集部は2号棟5階へ移動した。また、漢籍経部は1号棟1階へ、漢籍叢書部は各棟各階の書架上へ移動した。その跡地には、1号棟2階の漢籍史部の一部（「II-11-B-g-1000」～「II-15-A-1152」）を移転した。また、漢籍普通別置資料の大半を1号棟6階に移動した。
- (5) 外国文雑誌：中国語の影印版の新聞の一部は1号棟2階・3階に排架した。フランス語・ドイツ語・ペルシア語雑誌の一部は1号棟1階の保管庫に移動した。この跡地には、受入資料の仮置きなどの作業スペースを設けた。
- (6) 参考図書：大半の参考図書は新閲覧室に再排架したものの、収まりきれない分については1号棟1階の集密書架や2号棟5階などに移動した。
- (7) 別置文庫など：梅原考古資料は1号棟3階の漢籍普通別置跡地に移動したが、図書資料は利用休止とし箱詰めした。辻文庫は、洋書資料が2号棟5階に移動した以外、和漢図書資料は利用休止とし箱詰めした。
- (8) その他：1号棟5階貴重書庫内資料や、1号棟6階の朝鮮本・越南本・満蒙本など、各フロア内で完結するものの相当量の排架調整を行なった。また、建替工事に伴う臨時の資料移動も随所で行なった。

Ⅲ 研 究 事 業

1. 調 査 研 究

A. 超域アジア研究

〈超域アジア研究部門〉

(1) 現代中国研究班

「現代中国の総合的研究」

総 括 平野健一郎
政 治 毛里和子 天児 慧 青山瑠妙 興梠一郎 唐 亮 平野 聡
経 済 中兼和津次 田島俊雄 加藤弘之 川井伸一 巖 善平 佐藤 宏
丸川知雄
国際関係・文化 平野健一郎^W 濱下武志 土田哲夫 田中明彦
伊香俊哉 内田知行 川島 真 貴志俊彦 金 鳳珍 胡 潔
黄 東蘭 小浜正子 砂山幸雄 高田幸男 古田和子 村田雄二郎

本プロジェクトでは、20 世紀後半において激変を経験し、東アジアから世界にまで政治・経済的な影響力をもちつつある現在中国の全容を、歴史・文化の要因を含めて総合的に分析する研究体制（政治と外交、経済、国際関係・文化の各グループ）を構築した。このための基礎資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点にしつつ、学際的研究・公開利用の観点から拡充と再編をはかる。

〔研究実施概要〕

- a) 〔政治グループ〕 現代中国におけるすさまじい社会変容がもたらす政治変動を、最近ようやく急増してきた資料と多様化してきた言論を分析道具にして明らかにするため、2 ヶ月に 1 回程度の研究会方式で研究活動を継続した。
- b) 〔経済グループ〕 前年度までの実績に基づき、メンバー全員参加による論文集『歴史的視野から見た現代中国経済』を出版するため、執筆作業を進めた。また、南京農大における、ロッシング・バック農業調査原資料の収集作業を完了し、資料を内部利用するためのデータベース構築について検

討した。

- c) [国際関係・文化グループ] これまでの研究成果を、東洋文庫論叢『日中戦争期における社会・文化変容』として刊行したのを受け、第2期に向けて、全体の研究テーマを「戦後中国の社会・文化変容と国際関係」とし、2ヶ月に1回程度の研究会を開催した。研究会は公開とし、若手研究者の優れた研究成果について有意義な報告を得た。

(2) 現代イスラーム研究班

「現代イスラームの超域的研究－議会主義の展開と立憲体制に関する比較研究－」

総 括 佐藤 次高◎

ア ラ ブ 池田美佐子 長澤栄治 小杉 泰 関本照夫 松本 弘

イ ラ ン 八尾師 誠 松永泰行 黒田 卓 鈴木 均 吉村慎太郎

ト ル コ 永田雄三 粕谷 元 小松久男 設楽國廣 新井政美 大河原知樹
秋葉 淳

本プロジェクトでは、これまでほとんど用いられることのなかった中東諸国の議会文書（アラビア語、ペルシア語、トルコ語）を分析し、それぞれの地域（国家）に誕生した議会主義の政治思想と立憲体制の実態を比較・検討することを通じて、中東・イスラーム地域における国民国家の歴史的役割と今日的意義を総合的に考察する。

[研究実施概要]

「現代イスラーム研究班」では、2005、2006年度に刊行した成果（*Agenda Index of the Minutes of the Iranian National Assembly, A Guide to Egyptian Parliamentary Records*, 『トルコにおける議会制の展開－オスマン帝国からトルコ共和国へ』）にもとづいて各国議会資料の分析をさらに進めた。また、3グループ合同の英文論文集 *Development of Parliamentarism in the Modern Islamic World* (Toyo Bunko Research Library [以下 TBRL] 11) を刊行した。

B. アジア諸地域研究

現代アジアの複合的かつ動態的な発展を理解する上で、各民族が有する個性豊かな歴史と文化の基礎的研究が欠かせない。本研究は、アジアの現状に強い影響力を

もっている歴史・文化の諸要素につき、基礎的かつ長期の取り組みを要する総合的な研究を実施する。

〈東アジア研究部門〉

(1) 前近代中国研究班

①「中国古代地域史研究—『水経注』の分析から—」

総

括 太田幸男

塩沢裕仁 松丸道雄 靱山 明 多田狷介 飯尾秀幸 藤田 忠
重近啓樹 池田雄一

『水経注』（原典6世紀、中国最古の地理書）とその諸注を考古学上の諸発掘成果およびランドサット衛星地図などと合わせて分析することによって、中国古代の地域社会の構造を再検討する。

〔研究実施概要〕

- a) 陳橋驛『水経注疏』（江蘇古籍出版社）をテキストとして、隔週の研究会において、その巻17・18・19「渭水」（甘粛省に発し、陝西省咸陽の南、西安（長安）の北を経て黄河に注ぐ）の部分を用いて（78年、1/100,000）の詳細なランドサット衛星地図および楊守敬『水経注図』と重ね合わせ、諸注および諸校訂を検討した。2008年度は特に巻15「洛水」の講読を進めた。
- b) 渭水流域の地誌的記述及び考古学的調査・発掘報告を収集し、渭水流域の歴史的な自然環境・社会的実態により具体的に迫るため、この地域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせて検討した。2007年度に刊行した『水経注疏訳注 渭水上』に続き『水経注』巻19訳注（下巻）の出版準備のため、12月に研究会を開催し、編集方針を検討した。
- c) 台湾中央研究院所蔵の陳橋驛『水経注疏』稿本および、購入当時の傅斯年による分析書類を確認するため、多田狷介、池田雄一（以上、研究員）、高田ひさ子、山元貴尚（以上、研究協力者）の4名が調査を行った。

②「宋代社会経済史用語解の作成」

総 括 斯波義信◎

梅原 郁 千葉 熈 吉田 寅 渡辺紘良 窪添慶文 妹尾達彦
長谷川誠夫

『宋史』食貨志の諸篇の訳注および『宋会要』食貨の諸篇語彙の索引カードの成果にもとづいて、宋代社会経済史研究の推進に寄与する《用語解》を作成し、データベース化して公開する。

[研究実施概要]

- a) 東洋文庫既刊『宋史食貨志訳注(一)～(六)』(1960～2005年)に収まる用語の注解、および東洋文庫の《宋会要輯稿食貨篇語彙索引》事業(1964年～)で蓄積した索引カードを中心にして、宋代の経済史・社会史の研究に役立つ《用語解》を作成しデータベース化するため、入力データの統合・修正作業を進めた。
- b) 上記 a) のため、前年度に引き続き、収録語彙を選定し、各語彙に付する範疇別・時期別・地域別のサブコード、解説、用例、出典の注記法について準則を共有して表記統一作業を継続した。

③「東アジア都城の考古学的調査・研究(Ⅱ)」

総 括 田村晃一

飯島武次 妹尾達彦^W 井上和人 小嶋芳孝 早乙女雅博
清水信行

2002～2006年度にかけて、渤海を中心として東アジアにおける都城の比較研究を行ない、その研究成果として2004年度に『東アジアの都城と渤海』(全394頁)を、2006年度に『渤海都城の考古学的研究Ⅱ』を公刊した。しかしその中心となる渤海上京龍泉府址(東京城)出土遺物の調査・研究は、予想以上に多数の遺物があったため、整理に手間取り、一部の遺物の調査・研究については、2008年度においても継続実施する。

[研究実施概要]

- a) 2007年度に引き続き、渤海・遼・金時代など、中国東北部を中心として興起した諸国の都城・城郭について、田村晃一(総括)と小嶋芳孝が現地調

査を実施し、その調査データの分析を行った。

- b) 上記諸国と同時期における、同時代の中原諸国家の都城・城郭との比較研究を継続した。
- c) 飛鳥藤原宮より渤海の遺物が出土したとの情報を得、奈良文化財研究所において調査を行った。

④「前近代中国の法と社会(Ⅱ)」

総	括	鈴木立子
南	宋	大澤正昭
元	代	鈴木立子
明	代	鶴見尚弘
明	清	岸本美緒 濱島敦俊 寺田浩明 山本英史

宋から明清時代にかけての戸婚・田土・錢穀などに関する法を明らかにし、前近代中国の「民事的」法の特質、歴史的変遷、地域性などを分析し、前近代中国の地方と中央政府との関係を考察することを目的としている。主として宋代以来の判例、契約文書を史料とするために、併せてこれらの史料の所在を調査し、蒐集する。

[研究実施概要]

- a) 国内外の判牘文集及び条例の蒐集を継続した。
- b) 研究動向を中心とした報告書、および「民事」的法、規範、契約文書などに関する研究文献のデータをまとめ、『前近代中国の法と社会—成果と課題—』として刊行した。

(2) 近代中国研究班

「1910～30年代における日本の中国認識」

総	括	本庄比佐子
経	済	久保 亨 奥村 哲 金丸裕一 弁納才一 富澤芳亜
政	治	内山雅生 曾田三郎 松重充浩
文化・社会		三谷 孝 瀧下彩子

近代日本の官民様々な機関が作成した中国実態調査資料の検討を通して、日本の同時代中国認識を明らかにする研究の一環である。これまでに行った興亜院による戦時中国調査、及び第1大戦期青島守備軍による青島・山東調査などについての研究成果を踏まえ、満鉄や在中国日本商工会議所など各種機関による調査も含めて日本の華北調査の全容を明らかにする。2008年度は、重要な資料について解題付き目録を作成しつつ、成果の刊行準備を行う。

〔研究実施概要〕

- a) 日本軍の山東占領期に同地域で獲得した経済的基盤がその後の華北における日本の進出とどのようにつながっていったかについて研究を継続した。
- b) 6月14日、9月6日、2月14日に班員以外の研究者を交えた研究会を開催し、戦前期日本の中国認識に関し、有意義な報告を得た。
- c) 内外研究者を交えたこれまでの研究会の成果をまとめ、『戦前期華北実態調査の目録と解題』として刊行した。

(3) 東北アジア研究班

①「日本所在近世朝鮮文献資料研究」

総 括 吉田光男

糟谷憲一 六反田豊 井上和枝 須川英徳 武田幸男 森平雅彦
山内弘一 山内民博

京都大学附属図書館、天理大学附属図書館今西文庫をはじめ、日本各機関・個人が所蔵している、近世朝鮮文献記録の第二次調査を行なう。4年計画により、すでに出版した『日本所在近世朝鮮記録解題Ⅰ』の続編として、『日本所在近世朝鮮記録解題Ⅱ』の完成を期する。従来、近世朝鮮のいわゆる朝鮮本と言われる古典籍については、総合的な調査が進行し、ある程度その全貌が解明されてきた。しかし主として成冊と言われる、帳簿を中心とした、地方資料・民間資料については、全体的な調査がほとんど行なわれてこなかった。第1次調査では、すでに該地にも残存が確認されていない資料について発見し、内容分析を行なってきた。第1次調査と今回の第2次調査によって、ほぼ日本における該資料は悉皆的な調査を行なうことができる。

〔研究実施概要〕

5年間の研究成果をまとめ、『日本所在朝鮮近世記録解題』を刊行した。

②「清朝満洲語檔案資料の総合的研究」

総 括 松村 潤

満洲語檔案 加藤直人 中見立夫 楠木賢道 細谷良夫

近年、中国・清朝史研究の分野では、満洲語で記された文書資料の利用が不可欠なものとなっており、当研究グループは、当該方面の研究の牽引車として国内外に認知されている。現在、我々のグループは、北京の中国第一歴史檔案館（檔案とは公文書のこと）に所蔵される「内国史院檔」と、東洋文庫に所蔵される「鑲紅旗満洲都統衙門檔案」に関する研究をすすめており、前者については、ローマ字転写の上、訳註を施し、原文書の写真を付して、2003年度に『内国史院檔 天聰七年』を東洋文庫から刊行した。現在は、同史料「天聰八年檔」、「天聰五年檔」の刊行に向けて、作業をすすめている。後者については、すでにその文書群の概要を、英文にて刊行したが、現在はその継続作業として英文による「研究篇」の編輯作業をすすめている。

〔研究実施概要〕

- a) 東洋文庫所蔵「鑲紅旗満洲衙門檔案」について、将来、英文による「研究篇」の刊行につなげるため、整理・研究をすすめた。
- b) 北京・中国第一歴史檔案館所蔵の「内国史院檔 天聰八年（1634）」をローマ字転写の上、訳註を施し、原文書の写真を付して刊行した。

③「清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析」

総 括 石橋崇雄

岸本美緒^w C. A. ダニエルス 柳澤 明 並木頼寿

ここでは、西欧による世界の一体化が進展する時代と重なりながら、東アジア・北アジアに亘る大規模な統合を独自に進展・実現させて現在の「中国」領域を形成する軸となった、清朝の国家領域構造と対外関係を総合的に分析するべく、1932年以降の満洲国や現在の中国における自治区・民族問題と清朝史との関わりをも含め、清代東アジア・北アジア諸領域における歴史的構造の全容を総合的に捉える研究体制を構築する。

〔研究実施概要〕

- a) 清朝政治史、清代中国社会経済史、清代中国近代政治史、清代モンゴ

ル・露清関係史、清代中国西南民族史の各専門研究領域をもとに、2007年度までに既成の領域世界・時代区分の枠を越えて個別に史料調査・現地調査を実施した。その成果に基づいた専門研究を深化させ、文献史料の調査・整理・分析を行うため、準備を進めた。

- b) 2006～2008年度の3年間の研究成果として、2009年度に英文論文集 (TBRL No.15 : *The Historical Structures of Eastern and Northern Asia in the Qing Dynasty Era*. [仮題]) を刊行するための準備を進めた。

(4) 日本研究班

「岩崎文庫貴重書の書誌的研究」

総括 佐竹昭広
語学 酒井憲二 柳田征司 石塚晴通
文学 深沢眞二 今西祐一郎 上野英二 大谷俊太 辻本裕成 枋尾 武
思想・文化 宮崎修多 中野真麻里 和田恭幸

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分にはなされていない。2006年度までに室町時代以前に成立した古写本・古版本についての書誌解題 (I～V) を公刊してきたことを受けて、ひき続き近世の成立ないしは刊行の貴重書を調査して研究の基盤を整備するとともに、その成果を広く公開することをめざしている。

[研究実施概要]

- a) 前年度に引き続き、岩崎文庫の中でも万葉集関係のものを中心とする木村正辞旧蔵書約100点について、ひき続き書誌調査を進めた。
b) 上記 a) の成果を2009年度に『岩崎文庫貴重書書誌解題 VI』として公刊するため、編集作業を行った。

〈内陸アジア研究部門〉

(1) 中央アジア研究班

①「St. ペテルブルグ文書研究」

総 括 梅村 坦
林 俊雄

社会・文化 片山章雄 庄垣内正弘
コ ー タ ン 熊本 裕
ソ グ ド 吉田 豊

東洋文庫所蔵のマикроフィルム(ロシア科学アカデミー St. ペテルブルグ東洋学研究所所蔵文書)のうち、ウイグル語・ソグド語・コータン語・マニ文字文献およびモンゴル語文献に関する解題カタログの整備をふまえ、ウイグル文献を中心に、文献学・言語学・仏教学・歴史学等の側面から個別に読解研究をすすめる。5、6世紀から15世紀にいたる中央ユーラシア資料文献学に欠かすことのできないこれらの資料は、小断片にいたるまで精査する価値をもつ。したがって資料使用の基盤を形成することがすべての基本となる。個別文書研究と全体像の明示とを並行してすすめていくことにより、出土地域の歴史像解明をはかる。

[研究実施概要]

- a) ウイグル文書を中心におこなってきた画像とデータベース上の目録とを組み合わせる作業を継続した。ただし、ロシア科学アカデミーとの契約により、画像資料は一括公刊することができないため、当面本研究グループ内部での閲覧を図ることとする。また、より解像度の高い画像データを整備して将来の研究に備える。
- b) 「St. ペテルブルグ東洋学研究所所蔵ウイグル文献目録(増補版)」刊行の準備を進めた。

②「近現代中央アジアにおける民族の創成」

総 括 小松久男^W
梅村 坦^W 新免 康 片山章雄^W 濱田正美

1991年のソ連解体と中央アジア5ヶ国の独立以来、現今のアフガニスタン情勢まで連動して、中央アジア諸国および、ヴォルガ・ウラル地域ではあらたな「民族意識」がさまざまな形で姿を現し、周辺地域（たとえば新疆ウイグル自治区）にも影響を与えている。このような現代中央アジアの動態を近年における東洋文庫の収集資料を活用して主に歴史学の方法によって検証し、「国民国家」の枠組みを問いなおしつつ、「民族」創成の多様な論理と過程を明らかにする。この地域に「民族意識」の原形が生まれたのは、19世紀末のことであり、これを創出したムスリム知識人たちはおもに新聞・雑誌などの新しいメディアを活用しながら民族的なアイデンティティの形成にあたった。したがって、19世紀末から20世紀初頭に刊行された新聞・雑誌は、重要な史料であり、これをもとに実証的な研究を進める。

〔研究実施概要〕

- a) 近代中央アジア新聞・雑誌コレクションの整理と研究を継続し、あわせて関連する新刊資料・研究図書の収集を進めた。
- b) 研究協力者の参加を得て、本研究テーマに関する研究会を継続的に開催した。
- c) 日本における中央アジア史研究の成果を国際的に発信するために、インディアナ大学と協力して日本語論文英訳シリーズ刊行の準備を進めている。
- d) 清水由里子（研究協力者、中央大学大学院博士課程後期）を中国の新疆檔案館に派遣し、資料調査を行った。

③「敦煌・トルファン出土漢文文書の文献学的研究」

総 括 土肥義和

妹尾達彦^W 荒川正晴 氣賀澤保規 關尾史郎 池田 温

本研究の目的は、これまで、中国の中央で編纂された漢語史料を中心に進められてきた中国の内地及び内陸アジア諸地域の諸民族の歴史を、現地で作成された生の漢文文書を分析研究することによって、諸民族の歴史の実態を明らかにすることである。このために、3世紀から13世紀に至る時代に作成された漢文文書を記述内容によって分類し、それぞれの文書がどのような特質をもっているかを、書誌学的・あるいは古文書学的に研究することによって、諸種文書の外形的な特徴、即ち、様式を究明するとともに、内陸アジア諸民族の歴史の実態を明らかにすることを期す。

〔研究実施概要〕

- a) ロシアの St. ペテルブルク東洋学研究所所蔵の漢文文献マイクロフィルム 108 リール (Nos.256～363 リール) の文献整理番号とその齣数とを示す対照一覧表について、昨年度に引き続き、既存の『俄蔵敦煌文献』(全 17 冊、上海古籍出版社) に収録された文献 (図版) の所在 (巻数・頁数) を明示した冊子本を作成するため、最終的な校正作業を継続した。
- b) 国内外の研究者の利用に供するため、上記 a) の対照一覧表のデータについて点検作業を行なうとともに、構成メンバーの担当分野にかかわる漢文文書の重要なものを抽出し、その史料価値の究明を進めた。
- c) 5 年間の成果をとりまとめ、『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』として刊行した。

(2) チベット研究班

「チベット蔵外文献の書誌的研究」

総 括 吉水千鶴子
川崎信定 武内紹人
仏教稀覯本 御牧克己
宗教文献 松濤誠達
歴 史 山口瑞鳳
密教図像 立川武蔵

チベット蔵外文献については、河口慧海請来文献を含む東洋文庫所蔵チベット撰述文献の校訂とデータベース作成を行なうことにより、資料を整理し、その内容を明らかにする。また、チベット仏教宗義文献については、仏教の宗義を解説した宗義文献の校訂・翻訳・研究を行なうことにより、チベット仏教の思想を明らかにする。チベット語敦煌文献に関しては、マイクロフィルムで東洋文庫に所蔵されているスタイン蒐集敦煌文献を含む敦煌出土チベット語文献の校訂・翻訳・研究を行なうことにより、敦煌で栄えたチベット文化を明らかにする。

〔研究実施概要〕

- a) 東洋文庫所蔵チベット蔵外文献の筆記体文書をデータベース化するため、チベット人研究協力者の協力を得て、活字体に直し校訂作業を行った。
- b) トゥカン著『一切宗義書』「カダム派の章」(2010 年度に『西藏仏教宗義研

究 第九巻』として刊行予定)について宗義研究のテキスト校訂、翻訳作業を進めたほか、敦煌出土チベット語文献の解読と研究に着手した。

- c) 2007 年度に刊行した『西藏仏教宗義研究 第八巻』を増補し、4 版として刊行した。

〈インド・東南アジア研究部門〉

(1) インド研究班

「南アジアにおける支配権力—ムガル帝国支配に関わる文書史料の研究—」

総 括 小名康之
サンスクリット 山崎元一 辛島 昇
ウルドゥー 萩田 博
サンスクリット 太田信宏 水野善文

これまでムガル帝国の各皇帝の代ごとに歴史書、通史の検討を重ね、ペルシャ語の第一次史料を考察することを行なってきた。本研究では、とくに、ペルシャ語の歴史書とともに、ムガル帝国中央政庁から発行されたファルマーンなど第一次文書史料を項目別に分け、調査・収集・整理し、検討をしていく。

[研究実施概要]

- a) ムガル帝国中央から発行された皇帝のファルマーンなど公的文書について、マイクロフィルム等で収集し分析・検討するため、小名康之(研究班総括)がブリティッシュライブラリーほかの機関において調査を行った。
- b) 2009 年度に『ムガル帝国支配の文書史料の研究』(仮題)を英文で公刊するため、研究会を開催して、文献調査の結果を検討した。

(2) 東南アジア研究班

「近代移行期の東南アジアの港市世界に見る自画像と他者像」

総 括 石井米雄^W
西尾寛治 弘末雅士 嶋尾 稔 桜井由躬雄

古くから東西海洋交易の要衝となった東南アジアの港市には、東西世界の商人が逗留するとともに、中国やインド、西アジアなどから多くの移住者が流入した。東南アジアの港市は、地元の人々をはじめ移住者や奴隷さらにはそれらの人々の間に生まれた混血者など、多様な人々が居住する空間となった。他方でこうした港市は、地元世界の外部への窓口となり、地域社会の結節点ともなった。本研究計画では、近代移行期の東南アジアの港市を取り上げ、港市住民がどのように「自分たち」と「彼ら」を区分したかを考察することで、彼らによる地元世界と広域秩序世界を構築するダイナミズムを探る。

[研究実施概要]

- a) 近代移行期の東南アジアの港市に関する文献資料の収集と分析を進めた。
- b) 5年間の成果をまとめ、英文論集 *The Changing Self Image of Southeast Asian Society during the Nineteenth and Twentieth Centuries* (TBRL No.10) として出版した。

〈西アジア研究部門〉

西アジア研究班

「イスラーム世界における契約文書の研究」

総 括 三浦 徹
ト ル コ 永田雄三^W 磯貝健一 林 佳世子
契 約 観 念 後藤 明
トルコ・ペルシア 清水宏祐 堀川 徹
ア ラ ブ 原山隆広

個人間の契約（売買契約など）にとどまらず、広く君臣契約や行政契約（徴税請負など）を含め、現存する文書や史料をもとに、オスマン文書とヴェラム文書を比較しイスラーム世界における契約を保証するシステムと契約によって結ばれる社会関係の全体像を検討する。

[研究実施概要]

- a) 前年度に引き続きイスラーム世界における契約文書の国際比較研究を、国文学研究資料館アーカイブズ研究系の主催する「歴史的アーカイブズの多国間比較に関する研究」と連携して実施し、その研究成果を『オスマン朝と

中近世日本における文書史料の比較研究』として日本語・トルコ語で出版した。

- b) ヴェラム文書（東洋文庫所蔵、モロッコの羊皮紙契約文書）の研究を続けた。2011 年度に研究成果の刊行を期す。
- c) 他機関の協同プロジェクト「中央アジア古文書研究」（京都外国語大学）、「イスラーム写本・文書の総合的研究」（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）などと共同研究会を催し、イスラーム法廷文書にかかわる研究者のネットワークの構築を行った。

C. 資料研究

〈資料研究部門〉

東アジア資料研究班

「東アジア資料の研究」

総 括 斯波義信◎^W

総 括 補 助 者 田仲一成◎

日 本 浅野秀剛 片桐一男 永積洋子 延廣真治 吉田伸之

中 国 丘山 新 小川裕充 佐藤慎一 鈴木博之 戸倉英美 濱下 武志
矢吹 晋 平勢隆郎 片山 剛

朝 鮮 藤本幸夫

内 陸 ア ジ ア 森安孝夫^W

情 報 廣瀬紳一

現在、研究資料の収集のためには、内外の文献刊行状況、電子データの構築状況を随時に把握することが必要となる。そのためには、各種の東洋学専門分野にわたり、海外の東洋学の有力機関と不断に交流を続けることが有効である。このたび東アジア資料の調査のため、新たに東アジアの専門家を結集して本部門を組織することとした。さしあたり、台北の中央研究院との間で締結された漢籍全文資料庫の運用、研究員の交換などを担当するほか、上海復旦大学、華東師範大学、上海図書館、北京社会科学院文献中心などとの交流促進の任にあたる。

[研究実施概要]

- a) 蔡哲茂氏（台湾中央研究院・研究員）、John Timothy Wixted 教授（アリゾナ州立大学）を招聘し研究交流を行った。
- b) 矢吹晋研究員が台湾中央研究院を訪問し、現代史関係資料の調査を行った。

6 部門 12 研究班 23 グループ 事務統括

瀧下彩子^W（東洋文庫研究員）

（注 ◎は専従者、W は重複を示す）

D. 地域研究プログラム

（1）イスラーム地域研究資料室

「イスラーム史料情報学の開拓」

本研究では、イスラーム地域の現地語史料について、書誌情報や文献情報の体系化を進めることによって研究の基盤を作り、同時に史資料の体系的な収集や利用のための環境を構築する。史料群を地域社会全体を表す縮図と捉え、これを体系的・俯瞰的に研究することによってイスラーム地域の重層的な像を解明することを目的とする。

具体的には次の 3 つを柱とした研究活動を行う。

1. 現地語史資料の体系的収集
2. 文献情報ネットワークの構築
3. 文書史料による比較制度研究
4. 上記 3 を推進する上で、原典資料講読に関わる 2 つの研究ユニットを発足させる

[研究実施概要]

a) 研究会開催

文書史料による比較制度研究では、近現代を含む文書史料（とりわけイスラーム法廷文書）をもとに、その地域間比較を通してイスラーム地域の社会制度・社会関係の研究を推進している。国内の機関で進行中の文書研究プログラムと連携して、中央アジアの文書については研究会 1、セミナー 1、オスマン朝期の文書については研究会 3、セミナー 4、ワークショップ 1、講演会 1 をそれぞれ開催し、イスラーム地域研究上智大学拠点ユニット 2 との連

携による「東南アジアのキターブ目録作成勉強会」は3回開催された。また、原典翻訳を目的とする「シャリーアと近代:オスマン民法典研究会」及び「オスマン帝国史料の総合的研究」の二つの研究班が発足し、それぞれ5回の研究会を行った。

b) 東洋文庫拠点収集資料 DB 公開

2008年4月より東洋文庫拠点収集の現地語資料DBを拠点サイトにて公開した。本DBは多言語に対応しており、アラビア文字及び翻字(ローマ字)いずれでも検索が可能である。2009年2月現在、1,430件を公開している。

c) 文献情報ネットワークの構築・拡充

1. 「日本におけるアラビア文字資料の所蔵及び整理状況の調査」出版
2. 日本における中東イスラーム研究目録補遺DBの編集・公開(日本中東学会との連携)

d) 海外派遣(調査および資料収集): 3名派遣

1. ウズベキスタンにおけるイスラーム法廷文書の調査及び撮影作業(2008年8月22日～9月5日)

派遣先: ウズベキスタン 被派遣者: 磯貝健一(研究分担者)

2. トルコ・クロアチアにおける資料収集・資料調査・学会出席(2008年8月11日～9月11日)

派遣先: トルコ・クロアチア 被派遣者: 澤井一彰(研究協力者: 研究班「オスマン帝国史料の総合的研究」)

3. 大英図書館における資料調査(2008年9月20日～9月27日)

派遣先: イギリス 被派遣者: 柳谷あゆみ

e) 海外招聘: 3名招聘(うち1名はイスラーム地域研究早稲田大学拠点総括班予算による)

1. ダマスカス歴史文書館館長オベイド・ガッサーン氏

滞日期間: 3月11日～3月19日

2. オスマン文書史料研究者ジェマル・カファダル氏及びギュルル・ネジプオウル氏(ハーヴァード大学)

滞日期間: 3月18日～3月28日

3. オスマン文書史料研究者ネッリー・ハンナ氏(カイロ・アメリカン大学):

※総括班予算による

滞日期間: 12月18日～1月19日

f) 現地語史料の体系的収集

ペルシア語 図書321冊 雑誌61冊 アラビア語 図書1,209冊 雑誌11冊

(2) 現代中国研究資料室

「現代中国研究資料の収集・利用の促進と現代中国資料研究の推進」

中国研究に関するウェブやデータベースに関する情報を交換し、研究者の知見を広めるために、国内外の研究者・実務家を招いての国際シンポジウム及び小規模なワークショップを開催する。また東洋文庫所蔵及び新規収集の一次資料に基づいた共同研究会を継続して開催し、資料の読解能力を高め、若手研究者の養成をはかる(年数回)。また、データベースや文献資料以外に、現代史研究に必要な資料の史料学的研究を進めるセミナーなどを開催する。

[研究実施概要]

a) 中国語資料の体系的収集と、収集資料の研究

昨年度に引き続き地方史資料(『民国珍稀短刊断刊』シリーズ計 82 冊)や、教育関係資料(現在中国で使われている教科書や指導書等、語文・歴史地理科など計 168 冊)、中華人民共和国初期の政治資料(『中共重要歴史文献資料彙編』計 26 冊)などを収集した。

資料収集については、資料の価値などを検討する史料学的検討が不可避であるが、映像史料については、5 月 16 日に NHK 放送文化研究所の長井暁氏を招き、ワークショップ「中国における映像アーカイブと中国研究への応用」を開催した。口述資料については、6 月 21 日にワークショップを開催した。ともに参加者 30 名以上を数え、非常に盛況であった。

また、中国における地方史資料の収蔵・公開状況の調査のために、大澤研究員が 8 月 21 日から 9 月 3 日にかけて浙江図書館や紹興図書館(中国浙江省)を訪問し、当地の館員と意見交換などを行った。この他、若手研究者を中心とした資料研究会を 5 回ほど開催した(1 回は教育資料関係、4 回は 50-60 年代資料関係)。

b) 資料収集・資料情報の共有面での分担・協力の推進

昨年度に引き続き、資料のデジタル化と NACSIS-Wbcats への登録を推進している。前者については、総合電子図書館システムの一部を構築するとともに、さまざまな条件で画像資料のデジタル化実験を行い、その時間・金銭コストなどのデータを収集した。後者については、2003 年以降収集した現代中国関係の中国語書籍 274 タイトル、及び近代中国研究委員会収集日本

語雑誌 151 タイトルについて、所蔵登録・書誌作成などを行った。

c) ネットワーク化と収集資料の整理・公開についての研究

事業のネットワーク化のため、春期に開催した2回のワークショップでは、外部からの招聘に力を入れた。特に、6月のワークショップ「オーラルヒストリーと中国現代史研究—技法・記録・語り—」はNIHU中国研究コロキウムとして、早大拠点、東大拠点、慶大拠点、地球研拠点から、社会学等さまざまな専門を持つ報告者・コメンテーターを招聘した。

また本資料室の事業を対外的に発信するために、6月に大澤研究員がウランバートルで開かれた国際会議に出席し、日本におけるアジア歴史資料のデジタル化について報告した。

E. 受託研究

「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」

(イスラーム地域研究資料室委託業務)

本委託業務の目的は、ネットワーク型共同研究「イスラーム地域研究」の発展によって、グローバル化した現代のイスラーム理解を深化・向上させ、その成果を学界及び広く社会に還元すべく国際的な広がりを持つ新時代の共同研究拠点を構築することにある。また、共同研究実施にあたり、国内では公募研究を通じて幅広い人材の参加を促進し、国際的には研究者の協力のネットワークの強化を行い、さらに研究支援組織としても管理業務環境を整備・強化した事務体制を構築する。

財団法人東洋文庫では、イスラーム地域研究の史資料センターとしての役割を果たすべく、史資料の収集・利用の促進と、イスラーム史資料学の開拓に関わる研究開発を実施する。

[研究実施概要]

- a) イスラーム地域の史資料の収集・整理・利用に関わる研究活動のさらなる発展と、集中的な史資料収集および資料整理・データベース入力事業を強化するために、活動環境を整備した。今年度は「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」の遡及入力事業を実施した。また、中東諸言語の辞典、当該地域の研究文献目録、地図等の参考図書を購入した。
- b) 研究情報の電子媒体による成果の発信のために、ウェブサイトを公開した。ウェブサイトのアドレスは、<http://www.tbias2.jp/> である。
- c) 公募研究事業「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の展開：オスマン朝治

下において作成された帳簿群を中心として(3年間)」「(研究申請者:高松洋一(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授))を実施した。2008年11月から2009年3月にかけて研究会を4回開催し、研究事業の構想について検討するとともに初期的な研究報告を得た。また、2009年1月から2月にかけて、研究者をエジプト・アラブ共和国およびトルコ共和国に計2名派遣し、資料調査を行った。海外研究者を1名招聘し、国際ワークショップおよび東京大学東洋文化研究所との共催講演会を開催した。

F. 日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究

(1) 研究成果公開促進費(データベース等)の対象事業

「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」

[東洋文庫電算化委員会委員長: 斯波義信]

分野: 東洋学全般

本プロジェクトは、東洋学に関する世界5大機関の一つに数えられる研究所・図書館である(財)東洋文庫が80年にわたり収蔵してきた言語種類50数種、部数約500,000件、冊数約1,000,000冊におよぶ大量の多言語資料を、書誌データのみならず、画像・地図などの画像資料、Video・DVDなど動画資料をふくむマルチメディア・データのレベルまで拡大してデータベース化し、これをインターネットを通じて、内外の研究者が自由に検索できるようにすることを目指している。

書誌データは1994年に入力を開始して以来、約15年を経て、600,000件に到達し、完成の目途がついてきた状態にあり、これを踏まえて、2004年度以降はデジタル撮影の手法によるマルチメディア・データの構築に重点を移した。従来、岩崎文庫・モリソン文庫・梅原考古器物などは、マイクロフィルムによる複製保存を行ってきたため、現在まで約6,000件、1,000,000コマを越える貴重書フィルム(35mm)を所蔵している。これをスキャナーにより画像をとりこみ、全頁データベースとして公開してきた。また、地図・絵画・貴重書全頁データについては、最新技術によるデジタル撮影により精度の高い画像データベースを構築してきた。さらに1970年代以来、中国の現地調査で得られた「農村の祭祀と演劇」に関するVideo資料を動画データベースとして公開する計画も一部実行してきている。これらの努力の結果、2002年度において毎月2000件であったアクセス数は、2008年9月末の段階で、当初の50倍、100,000件に到

達した。今後は、書誌データについては、分類による検索を付加して、利用者の検索を容易にし、画像データについては、引き続きデジタル撮影を継続して、その量的拡大とメタデータの充実をはかる。また、動画については、まだ緒についたばかりであるので、一層の充実を目指す。

[研究実施概要]

a) 書誌データ・ベースの補充

漢籍のうち、洋装本の漢籍データを順次に入力して補充した。

b) 貴重書・稀覯書の画像データの作成

貴重書、稀覯書のうち、特に貴重なものおよび全頁データをカラーのデータで Web サイトに挙げた。

1. 画像データ

1) 日本近世の彩色絵画 マイクロ撮影・デジタル化

2) 日本・中国の彩色版画(浮世絵・小説挿絵など) マイクロ撮影・デジタル化

2. 全頁データ

1) 稀覯古本洋書 マイクロ撮影・デジタル化

2) 古典籍善本 マイクロフィルムからのスキャナーによる取り込み

3) モリソン・パンフレット撮影(入力準備)

c) 動画データ

1. 香港正一派道士太平清醮儀礼

2. 香港正一派道士洪朝儀礼

(2) 基盤研究(B)の対象事業

①「古代インドの環境論」

[研究代表者：原 實]

(基盤研究(B)、2006年度採用、4ヶ年間・最終年度)

科学技術、機械文明の発達は反面自然破壊を結果し、近年生態系の変化や地球の温暖化が問題視され、人間とそれを取巻く自然環境との共存が識者の注意を喚起しているが、この問題が古代インドにおいてどのように考えられていたかを見直そうとするのが本研究の目的である。

インドには古くから「不殺生」の思想があり、それは仏教の「山川草木国土悉有仏性」「草木国土悉皆成仏」の教義を通じて我が国にも伝えられた。その思想的背景をより体系的に検討する為に、この視点から梵文原典や漢訳仏典を詳細且つ綿密に検討し直す必要がある。

研究代表者は先ず現在古代インド乃至仏教の環境問題に関心を寄せている欧州の有力な学者を訪ねその教示を得つつこの研究に国際性を持たせ、その水準に於いて同様の諸氏の協力の下、この研究を進めている。

[研究実施概要]

- a) 2008年6月、10月と2009年2月に計三回の合同研究会を開催した。又、2008年9月5日には午後2時30分より2時間に亘り、第59回日本印度学仏教学会学術大会のパネル討論会に参加し、「仏教環境論と現代」の題名の下に6人の本研究代表者と連携研究者・研究協力者が講演を行った。
- b) 研究代表者は、国際学士院連合の年次総会出席のため、ベルギーのブリュッセルに出張し、この機会にドイツのミュンヘン大学に赴いて、当地の大学関係者と研究討論の機会を持った。
- c) Bewusstsein und Wahrnehmungsvermögen von Pflanzen aus hinduistischer Sicht (ヒンズー教の植物の意識と知覚能力) その他の論文を公表し、Der orientalische Mensch und seine Beziehungen zur Umwelt (東洋における人間と環境) の問題に少なからぬ関心を寄せている Halle 大学の W. Slaje 教授を招聘し、討論会を開催した。
- d) 4カ年の研究の成果を「古代インドの環境論」としてとりまとめた。

②「宋代社会経済史語彙解釈のデータベース化」 [研究代表者：斯波義信]
基盤研究(B)、2007年度採用、3ヶ年間・第3年度目)

本研究は、中国社会経済史用語の電子辞典化を目的とする事業である。本研究ではその基幹の作業として宋代に関する用語を選定し、分析・解説を施し、データベース化を図るものである。

東洋文庫では中国経済史の基本資料に当たる13種の歴代正史の食貨志(経済・財政記録)の詳しい訳注を作成してきた。このうち、最も大部な『宋史』食貨志篇についての訳注成果は逐次刊行の結果、2005年度に全6巻の完成をみ、通巻の索引も作成した。同じく宋代の根本資料たる『宋会要輯稿』食貨篇については、年月日・詔勅、人名・書名、職官、地名の各用語索引を順次刊行し、残りの経済・社会・法制・文書・難読語彙等についてもそのデータベースを構築し、その中の社会経済用語については、『宋会要輯稿 食貨篇社会経済用語集成』として刊行した。

このような成果をもとに、『宋史』および『宋会要輯稿』の食貨篇から採録した用語(前者約1万語、後者約9万語)について、用語とその解釈を選定集成するとともに、それに組織的な分類を施しつつ編纂し、電子化することを企

図している。

[研究実施概要]

- a) 岡野一朗『支那経済辞典』ほか、電子化された各種文献を整理・統合して各語彙にコード・サブコードを付し、解説執筆作業を行った。
- b) 昨年度刊行した『宋会要輯稿 食貨篇 社会経済用語集成』を補完するため、『宋会要輯稿』刑法篇からも関連用語を採録するとともに、食貨篇中より既に採録済みの法制・文書・難読語彙についても、社会経済事象の解明に資する方向で採録の対象に加え、解釈を付した。

(3) 基盤研究(C)の対象事業

「敦煌・トルファン漢語文献の特性に関する研究」 [研究代表者：土肥義和]
(基盤研究(C)、2005年度採用、4ヶ年間・最終年度)

本研究の目的は、旧来、中国の中央で編纂された漢語史料を中心に進められてきた敦煌・トルファンなど内陸アジア諸地域の諸民族の歴史を、現地で作成された生の漢文文書を分析することによって、諸民族の歴史の実態を新たに研究することにある。これに関連して、近年東洋文庫が microfilm で入手したロシア科学アカデミー東方学研究所サンクト・ペテルブルク分所の漢文文書がどのような特質をもっているかについて、書誌学的、あるいは古文書的な整理と研究を行う。このために、本年度は、「サンクト・ペテルブルク東洋学研究所所蔵漢語文献 microfilm (107 リール) 文献番号・コマ数対照表」をデータベースとして作成すること、及びそれらを共同で利用・研究する研究者組織をつくることを目的とする。

[研究実施概要]

- a) 研究協力者(荒川正晴・池田温・石塚晴通・氣賀澤保規・妹尾達彦・関尾史郎の諸氏、及び石田勇作・伊藤敏雄・伊藤美重子・石見清裕・張娜麗・西本照真・町田隆吉の諸氏)とともに、ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルク分所の漢文文書から新しく抽出した未公開文献を、それぞれの分野から評価する検討会議を開催した。
- b) サンクト・ペテルブルク東洋学研究所所蔵敦煌等漢語文献 microfilm (107 リール) 中、Д x 及びΦなどの文献番号が付された40リールの「文献番号・コマ数対照表」データベースについて最終校正作業を完了させた。
- c) 個別研究として、研究代表者は、昨年度に引き続き、唐代均田制の実施状況を明らかにするために、田土の還受問題(還受否定論対還受肯定論)に

焦点をあてて研究をすすめるとともに、敦煌発見の漢語文献の特性について、敦煌仏教教団の写経事業を中心に検討した。研究分担者は、昨年度に引き続き、敦煌・トルファンなど内陸アジア出土の文献からソグド人その他の関係文献の年代論やグルーピングを試み、また海外調査の成果から物価文書に見える胡漢の物品を再考し、胡漢雑居の実態について検証した。

- d) 4ヶ年の研究の成果を「敦煌・トルファン漢語文献の特性に関する研究」としてとりまとめた。

(4) 外国人特別研究員奨励費の対象事業

「オスマン都市の自治的行政組織－タンジマート期以前のアレppoー」

[申請者：Stefan KNOST (学振外国人特別研究員)、研究代表者：三浦 徹]
(2006年度採用、3ヶ年間・最終年度)

イスラーム世界の都市はヨーロッパ都市のような自治制度をもたないとされてきたが、街区における宗教施設や寄進に着目し、法廷文書や寄進文書をもとに、寄進者、寄進財産の運用と管理、それにかかわる行政官、街区の名士などの役割を分析することによって、街区の宗教施設や寄進財産が、地域住民に公的なサービス(集会場、水道、浴場など)を提供し、街区が自治団体として機能していたことを実証的に検証する。イスラーム法廷文書とワクフ(寄進)関係文書から、上記の目的にそったデータベースを作成し、シリアの2都市(アレppo、ダマスカス)を対象とし、都市社会組織についての比較研究を、特別研究員と受入研究員が共同して行い、オスマン朝時代の都市の社会組織について、街区のもつ自治的役割をあきらかにする。

[研究実施概要]

- a) 現地での文書史料調査を実施し、結果を踏まえつつ前年度の検証をさらに発展させた。具体的には、①隣人共同体のイマーム②隣人ワクフ③隣人モスクの三つがタンジマート期以前アレppoの行政において枢要をなしていたとの仮説のもとに、文書史料および文書史料データベースを用いてこの精査を行い、論文9件を発表し、また海外の2国際会議にて成果報告を行った。
- b) オスマン朝社会史研究者アストリド・マイヤー氏の訪日及びワークショップ開催などオスマン朝社会史研究、文書研究の分野で海外研究者との研究交流の活性化が実現された。

G. その他民間学術助成金による調査研究

三菱財団人文科学研究費補助金の対象事業

- ①「中国社会経済史用語解釈（宋代篇）作成の研究」〔研究代表者：斯波義信〕
（2005年10月～2008年9月・3ヶ年間・最終年度）

中国社会経済史の研究が興って約100年に近いが、この研究の基礎前提をなす漢籍史料の校訂・読解および必要情報の抽出という作業段階において、これを容易にする専門的な辞書・用語解がまだ整っておらず、研究の推進や普及を困難にしている。中国社会経済の用語は、用例・用法ごと、時期・地域ごとに多義かつ複雑であるのに、専門辞書が皆無にちかく、詳細な漢和辞典においてもまれにしか掲載していない。本研究はこれを打開するため、これまでに蓄積された用語知識を集成してデータベース化しつつ、研究者が常備使用できる用語解を作成することをめざし、とりあえずこれを宋代史について実施する。

東洋文庫では、創立当初からの継続事業の一つとして、中国经济史の基本史料に当たる13種の歴代正史食貨志（経済・財政記録）の詳しい訳注を作成してきた。このうち最も大部で、しかも元・明・清時代の制度や実体のルーツを記録する『宋史』の食貨志篇について、その訳注を逐次刊行し2005年度にその完成を見るに至った。

そこで、これまでに蓄積された用語解釈を選定集成し、国内及び海外の宋代社会経済史の研究者が常時必携参照し、研究全体の推進に資すべき用語解の編纂を計画した。用語の選定範囲は基本的には『宋史』食貨志篇の各章とするが、各章の記述の源泉をなす『宋会要輯稿』食貨篇の語集索引（現在同時推進、刊行中）及び専門学術書中の附註なども広く参照し、また各語彙の用例、用法、典拠史料、時期別、地域別の限定も付し、要するに実用的な辞書機能を帯びた用語解釈の集成を行なうものである。この企画を実現し、さらに将来その成果を日本文・英文で刊行することに至れば、中国社会経済史の研究の推進と解釈の深化が大いに期待される。

- ②「清代諸領域の歴史的構造分析：総合研究

—清代東アジア・北アジアにおける政治・社会・経済・民族・文化の展開—

〔研究代表者：石橋崇雄〕

（2006年10月～2009年9月・3ヶ年間・最終年度）

西欧による世界の一体化が進展する時代と重なりながら、東アジア・北アジアには清朝による大規模な統合が実現した。しかも清朝の統合が現在の中国の領域を形成する軸となっているが、それは単に清朝の領土を継承したというだけにとどまらず、その政治・社会・経済・民族・文化の展開をも継承していることに大きな特徴がある。これらは全て、現在の中国分析に直結する研究課題であるが、その総合的な研究については未だ充分とはいえない現状にある。本プロジェクトは、中国内地の諸領域世界とその国家領域構造と対外関係を総合的に分析することによって、現代中国に直結する新たな清朝の総合的な歴史像を提示することを目的とする。その際、従来その歴史的な意義について十分に言及されてこなかった、1932年に中国東北部で造られた満洲国の位置付けの問題や、現在の中国における自治区・民族問題と清朝史との関わりについても、新たな具体像を提示したい。

③ 「モリソン・パンフレット」資料集の学際的研究

— 中国をめぐる近代極東史の一次資料の解析 —

[研究代表者：斯波義信]

(2008年10月～2010年9月・2ケ年間・初年度)

東洋文庫の蔵書の中核のひとつ、「モリソン文庫」には、「パンフレット」と称する7,200件の膨大な一次資料群が含まれている。これは、G.E. モリソン氏(1862-1920)が、英国の“タイムズ紙”の極東在住特派員(1885-1912)、ついで民国総統府外国人顧問(1912-1920)であった時に収集した資料であり、華北・満蒙・朝鮮・日本・華中南から雲南・メコン流域にわたる政治・外交・軍事・内乱、経済金融、貿易、法制度、社会文化の諸情勢について、極東の政情の推移のみならず、国際的に入り組んだアヘン問題、義和団事変、日露戦争、対中借款、国際通商などを解析する上で鍵となる貴重な情報源に満ちている。しかし、資料内容の目録整理に時日を要した(1974年刊)ほか、相互参照に供すべき関連諸国の同時代資料が公開されたのも近年に属し、さらに総合分析のための学際・国際研究の学術体制もようやく近年になって整うに至ったため、資料の分析は未着手のままであった。

本研究は、この貴重でありながら活用のための整備がおくれてきた「モリソン・パンフレット」に焦点をあて、その利用を促進するための基礎作業である。この文書集がカヴァーする清仏・日清戦争、義和団事変、日露戦争から光緒新政、袁世凱・北洋軍閥政権にいたる政治過程およびその間の国際的な政治・経済・社会の動態の詳細に通じる学際研究者のチームをここに組織し、各研究者の

テーマに照らして「パンフレット」中の資料を検討し、同時に今日相互参照できる諸外国保有の同時代資料も動員して、新しい知見・解釈を内外の学界に提供し、もって「パンフレット」の学術的な価値を拾い利用に供する事をめざす。

「モリソン・パンフレット」が伝える19世紀末から20世紀初頭にかけての新旧体制の葛藤は、奇しくも「改革開放」への移行から四半世紀を経過している現在の中国の状況と酷似するところが多い。この断続と持続の矛盾・葛藤の本質を探り、この問題への適切な歴史的パースペクティブを備える上で、「モリソン・パンフレット」が提供する詳細かつ直接的な情報群は、不可欠な資料の集合体であり、本腰を入れた研究を発足させることが焦眉の急である。

H. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員	研究課題
青山 瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉 淳	オスマン帝国末期の社会及び制度
浅野 秀剛	日本版画美術の研究
天児 慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井 政美	トルコ近代史
荒川 正晴	中央アジア古代史
飯尾 秀幸	中国古代国家史
飯島 武次	殷周時代の考古学研究
池田 温	中国中古史、前近代東亜文化交流史
池田美佐子	エジプト近現代史
池田 雄一	中国古代社会史
伊香 俊哉	日本近現代史、戦争責任研究
石井 米雄	タイ史・三印法典の研究
石塚 晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋 崇雄	清朝政治史
磯貝 健一	イスラーム期中央アジア古文書研究
市古 宙三	太平天国及び中国共産党の研究
井上 和枝	李氏朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
井上 和人	東アジア古代都城制度の比較研究
今西祐一郎	源氏物語を中心とした平安時代文学の研究
上野 英二	平安朝文学の研究

内田 知行	中華民国社会史
内山 雅生	近代中国華北農村經濟史
梅田 博之	現代朝鮮語の記述的研究
梅原 郁	宋元時代の法制制度の研究
梅村 坦	ウイグル民族誌、内陸アジア史
大江 孝男	現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究
大河原知樹	19-20 世紀シリアの社会史・政治史
大澤 肇	近現代中国における学校教育史
大澤 正昭	唐宋時代社会史
太田 信宏	南インド近世史
太田 幸男	秦墓竹簡の研究
大谷 俊太	室町・江戸時代文学の研究
岡田 英弘	アジア史
丘山 新	中国仏教資料研究
小川 裕充	中国絵画資料研究
奥村 哲	中国近現代史
小名 康之	インド・ムガル朝史
風間喜代三	印欧語の比較言語学的研究
粕谷 元	トルコ現代史
糟谷 憲一	18-19 世紀朝鮮政治史
片桐 一男	日蘭文化交渉史の研究
片山 章雄	中央アジア古代史
片山 剛	明清時代広東における族譜研究
加藤 直人	清朝の民族統治政策・清代档案史料の研究
加藤 弘之	地域開発の現状と政策に関する実証研究
金丸 裕一	中国政治經濟史・日中関係史
辛島 昇	南アジア史
川井 伸一	中国企業研究
川崎 信定	チベット仏教の研究
川島 真	近代中国外交史
菊池 英夫	唐宋時代の行政および法制の研究
貴志 俊彦	通信とメディアをめぐる東アジア地域史
岸本 美緒	明清時代地方社会史
北本 朝展	文献のデジタル・アーカイブ化

金 鳳 珍	東アジアの歴史・思想・国際関係
草野 靖	宋代税財政史
楠木 賢道	清初の「民族」関係
久保 亨	中国近現代史
窪添 慶文	魏晉南北朝時代史
熊本 裕	イラン語史の研究
黒田 卓	近現代イラン史
氣賀澤保規	魏晉南北朝隋唐時代の政治社会文化史
巖 善平	中国の三農問題
胡 潔	和漢比較文学の研究・比較家族史の研究
黄 東 蘭	近代日中関係史
興 梶 一郎	現代中国論、中国現代史
小嶋 芳孝	渤海文化の考古学的研究
小杉 泰	現代イスラム政治の研究
後藤 明	イスラム社会と政治の研究
小南 一郎	中国藝能史研究
小浜 正子	中国近現代都市社会史
小松 久男	中央アジア近代史
早乙女雅博	東アジア考古学の研究
斉藤真麻理	中世日本文学の研究
酒井 憲二	日本語の史的研究
桜井由躬雄	ベトナム史
佐藤 慎一	中国近代政治史資料研究
佐藤 次高	西アジア・イスラム史
佐藤 宏	農村経済社会の長期変動
塩沢 裕仁	中国古代歴史地理研究
重近 啓樹	秦漢社会経済史
設楽 国広	オスマン帝国末期政治史
薮 勇造	南アラビア古代史
斯波 義信	中国社会経済史
嶋尾 稔	ベトナム史
清水 宏祐	セルジューク朝時代イランの研究
清水 信行	古代の日本・大陸交流史
志茂 碩敏	13・4世紀モンゴル政権中枢・中核の研究

庄垣内正弘	チュルク語の研究
新免 康	中央アジア史
末成 道男	東アジア社会人類学
須川 英徳	高麗・朝鮮時代の商業
杉山 正明	モンゴル帝国史
鈴木 均	イランおよびアフガニスタンの地域研究
鈴木 博之	徽州民間祭祀の研究
鈴木 立子	元朝社会経済史
砂山 幸雄	現代中国思想・文化・政治体制
妹尾 達彦	中国古代・中世都市史
關尾 史郎	敦煌・トルファン文書研究
関本 照夫	東南アジア伝統工芸業の研究
曾田 三郎	中国近代政治・社会史
高田 幸男	長江下流域の地域社会・エリート・教育団体
瀧下 彩子	近現代中国文化史
武内 紹人	古代チベット語の歴史言語学的研究
武田 幸男	朝鮮古代・近世史
田島 俊雄	中国農業・農家の経済計算と所得分配
多田 狷介	漢魏晋史
立川 武蔵	チベット密教教理の研究
田中 明彦	現代東アジア国際政治の研究
田中 一成	中国演劇史
田中 時彦	日本の政治的近代化の研究
C. A. ダニエルズ	清代社会経済史、中国技術史
田村 晃一	東北アジアの考古学研究
竺沙 雅章	中国仏教文化史
千葉 熨	宋代宮廷史
辻本 裕成	中古・中世日本文学の研究
土田 哲夫	1920～40年代の中国政治・外交史
鶴見 尚弘	明・清時代社会経済史
寺田 浩明	中国明清法制史
唐 亮	現代中国政治史の研究
戸倉 英美	中国古典文学資料研究
枋尾 武	和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究

土肥 義和	西域出土漢文文書の研究
富澤 芳亜	中国近代経済史
鳥海 靖	日本近現代史
中兼和津次	現代中国経済・移行経済の研究
長沢 栄治	近代エジプト社会経済史
永田 雄三	オスマン帝国社会経済史
永積 洋子	日本近世対外交渉史
中見 立夫	清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
並木 頼寿	中国近現代史
西尾 寛治	マレーシア・インドネシア近世史
西田 龍雄	チベット・ビルマ語派の研究
延廣 眞治	江戸・明治の文芸
萩田 博	ウルドゥー語学・文学の研究
長谷川誠夫	宋代官僚制の研究
八尾師 誠	20世紀初頭のイランにおける立憲革命の研究
花田 宇秋	正統カリフ・ウマイヤ朝史
濱下 武志	中国近現代史
濱島 敦俊	中国近世社会経済史
濱田 正美	中央アジアにおけるイスラーム研究
林 佳世子	オスマン朝期中東社会史
林 俊雄	中央ユーラシア史・草原考古学の研究
原 實	インド古代文学の研究
原山 隆広	アッバース朝末期政治史
平勢 隆郎	中国考古資料研究
平野健一郎	近代東アジア国際関係論
平野 聡	中国党支配(国民党・共産党)の史的研究
弘末 雅士	インドネシア宗教社会史
廣瀬 紳一	漢字文化圏電子情報学の研究
深澤 眞二	連歌・俳諧の研究
藤田 忠	中国古代政治・社会史
藤本 幸夫	朝鮮本研究
古田 和子	情報・流通ネットワークの歴史的分析
古屋 昭弘	中国語史
弁納 才一	近現代中国農村経済史

細谷 良夫	清朝政治史
堀川 徹	中央アジア文書研究
本庄比佐子	近現代日中関係史
松重 充浩	近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史
松永 泰行	現代イランの政治・宗教及びシーア派研究
松濤 誠達	インド古代神話学の研究
松丸 道雄	殷周金文の研究
松村 潤	東北アジア民族史
松本 弘	イエメン地域研究、エジプト近代史、現代中東政治
丸川 知雄	中国の産業集積および日中経済関係
三浦 徹	イスラム都市社会史
水野 善文	古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学
三谷 孝	近現代中国の秘密結社研究
御牧 克己	チベット宗義書の研究
宮崎 修多	近世近代漢詩文の研究
村井 章介	日本中世を中心とする東アジア文化交流史
村田雄二郎	中国近代ナショナリズム、改革開放期の文化問題
毛里 和子	現代中国政治・外交及び東アジア国際関係
本野 英一	清末民初における対外経済関係
靱山 明	中国古代法制史・辺境史
森平 雅彦	朝鮮中世・近世史
森安 孝夫	古代ウイグル文書の研究、中央ユーラシア古代中世史
柳澤 明	清代外交史・民族関係史
柳田 征司	日本語の歴史的研究
柳谷あゆみ	中世イスラーム政治史、イスラーム地域資料研究
矢吹 晋	近現代中国経済
山内 弘一	李朝史、朝鮮儒教研究
山内 民博	朝鮮後期郷村社会史研究
山口 瑞鳳	チベット史、チベット語文法、チベット仏教研究
山崎 元一	インド古代史
山本 英史	17-19 世紀中国社会構造の研究
山本 毅雄	東洋学研究資料のデジタル・アーカイブ化
吉田 寅	中国塩業史
吉田 伸之	日本近世都市社会史

吉田 光男	朝鮮近世史
吉田 豊	ソグド語及びソグド語文献の研究
吉水千鶴子	インド・チベット仏教思想史の研究
吉村慎太郎	イラン近現代史
六反田 豊	朝鮮中世・近世史
和田 恭幸	仮名草子および近世通俗仏書の研究
渡辺 紘良	宋代社会史

(全 198 人)

2. 研究資料出版

プロジェクト研究および基礎研究では、中国語・朝鮮語・満州語・ウイグル語・アラビア語・ペルシア語・トルコ語など、アジア諸語で記された文書・写本・刊本・地図などを用いて研究を行い、その成果を東洋文庫和文紀要・欧文紀要に掲載するとともに、和文・欧文の研究叢書（「東洋文庫論叢」・「東洋文庫欧文論叢（TBRL）」）、訳注書、書誌解題などを単行本として出版する。これらの成果は、現代アジアの諸問題の解明に寄与するばかりでなく、国際的な発信を通じて国内外に大きな刺激をあたえ、アジア研究のさらなる進展に貢献するものである。

A. 定期出版物刊行

- | | | |
|---|-----------------|----------------|
| (1) 『東洋文庫和文紀要』(東洋学報)第 90 巻第 1-4 号 | A5 判 | 4 冊 (刊行済) |
| (2) 『東洋文庫欧文紀要』(<i>Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko</i>) | No.66 | B5 判 1 冊 (刊行済) |
| (3) 『近代中国研究彙報』 | 第 31 号 | A5 判 1 冊 (刊行済) |
| (4) 『東洋文庫書報』 | 第 40 号 | A5 判 1 冊 (刊行済) |
| (5) 『超域アジア研究報告』 | 第 5 号 | B5 判 1 冊 (刊行済) |
| (6) <i>Asian Research Trends</i> | New Series No.3 | A5 判 1 冊 (刊行済) |

(7) 『東洋文庫年報』平成 19 年度版

A5 判 1 冊 (刊行済)

B. 論叢等出版

(1) TBRL10 *The Changing Self Image of Southeast Asian Society during the
Nineteenth and Twentieth Centuries*

B5 判 1 冊 (刊行済)

(2) TBRL11 *Development of Parliamentarism in the Modern Islamic World*

B5 判 1 冊 (刊行済)

(3) 『前近代中国の法と社会—成果と課題—』

B5 判 1 冊 (刊行済)

(4) 『内国史院檔 天聰八年 (本文編、索引・図版編)』

B5 判 2 冊 (刊行済)

(5) 『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』

B5 判 1 冊 (刊行済)

(6) 『中近世日本とオスマン朝に見る国家・社会・文書』

A5 判 1 冊 (刊行済)

(7) 『戦前期華北実態調査の目録と解題』

B5 判 1 冊 (刊行済)

(8) 『日本所在朝鮮近世記録類解題』

B5 判 1 冊 (刊行済)

(9) 『宋史食貨志訳註 (一)～(六) 語彙索引』

A5 判 1 冊 (刊行済)

(10) 『東洋文庫年報』平成 19 年度版

A5 判 1 冊 (刊行済)

C. 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報 第 89 巻 4 号	330 部
東洋学報 第 90 巻第 1-3 号	330 部
東洋文庫欧文紀要 Vol.65	50 部
TBRL9 <i>Memorial OJIHARA Yutaka-Studia Indologica</i>	30 部
宋会要輯稿食貨社会経済語彙	100 部
水経注疏訳註	100 部
トルコにおける議会制の展開	30 部
近代中国研究彙報 第 30 号	50 部
東洋文庫書報 第 39 号	20 部
東洋文庫年報 平成 19 年度	10 部

3. 研究情報普及

A. 講演会

(1) 東洋学講座

(春 期) 共通テーマ『三国志』の世界を語る

第 505 回 2008 年 5 月 13 日(火)

「陳寿撰正史『三国志』の世界」

東洋文庫研究員

日本女子大学名誉教授 多田 獺 介 氏

第 506 回 2008 年 5 月 20 日(火)

「三国時代の戦場」

東洋文庫研究員

立正大学教授 窪 添 慶 文 氏

第 507 回 2008 年 5 月 27 日(火)

「地下史料から見る『三国志』」

中央大学准教授

阿 部 幸 信 氏

(秋 期) 共通テーマ「越境するイスラームーヨーロッパ・日本・中国ー」

第508回 2008年9月22日(月)

「ヨーロッパに根づくイスラーム」

一橋大学教授

内藤正典氏

第509回 2008年9月29日(月)

「日本に暮らすムスリムたち」

早稲田大学教授

桜井啓子氏

第510回 2008年10月6日(月)

「中国におけるイスラームーウイグル人を中心にー」

東洋文庫研究員

中央大学教授

新免康氏

(2) 特別講演会

6月27日(金)

「オスマン朝期アレppoにおける都市空間と地域自治」

日本学術振興会外国人特別研究員 KNOT, Stefan 氏

7月3日(木)

「宋代史の諸問題ー寧波の家族史をめぐってー」

中央研究院歴史語言研究所教授 黄寛重氏

12月9日(火)

「ウズベキスタンにおけるイスラーム期写本史料の研究：成果と課題」

ウズベキスタン科学アカデミー東洋学研究所副所長

スライヤー・カリーモワ氏

2月4日(水)

「イラン・イスラーム共和国における議会図書館の役割と意義」

イラン・イスラーム議会図書館 国際協力専門官

マジード・サーエリ・コルデデ氏

2月18日(水)

「一欧米学者の東アジア研究 ～私の場合～」

アリゾナ州立大学名誉教授

John Timothy Wixted 氏

2月20日(金)

「唐・宋代“道”“路”区画理念の変遷」

河南大学歴史文化学部教授

賈 玉 英 氏

(3) 研究会(東洋文庫談話会)

3月26日(木)

「モンゴル時代華北における系譜伝承と碑刻」

日本学術振興会特別研究員(PD)

飯 山 知 保 氏

3月26日(木)

「カザフ遊牧民と露清帝国：境界をめぐる考察から」

日本学術振興会特別研究員(SPD)

野 田 仁 氏

3月30日(月)

「ハディース学文献としての地方史人名録:10-13世紀の編纂流行とその背景」

日本学術振興会特別研究員(PD)

森 山 央 朗 氏

3月26日(木)

「オスマン帝国における系譜意識と正統性の創造」

日本学術振興会特別研究員(PD)

小笠原 弘 幸 氏

(4) 各種研究会・講演会開催状況

数量/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会回数	8	11	14	7	3	10	8	11	6	13	10	15	116
参加人数	116	427	219	121	55	157	125	117	51	145	138	166	1,837

B. データベース公開

2008年4月1日～2009年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ（日本語、英語）に対するオンライン検索アクセス件数は、概略、以下の通りである。

区分/2008年4月～2009年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
漢籍資料	1,641	1,537	1,911	2,810	2,895	1,138	2,279	3,444	1,617	2,160	2,786	2,835	27,053
中文・日文・欧文・ロシア新収図書目録	189	42											231
中文図書（含・近中、逐次）	2,157	2,081	2,338	2,962	3,804	1,918	2,894	2,639	1,525	1,251	2,152	2,690	28,411
日本文図書（含・近中、逐次）	2,072	2,188	2,541	2,792	3,763	1,923	2,067	2,405	1,678	2,056	2,311	1,987	27,783
日本関係文献目録（含・近代、岩崎）	1,946	1,437	1,341	1,454	2,379	1,587	1,293	1,440	857	1,053	1,455	2,073	18,315
洋書（欧文図書）目録（含・近中）	1,797	1,547	2,135	1,538	2,886	1,788	1,537	1,884	895	1,132	1,517	1,575	20,231
洋書総合	389	481	748	592	514	260	303	451	322	367	228	266	4,921
アラビア語図書	545	449	473	489	907	590	966	1,015	570	687	863	1,124	8,678
トルコ諸国書（含・オスマン語）	933	530	863	973	1,179	965	708	783	522	361	649	689	9,155
ペルシア語図書	317	366	1,066	493	725	324	639	1,028	642	447	560	744	7,351
チベット語文献（河口・蔵外文献）	410	428	455	744	884	334	380	401	0	155	288	282	4,761
モンゴル語図書・資料	284	346	315	185	239	171	752	738	227	1,121	492	647	5,517
ウイグル語図書・資料	192	129	119	201	137	64	189	220	140	140	185	254	1,970
ビルマ語図書	291	266	245	969	332	187	80	74	25	57	47	177	2,750
タイ語図書・資料	106	48	80	53	108	58	182	139	44	79	139	240	1,276
インドネシア・マレーシア語図書	65	84	165	186	229	76	52	58	19	88	125	197	1,344
中央アジア研究文献目録	318	255	229	386	375	108	121	120	64	29	21	65	2,091
中東イスラーム研究文献目録	1,089	460	731	653	741	254	135	35	51	168	180	222	4,719
アジア歴史研究者ディレクトリ	593	161	294	304	457	218	639	676	261	282	239	306	4,430
全文公開画像 DB								276	234	108	147	200	1,175
画像 DB（梅原考古資料、香港銅版画等）	21,303	47,637	53,101	51,699	55,616	63,717	13,786	15,219	6,888	7,844	8,978	10,923	356,711
動画像資料（香港の祭祀と演劇）	1,380	1,033	1,025	1,186	1,668	798	52,041	50,300	51,312	47,606	52,194	44,332	304,875
その他（南方資料・朝鮮など）	36,433	21,053	22,538	20,607	21,246	24,548	28,225	32,097	31,904	29,651	28,307	26,398	323,007
合 計	74,450	82,558	92,713	91,276	101,084	101,026	109,544	115,400	99,671	96,881	103,916	98,236	1,166,755

C. 研究者の交流および便宜供与のサービス

〈長期受入〉

(1) 国内研究者の受入

光田 剛 (成蹊大学法学部教授)

「アジア革命としての中国革命」

(2009年1月1日～同8月31日・成蹊大学経費)

(2) 2008年度日本学術振興会特別研究員 PD の受入

① SPD

野田 仁 (東京大学大学院 PD)

「カザフ・ハーン国の対外関係史の研究：18～19世紀の清朝との関係を中心に」

(2007年度採用、'08'09年度・3ヶ年間)(2009年3月31日就職のため辞退)

② PD

河原 弥生 (東京大学大学院 PD 見込)

「コーカンド・ハーン国期におけるフェルガナ・ムスリム社会の形成とイスラーム」

(2005年度採用、3ヶ年間 途中中断あり、半年延長・終了)

飯山 知保 (早稲田大学大学院 PD)

「士人層の変遷からみた金元代華北における社会統合と後世華北漢族社会形成の淵源」

(2006年度採用、'07・'08年度3ヶ年間・終了)

小笠原 弘幸 (東京大学大学院 PD)

「オスマン帝国における歴史意識－建国神話に見られる「起源」の記憶と創造の変容－」

(2006年度採用、'07・'08年度3ヶ年間・終了)

森山 央朗（東京大学大学院 PD）

「10～12 世紀の中東におけるウラマーと地方史人名録編纂の社会史的研究」
（2006 年度採用、'07・'08 年度 3 ヶ年間・終了）

吉田 建一郎（慶応大学大学院博士取得）

「近代中国の卵、獣骨、皮革を中心とした畜産品貿易に関する総合的考察」
（2007 年度採用、'08・'09 年度 3 ヶ年間）

橋爪 烈（東京大学大学院 PD）

「支配権喪失後のカリフの権威：軍事政権、アッバース家、ウラマーの視点
による再考」
（2008 年度採用、'09・'10 年度 3 ヶ年間）

（3）外国人研究者の受入

Stefan KNOST（フランス近東研究所）

「オスマン都市の自治的行政組織」
（2006 年 11 月 1 日～2008 年 7 月 7 日・科学研究費補助金）

Christophe MARQUET（極東学院東京支部 代表）

「江戸中期・後期の絵入り本と画譜」
（2004 年 9 月 1 日～2008 年 8 月 31 日・フランス国立極東学院経費）

黄 寛重（中央研究員歴史語言研究所教授）

「中国政治史・社会史」
（2008 年 6 月 10 日～同 7 月 9 日・科学研究費補助金）

彌永 信美（フランス国立極東学院研究員）

「仏教学」
（2008 年 9 月 1 日～2009 年 8 月 31 日・フランス国立極東学院経費）

KATZ, Paul Russell（台湾中央研究院近代史研究所 研究員）

「中国思想史・宗教史」
（2009 年 2 月 9 日～同 2 月 13 日）

侯 甬堅 (中華人民共和國陝西師範大學 教授)

「中国歴史地理学・環境史学」

(2009年3月1日～同3月31日)

〈外国人研究者への便宜供与〉

Canada

楊 曉 捷

Olga Bakich

カルガリー大学 教授

トロント大学

China (Peoples Republic)

巴 特 尔

方 素 梅

包 茂 紅

方 素 梅

趙 水 森

李 凭

楊 偉 兵

葉 爾 達

葉 尔 達

賈 玉 英

劉 小 萌

烏雲華力格

趙 志 強

額日德木図

張 金 龍

内蒙古社会科学院 研究員

中国社会科学院民族学与人類学研究所 教授

桜美林大学 教授

国社会科学院民族学与人類学研究所 教授

洛陽師範学院図書館長

華南師範大学 教授

復旦大学歴史地理研究中心 教授

中央民族大学 教授

中国民族大学 教授

河南大学 教授

中国社会科学院近代史研究所 研究員

綜合地球環境学研究所 教授

北京社会科学院満学研究所 教授

北京中央民族大学 副教授

山東大学 教授

Egypt

Nelly Hanna

Prof., American University in Cairo

German

Orna Almog

Prof., Hamburg University

Netherlands

Matthi Forrer

Chief Researcher,
Leiden National Museum of Ethnology

Russia

Usmanova Larisa

島根県立大学 Teaching Assistant

Saveliev Igor

名古屋大学准教授

Evgeni Robusher

Bilkeut University Prof. Dr.

Dinko Robusher

Bilkeut University

Z.F.Morgun

ロシア極東国立大学 ロシア

Singapore

朱 溢

新加坡国立大学中文系

U.S.A.

John Timothy Wixted

Arizona State University Prof. Dr.

Cemd Kafada

Harvard University Prof. Dr.China

4. 普及・広報活動

東洋文庫では、幅広い層に東洋学の普及をはかるため、下記の諸事業を行っている。

A. 東洋文庫ホームページの運営

東洋文庫ホームページ（和文・英文）の更新を随時行った。

2008年4月～2009年3月までのホームページ全体のアクセス件数は、以下のとおりである（2008年12月のアクセス数はサーバー移行のため、12月1日～24日を除く）。

なお、ホームページ全体のアクセス件数には、東洋文庫図書資料データベース（書誌データ）へのオンライン検索アクセス件数を含む。

数量/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
アクセス数	161,133	140,387	148,391	150,894	149,773	146,034	138,742	162,721	35,157	131,053	160,710	164,329	1,689,324

B. 東洋文庫友の会の運営

- ・広報誌『友の会だより』の発行（年2回／秋・春）
- ・春の特別書庫展示会 2008年4月25日（金）

C. グッズ製作・販売

- ・マウスパッド
- ・カレンダー

5. 研究員等の研究業績

期間：平成20年4月1日～平成21年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編著 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

秋葉 淳

② *Development of Parliamentarism in the Modern Islamic World* (<Sato Tsugitaka, ed.> The Toyo Bunko, 2009, 256p., Akiba Jun, “The Local Councils as the Origin of the Parliamentary System in the Ottoman Empire,” pp. 176-204)、③ “The Practice of Writing Curricula Vitae among the Lower Government Employees in the Late Ottoman Empire: Workers at the Şeyhülislâm’s Office.” (*European Journal of Turkish Studies*, Thematic Issue N°6, no. 6, URL: <http://www.ejts.org/document1503.html>, Revues.org, 2007年[2008年12月])、「オスマン帝国末期リビアにおける司法制度の「オスマン化」」(『東洋学報』90-2、財団法人東洋文庫、2008年9月、027～054頁)、⑦「オスマン帝国における教育と識字—コーラン塾・マドラサ・新式学校」(比較教育社会史研究会2009年春季大会、於：日本大学文理学部、2009年3月29日)、「19世紀オスマン帝国における改革と抵抗—アナトリアの事例から—」(シンポジウム「国民国家形成期の民衆運動と政治文化」人間文化研究機構・アジア民衆史研究会共催、於：明治大学駿河台校舎、2008年11月29日)、「タンズイマート改革初期におけるオスマン帝国の政策決定過程」(日本オリエント学会第50回大会、於：筑波大学春日キャンパス、2008年11月2日)。

荒川 正晴

- ③「遊牧国家とオアシス国家の共生関係—西突厥と麹氏高昌国のケースから—」(『東洋史研究』67-2、東洋史研究会、2008年9月、194～228頁)、「唐代中央アジアにおける帖式文書の性格をめぐって」(土肥義和編『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』、財団法人東洋文庫、2009年3月、271～291頁)、「麹氏高昌国の灌漑水利と税役」(西北出土文献研究』7、2009年3月、19～41頁)、⑦「ロンドン所蔵コータン出土木簡の諸問題」(中央アジア学フォーラム(第34回)、2008年9月20日)。

飯島 武次

- ②『中国渭河流域における西周時代遺跡』(駒澤大学文学部歴史学科考古学専攻、2009年3月、181頁)、『中国渭河流域の西周遺跡』(同成社、2009年3月、151頁)、③「初期銅系金属器出土遺跡と銅系金属文化の起源」(倉田芳郎先生追悼論文集編集委員会編『生産の考古学Ⅱ』、同成社、2008年10月、507～536頁)。

池田 美佐子

- ①“Debating over Land Reform: Egypt in the Late Parliamentary Era, 1945-1952,” (*Development of Parliamentarism in the Modern Islamic World*, the Toyo Bunko, 2009, pp. 25-58.), ③「イギリス占領期におけるエジプト議会の成立:「ダファリン報告」を中心として」(『Cross Culture』25、光陵女子短期大学、2009年3月、1～15頁)、⑤「ネリー・ハンナ氏講演『語られた文化、書かれた文化(17世紀のカイロ)』について」(『イスラーム地域研究ジャーナル』1、早稲田大学イスラーム地域機構、2009年3月、80～81頁)、⑦「エジプトの「リベラルな時代」(1923-1952)における言論活動とイスラーム」(南山大学「宗教と政治のインターフェイス」研究会、2008年10月16日)、「アラブのファッション」(国際交流基金「異文化理解講座・中東の暮らしの楽しみ」2009年3月9日)。

池田 雄一

- ⑦「簡牘に書かれた律令」(東洋大学白山史学会大会、2008年11月29日)。

伊香 俊哉

- ①『重慶爆撃とは何だったのか—もうひとつの日中戦争』(荒井信一氏ほかと共著、高文研、2009年1月、237頁)。

石井 米雄

② *The Computer Concordance to the Law of the Three Seals.* (Kyoto : CSEAS, Kyoto University, 2008, 1026pp.).

石塚 晴通

③ 「高山寺蔵現存経箱識語」(大槻信氏と共著、高山寺典籍文書綜合調査団編『高山寺経蔵典籍文書目録 完結篇』、汲古書院、2007年12月、283～296頁)、「高山寺典籍文書綜合調査団略記録」(築島裕氏・小林芳規氏・奥田勲氏と共著、高山寺典籍文書綜合調査団編『高山寺経蔵典籍文書目録 完結篇』、汲古書院、2007年12月、437～471頁)、「仏頂尊勝陀羅尼明驗録版木識語」(土井光祐氏と共著、高山寺典籍文書綜合調査団編『高山寺経蔵典籍文書目録 完結篇』、汲古書院、2007年12月、51頁)、「(函別解題)第十四函、第三十五函第二三号」(『神護寺聖教目録』、京都府教育委員会、2009年1月)、「訓点語学会 回顧と展望」(『口訣研究』21、ソウル、2009年2月)、「漢字字体規範データベース—敦煌本の位置—」(土肥義和編『敦煌・吐魯番出土漢文文献の新研究』、財団法人東洋文庫、2009年3月、1～10頁)、「勸修寺蔵金剛頂大教王経頼尊永承点釈文稿」(大槻信氏と共著、『勸修寺論輯』5、2009年3月)、「明治十八年高山寺「宝物寄附物古文書什物取調牒」」(高山寺典籍文書綜合調査団『平成二十年度研究報告論集』、2009年3月)、⑦「本の作り方と読み方と」(長野高校金鶏会講演、2008年4月)、「破音の概念」(第九十八回訓点語学会研究発表、2008年5月)、「HNGで見る字体類の変遷」(岡墻裕剛氏・斎木正直氏と共同発表、第七十八回人文科学とコンピュータ研究発表会、2008年5月)、「漢字字体規範データベース(HNG)の現状と展望」(日本語学会平成20年度秋季大会研究発表、2008年11月)、「憲法十七条—日本人の常識・道徳—」(中国日語教学研究会年会講演、於：中国・広州、2008年12月)、「漢字字体規範データベース(HNG)について」(立命館白川静記念東洋文字文化賞記念講演会講演、2009年1月)。

井上 和枝

③ 「朝鮮時代士族女性の儒教的教養とその主体的内面化—女性による女訓書を中心に」(『国際文化学部論集』9-4、鹿児島国際大学国際文化学部、2009年3月、1～18頁)、⑦ 「朝鮮における『職業婦人』の創出」(公開シンポジウム「東アジアの国民国家形成とジェンダー—女性像をめぐる—」、東アジア近代女性史研究会主催、於：上智大学、2008年4月26日)、「朝鮮後期における家門の由緒創出一孝子・忠臣・烈女旌閭と関連して」(九州史学会、於：九州大学、2008年

12月14日)。

井上 和人

③「日本および東アジア世界における古代都城建設の歴史的意味」(『ベトナムにおける日本研究促進にむけて—越日外交関係 35 周年記念国際シンポジウム—』、ハノイ国家大学附属人文社会学大学、2008 年 9 月、145～153 頁)、「日本古代都城造営の史的意義—東アジア世界の歴史潮流の中で—」(『日文研叢書 42 古代東アジア交流の総合的研究』、国際日本文化センター、2008 年 12 月、95～138 頁)、“Palace vestiges of Thang Long citadel: analysis of main archaeological vestiges in section A・B, D4, D5 and D6,” (*Hoang thanh Thang Long – Identification of the values of Thang Long Imperial citadel site after 5-year comparative research (2004–2008)*, Vietnam Academy of Social Sciences, 2008.11., pp. 41-60.)、「平城京形制の実像」(妹尾達彦編『都市と環境の歴史学・第 2 集〈特集〉国際シンポジウム「東アジアの都市史と環境史—新しい世界へ」』、545～577 頁)、「日本古代都城の出現と変質」(妹尾達彦編『都市と環境の歴史学・第 4 集〈特集〉国際シンポジウム「都市と環境の歴史学：5 年間の成果」』、中央大学文学部東洋史学研究室、2009 年 3 月、487～497 頁)、⑧「平城京遷都の謎を解く」(『大和路小誌やまとみち』、東海旅客鉄道株式会社、2009 年 3 月、10 頁)。

上野 英二

⑧“Pursuing the Depth of Language; In Memoriam Satake Akihiro” (*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko* No.66, The Toyo Bunko, 2008, pp. 163-170.)、「ことばの深みへ—佐竹昭広先生の学問—」(『成城国文学』25、成城国文学会、2009 年 3 月、128～134 頁)。

内田 知行

②『發生在黄土村庄里的性暴力』(石田米子氏と共編、社会科学文献出版社、北京、2008 年 6 月、総 371 頁)、③「抗日戦争時代の中日民間交流活動」(楊天石・黃道玄共編『戦時中国の社会と文化』、社会科学文献出版社、北京、2009 年 2 月、215～244 頁)、「重慶国民政府と日本人士の反戦運動」(重慶師範大学編『重慶師範大学学報(哲学社会科学版)』2008 年第 4 期、2008 年 8 月、8～14 頁)、⑦「抗日戦争時期重慶市人口変遷研究」(重慶“抗战文学与文献”国際学術研討会、重慶抗战文史研究基地主催、2008 年 12 月 8 日)、⑧「街頭巷談：地震報道から思うこと」(中国研究所編刊『中国研究月報』2008 年 6 月号、

2008年6月)。

梅原 郁

③「宋銭の裏表」(『古文化研究』8、黒川古文化研究所、2008年10月、01～85頁)。

梅村 坦

①『宋と中央ユーラシア(世界の歴史7・文庫版)』(伊原弘氏と共著、中央公論新社、2008年6月、559頁、担当は第二部と文庫版第二部あとがき)、③「新疆のウイグル人鍛冶屋」(松本光太郎編『中国ムスリムの宗教的・商業的ネットワークとイスラーム復興に関する学際的共同研究』、平成17年度～平成19年度科学研究費補助金研究成果報告書、2008年3月、117～128頁)、「現代ウイグル文化の歩む道：中華の波の中にある言語」(佐藤次高・岡田恵美子編著『イスラーム世界のことばと文化』、成文堂、2008年3月、244～261頁)、「第二部：ウイグル文字テュルク語文書」、「第六部：シリア文字文書」(共に吉田順一・チメドルジ編『ハラホト出土モンゴル文書の研究』、雄山閣、2008年9月第二版、第二部：責任部分183～199頁、担当部分183～189頁、第六部：担当部分240～253頁)、⑦「天山ウイグル王国と現在の新疆」(中央ユーラシア興亡史：草原とオアシスの支配と共生、於：朝日カルチャーセンター、2008年7月28日・8月4日・8月11日)。

大江 孝男

③「中期朝鮮語 -o/u- 語幹の視点(3)―語尾 -noi とその周辺―」(Seoul 大學校大學院國語研究會編『心岳李崇寧先生誕辰100周年記念論集李崇寧現代國語學-cui 開拓者』、韓國京畿道坡州市太學社、2008年11月5日、483～508頁)。

大澤 肇

③「中華人民共和国初期における学校教育と社会統合」(『アジア研究』55-1、アジア政経学会、2009年1月、73～90頁)、「日本におけるアジア歴史資料のデジタル化：現状と問題点」(Edited by Imanishi Junko, Ulziibaatar Demberel, Husel Borjigin 『A New Global Order in North East Asia』、風響社、2009年3月、303-318頁)、⑦「Digitizing Asian Historical Resource Projects in Japan : the present condition and the problems」(International Symposium in Ulaanbaatar, Mongolia “Global Order from the Perspective of History, Literature, Media, Archives: Focus on North East Asian Society”、2008年6月24日、要旨：Edited by Imanishi Junko,

Ulziibaatar Demberel, Husel Borjigin 『A New Global Order in North East Asia』、風響社、2009年3月、317-318頁）。

大澤 正昭

「劉後村の判語—『名公書判清明集』と『後村先生大全集』」（『中国史研究』（韓国）54輯、中國史學會、2008年6月、83～97頁）、「唐宋時代社会經濟史研究的展開」（『国立政治大学歴史学報』30期、台北・國立政治大學歷史學系、2008年11月、279～298頁）、「シンポジウム「中国近世社会史研究の課題」基調報告」（『上智史学』53、上智大学史学研究会、2008年11月、89～92頁）、⑦『『袁氏世範』の世界—危機の中の日常—」（上智大学史学会5月例会、2008年5月31日、発表要旨『上智史学』53、2008年11月、231～232頁）、「唐宋時代の家族について」（東京学芸大学史学会新春講演会、2009年1月29日、発表論文『史海』56号、東京学芸大学史学会、2009年、掲載予定）、「唐宋時代の家族」（北京師範大学「講学」、於北京師範大学歴史系、2009年3月17日）。

太田 信宏

③ “A Study of Two Nāyaka Families in the Vijayanagara Kingdom in the Sixteenth Century.” (*The Memoirs of the Toyo Bunko*, No.66, The toyo Bunko, 2008, pp. 103-129.)、⑤「水島司著『前近代南インドの社会構造と社会空間』」（『東洋史研究』67-4、東洋史研究会、2009年3月、154～164頁）、⑦「近世南インドにおける権力者の生き残り戦略」（京都大学東南アジア研究所「次世代の地域研究」研究会、2009年2月24日）。

岡田 英弘

①『この厄介な国、中国』（ワック株式会社、2008年6月、253頁、文庫改訂版）、『厄介な隣人、中国人』（ワック株式会社、2008年6月、326頁、文庫化）、『日本史の誕生』（筑摩書房、2008年6月、349頁、文庫化）、『倭国の時代』（筑摩書房、2009年2月、382頁、再文庫化）、③「アジアとヨーロッパ」（『機』No.196、リレー連載 いま「アジア」を語る66、藤原書店、2008年6月15日、21頁）、「清国を理解するための最重要用語集」（『大清帝国』、新・歴史群像シリーズ15、学習研究社、2008年8月、172～177頁）、「“史上最悪の暴君” 煬帝の実像（諸民族統一の大帝国への夢）」（『大唐帝国』、新・歴史群像シリーズ18、学習研究社、2009年3月、50～53頁）、⑧「世界史はモンゴル帝国からはじまった 清朝史の研究」（宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2008年4月号、株

式会社 MD、66～69 頁)、「世界史はモンゴル帝国からはじまった チベット人と中国人の違い」(宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2008 年 5 月号、株式会社 MD、66～69 頁)、「世界史はモンゴル帝国からはじまった 聖火リレー騒動」(宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2008 年 6 月号、株式会社 MD、68～71 頁)、「世界史はモンゴル帝国からはじまった 『厄介な隣人、中国人』」(宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2008 年 7 月号、株式会社 MD、64～67 頁)、「世界史はモンゴル帝国からはじまった 『日本史の誕生』」(宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2008 年 8 月号、株式会社 MD、68～71 頁)、「世界史はモンゴル帝国からはじまった モンゴル学者・磯野富士子さんのこと」(宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2008 年 9 月号、株式会社 MD、66～69 頁)、「世界史はモンゴル帝国からはじまった モンゴル史学者・杉山正明氏への反論」(宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2008 年 10 月号、株式会社 MD、66～69 頁)、「世界史はモンゴル帝国からはじまった 子弟書の面白さ」(宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2008 年 11 月号、株式会社 MD、58～61 頁)、「世界史はモンゴル帝国からはじまった 韓国のテレビドラマ」(宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2008 年 12 月号、株式会社 MD、66～69 頁)、「世界史はモンゴル帝国からはじまった 朝鮮半島の歴史」(宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2009 年 1 月号、株式会社 MD、66～69 頁)、「世界史はモンゴル帝国からはじまった 朝鮮半島の歴史(続)」(宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2009 年 2 月号、株式会社 MD、62～65 頁)、「世界史はモンゴル帝国からはじまった 李氏朝鮮・妓生の歴史」(宮脇淳子氏と共著、『べるそーな』2009 年 3 月号、株式会社 MD、70～73 頁)、「続・中国人の常識、日本人の常識」(『修親』2008-6、修親刊行事務局、2008 年 6 月、5～8 頁)、「共産中国はいつ崩壊しても不思議ではない」(『ザ・リバティ Liberty』159、幸福の科学社、2008 年 6 月、19～20 頁)(談)、「75 字で書くエッセイ 成果」(『ざっくばらん』35-10、並木書房、2008 年 10 月、10 頁)。

小川 裕充

- ①『臥遊 中国山水画—その世界』(中央公論美術出版、2008 年 10 月、438 頁)、
- ③『五代・北宋絵画の透視遠近法—伝統中国絵画の規範』(『美術史論叢』25、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部美術史研究室、2009 年 3 月、25～60 頁)、
- ⑧「恩師 鈴木敬先生」(『東方学』116、東方学会、2008 年 7 月、235～236 頁)。

奥村 哲

- ③「歴史としての毛沢東時代」(『現代中国』82、日本現代中国学会、2008年9月、03～16頁)、⑧「南京ハカ話」(『メトロポリタン史学会会報』7、メトロポリタン史学会、2009年3月、6～11頁)。

風間 喜代三

- ⑦「インド・ヨーロッパ語族—その仮定と現実」(情報通信国際交流会、2008年12月4日)、⑧「サンスクリット(語)」(石井米雄編『世界のことば・辞書の辞典アジア編』、三省堂、2008年8月、401～414頁)、「古典ギリシア語」(石井米雄編『世界のことば・辞書の辞典ヨーロッパ編』、三省堂、2008年8月、445～457頁)、「インド・ヨーロッパ(印欧)語族」(石井米雄編『世界のことば・辞書の辞典ヨーロッパ編』、三省堂、2008年8月、473～485頁)。

糟谷 憲一

- ⑤「李垺丘『朝鮮後期安東金門研究』」(『朝鮮史研究会会報』173、朝鮮史研究会、2008年9月、9～15頁)、⑦「書評報告：呉暎燮『高宗皇帝と韓末義兵』(ソウル・ソニン、2007年3月)」(朝鮮史研究会関東部会2008年12月例会、2008年12月20日)。

片桐 一男

- ①『それでも江戸は鎖国だったのか—オランダ宿 日本橋長崎屋—』(吉川弘文館、2008年11月1日、220頁)、③「阿蘭陀通詞馬場為八郎が伝えたオランダ語表記」(『洋学史研究』第25号、洋学史研究会、2008年4月25日、29～64頁)、⑤「太田勝也編『近世長崎・対外関係史料』」(『洋学史研究』25、洋学史研究会、2008年4月25日、95～96頁)、⑦「将軍謁見—カピタンの拝礼からハリスの謁見へ—」(特別展「ペリー&ハリス展」関連講座、2008年5月18日、於：江戸東京博物館)、「阿蘭陀宿長崎屋をどれだけ知っていますか」(洋学史研究会例会、2008年6月7日、於：青山学院大学)、「志筑忠雄研究の過去、現在、未来」(洋学史研究会、2008年11月1日、於：青山学院大学)、「松本良順と「愛生館」」(第161回幕末史研究会、2009年1月31日、於：武蔵野商工会館)、⑧「将軍謁見—カピタンの拝礼からハリスの謁見へ—」(『青山学報』224、青山学院本部広報室、2008年6月15日、33頁)、「歴史と異国情緒の港町・長崎—“出島”に心馳せて、ぶらぶら」(『男の隠れ家』12-10(通巻137号)、(株)あいであ・らいふ、2008年10月1日、61～63頁)。

片山 剛

②『近代東アジア土地調査事業研究 ニューズレター』4(大阪大学文学研究科、2009年3月、184頁)、③「近世・近代 広東珠江デルタの由緒言説」(『歴史学研究』847、歴史学研究会、2008年11月、23～31、80頁)、⑦「20世紀中国大陸における土地調査事業と農村社会」(中国文化フォーラム・第2回セミナー、2008年7月22日、於：大阪大学、収載誌なし)、「二十世紀中國大陸の土地調査事業及農村社会」(第二屆現代中国社会變動與東亞新格局国際學術討論会、2008年8月27日、於台湾花蓮：東華大学、『第二屆現代中国社会變動與東亞新格局・国際學術討論会 會議手冊 & 論文集』、東華大学歴史学系・日本大阪大学中国文化論壇・南開大学歴史学院、2008年8月、99～101、411～422頁)、「20世紀前半、南京江心洲開発史と土地調査事業」(近代東アジア土地調査事業研究・第3回ワークショップ、2008年11月23日、於大阪大学、『近代東アジア土地調査事業研究 ニューズレター』4、大阪大学文学研究科、2009年3月、76～92頁)。

加藤 弘之

③「中国：改革開放30年の回顧と展望」(『国民経済雑誌』199-1、2009年1月、97～114頁)。

金丸 裕一

①『中支那経済年報』1～5(ゆまに書房、2008年9月、524+674+510+456+454頁)、『近代中国と企業・文化・国家』(立命館大学社会システム研究所叢書1、ゆまに書房、2009年3月、550頁)、③「南京日本商工会議所と市来義道、『姜魏堂』」(『立命館経済学』57-2、立命館経済学会、2008年7月、102～120頁)、「『中支那経済年報』の謎」(吉田建一郎氏と共著、『立命館経済学』57-3、立命館大学経済学会、2008年9月、28～43頁)、「昭和前期日中関係史研究と『中国年鑑』、『大陸年鑑』」(今井就稔氏と共著、『立命館経済学』57-5・6、立命館大学経済学会、2009年2月、38～90頁)、「満洲電力株式会社の中国電力産業調査」(本庄比佐子編『戦前期華北実態調査の目録と解題』、財団法人東洋文庫、2009年3月、109～116頁)、「上海電力公司接收前後」(金丸裕一編『近代中国と企業・文化・国家』立命館大学社会システム研究所叢書1、ゆまに書房、2009年3月、237～260頁)。

辛島 昇

③ “Nagaram during the Chola and Pandyan Period: Commerce and Towns in the Tamil Country AD 850-1350,” (*Indian Historical Review* 35-1, in collaboration with Y. Subbarayalu, and P. Shanmugam, 2008, pp. 1-33.), “Temple Land in Chola and Pandyan Inscriptions: The Legal Meaning and Historical Implications of *Kuḍinīṅgā-dēvadāna*,” (*Indian Economic and Social History Review*, 45-2, 2008, pp. 175-99.), “The Emergence of Medieval State and Social Formation in South India,” (*International Journal of South Asian Studies* 1, (Manohar, New Delhi), 2008, pp. 11-29.), “Medieval Commercial Activities in the Indian Ocean as Revealed from Chinese Ceramic-sherds and South Indian and Sri Lankan Inscriptions,” (Mayeda Sengaku (Compiler), *Path from India, Path from Japan: Lecture Series on Japan-India Relations*, New Delhi, Northern Book Centre, 2008, pp. 161-79.), “The Emergence of New Imprecations in Twelfth- and Thirteenth-Century Tamil Inscriptions and Jati Formation” (D. N. Jha and Eugenia Vanina (eds.), *Mind over Matter: Essays on Mentalities in Medieval India*, New Delhi, Tulika Books, 2009, pp. 261-73.).

川井 伸一

③「中国の会社の歴史的性格：法人の二重性の視点から」（『中国経済研究』5-1、中国経済学会、2008年3月、5～18頁）、「M&A以降のレノボの国際経営—サプライチェーンの構築と事業の改善—」（『愛知経営論集』159、愛知大学経営学会、2009年2月、1～26頁）、⑦「中国経済の問題点と処方箋、いくつかの視点」（愛知大学国際中国学センター2008年度国際シンポジウム『中国をめぐる開発と和諧社会』総合セッション報告、2008年12月5日、於：愛知大学）、経済セッション「経済成長と和諧社会の展望」（コメンテーター、愛知大学国際中国学センター2008年度国際シンポジウム『中国をめぐる開発と和諧社会』、2008年12月6日、於：愛知大学）。

川崎 信定

②「トゥカン『一切宗義』インド思想と仏教の章—翻訳・研究」（吉水千鶴子氏と共著、『西藏仏教宗義研究』第8巻〈*Studia Tibetica* No.43〉、財団法人東洋文庫、2008年6月30日、202ps.）、「仏教綱要」（勝又俊教と共著、『新仏教綱要』第6巻、真言宗豊山派発行、有限会社・豊山刊、2008年11月15日、1～213頁）、③「仏教道德の学としての確立—ブサン教授の『ラ・モラル・ブディック』を巡って—」（多田孝正博士古稀記念論集刊行会編『多田孝正博士古稀記念論集・仏教と文化』、

株式会社山喜房佛書林、2008年11月30日、75～88頁）、「古代インドの環境論」（『インド学仏教学と環境論の接点（総括）』、平成18年～20年度科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書（課題番号18320016）、研究代表者：原實、2009年3月、48～52頁）、⑦「大正大学総合佛教研究所特別講座「大乘仏教から密教へ」（於：大正大学総合佛教研究所、第1回「はじめに；問題の所在と研究意義（今までの研究の状況）」2008年5月7日、第2回「トゥカン『一切宗義・善説水晶鏡』序章の内容と研究意義」2008年5月21日、第3回「＜一切（sarva）＞から＜普門（samanta）＞へ」2008年6月18日、第4回「仏教の自然環境論の一考察—草木に心はあるか？バヴィヤの見解—」2008年7月2日、第5回「論理の問題としての『一切智』が意味するもの」2008年10月8日、第6回「『華嚴経』と＜一切智＞」2008年10月29日、第7回「智慧と道徳—ほとけ（一切智者）の倫理性の問題—」2008年11月26日、第8回「一切智思想の密教的展開—一切智と一切智智・薩婆若—日本仏教に＜一切智＞思考は存在したか？」2008年1月21日）、⑧「仏教環境論と現代」成果報告（日本印度学仏教学会第59回学術大会・パネル発表、2008年9月5日、於：愛知学院大学、担当した総括、パネル発表者諸氏の発表に関するコメント、本発表のレジュメは上記の論文に収録）、「東方学術賞受賞者：津田眞一氏の受賞をお祝いして」（2008年10月10日、於：インド大使館）、「學問の思い出—高崎直道博士を囲んで—（出席）高崎直道、岡田行弘、川崎信定、佐久間秀範、下田正弘、斎藤明（司会）」（『東方學』第117輯、東方學會、2009年1月31日、217～251頁）、「中村元先生と『東洋人の思惟方法』」（『東方だより』第13号（財団法人東方研究会、2009年2月1日、4頁）。

川島 真

②『資料で読む世界の8月15日』（貴志俊彦氏と共編著、山川出版社、2008年、全230頁）、『日台関係史』（清水麗氏・松田康博氏・楊永明氏と共著、東京大学出版会、2009年、261+23頁）、『1945年の歴史認識—＜終戦＞をめぐる日中対話の試み—』（劉傑氏と共編著、東京大学出版会、2009年、300頁）、③「民国広東政府の外交—以外交来視的広東政府論」（王建朗・樂景河主編『近代中国、東亜与世界』下巻、社会科学文献出版社、2008年、705～720頁）、「戦後日本社会的『去帝国化』的課題：以戦後初期為例」（黃自進主編『東亜世界中的日本政治社会特徴』、中央研究院人文社会科学研究センター、亜太区域研究専題中心、2008年、335～352頁）、「近代中国のアジア観と日本—『伝統的』対外関係との関連で」（高原明生ほか編『越境』＜現代アジア研究1＞、慶應義塾

大学出版会、2008年、415～441頁）、「マラウイの対台湾断交—背景・経緯・結果—」（『問題と研究』37-4、2008年12月、111～136頁）、「日本占領期華北における留日学生をめぐる動向」（大里浩秋・孫安石編『留學生派遣から見た近代日中関係史』、御茶の水書房、2009年、213～238頁、〔64〕を加筆修正）、「東アジア国際政治史—中国をめぐる国際政治史と中国外交史」（日本国際政治学会編、李鍾元・田中孝彦・細谷雄一責任編集『日本の国際政治学』、有斐閣、2009年、75～95頁）、「マラウイの対中国交樹立—なぜ中国を選ぶのか」（『地域研究』9-1、2009年3月、189～207頁）、⑤「岡本真希子『植民地官僚の政治史』（三元社、2008年）、遠藤誉『中国動漫新人類』（日経BP社、2008年）、日暮吉延『東京裁判』（講談社、2008年）」（『外交フォーラム』238、2008年5月、78～81頁）、「渡辺利夫『新脱亜論』（文春新書、2008年）」（『日本経済新聞』2008年7月6日）、「王恩美『東アジア現代史のなかの韓国華僑—冷戦体制と「祖国」意識』（三元社、2008年）、遠藤乾編『グローバル・ガバナンスの最前線—現在と過去のあいだ』（東信堂、2008年）、費孝通著・西澤治彦ほか訳『中華民族の多元一体構造』（風響社、2008年）」（『外交フォーラム』241、2008年8月、76～79頁）、「Xu Guoqi, *China and the Great War: China's Pursuit of a New National Identity and Internationalization*」（『アジア経済』49-9、2008年9月、65～68頁）、「浅野豊美『帝国日本の植民地法制—法域統合と帝国秩序—』（名古屋大学出版会、2008年）、朴羊信『陸羯南—政治認識と対外論—』（岩波書店、2008年）、京論壇東京大学実行委員会編『東京大生×北京大生—一次世代が語る日中の本音—』（明石書店、2008年）」（『外交フォーラム』244、2008年11月、92～95頁）⑦「報告Ⅲ チベット問題と1950年代の国際関係—1959年のチベット解放/侵攻をめぐる—」（『中国研究月報』62-8〈特集＝チベット統合をめぐる内外の経緯と言説構造〉、2008年8月、25～37頁）、「鼎談 日本が求めるアジア・アジアが求める日本」（田村宏嗣氏・宮城大蔵氏と鼎談、『外交フォーラム』245、2008年12月、22～29頁）⑧「アジアのナショナリズム—この問いの立て方への問い—」（辻康夫・松浦正孝・宮本太郎編著『政治学のエッセンシャルズ—視点と争点—』、北海道図書刊行会、2008年、124～135頁）、「アジアにおける権力—オリエンタリズムを超えて—」（辻康夫・松浦正孝・宮本太郎編著『政治学のエッセンシャルズ—視点と争点—』、北海道図書刊行会、2008年、152～164頁）、「南京条約（一八四二年）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九巻 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、16～17頁）、「望厦条約（一八四四年）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九巻 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、17～18頁）、「アイゲン条約（一八五八年）」（歴史学研究会編『世界

史史料』〈第九卷 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、46～47頁）、
「天津条約（一八五八年）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝国主義
と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、47～48頁）、「北京条約（一八六〇年）」
（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書
店、2008年、48～50頁）、「総理衙門の成立（一八六一年）」（歴史学研究会編
『世界史史料』〈第九卷 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、50～
51頁）、「日清修好条規（一八七一年）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九
卷 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、52～54頁）、「インドへの馬
建忠派遣（一八八一年）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝国主義と
各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、69～70頁）、「初代日本公使館の世界認識
（一九世紀後半）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝国主義と各地の
抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、70～72頁）、「シャムとの朝貢問題（一九世紀後半）」
（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、
2008年、75～77頁）、「清とビルマの関係（一九世紀後半）」（歴史学研究会編
『世界史史料』〈第九卷 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、77～
78頁）、「アメリカ公使の日清戦争観（一九〇六年）」（歴史学研究会編『世界史
史料』〈第九卷 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、124～126頁）、
「下関条約（一八九五年）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝国主義
と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、127～129頁）、「三国干渉に対する反応
（一八九五年）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝国主義と各地の抵
抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、129～130頁）、「台湾の割譲と台湾民主国（一八九五
年）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩
波書店、2008年、132～133頁）、「日本による初期台湾統治（二〇世紀初頭）」
（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、
2008年、133～134頁）、「露清密約（一八九六年）」（歴史学研究会編『世界史
史料』〈第九卷 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、135～136頁）、
「香港新界の租借（一八九八年）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝
国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、139～141頁）、「外交官の憲政論
（二〇世紀初頭）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝国主義と各地の
抵抗Ⅱ〉岩波書店、2008年、197～198頁）、「中華民國の国際的承認（一九一三
年）」（歴史学研究会編『世界史史料』〈第九卷 帝国主義と各地の抵抗Ⅱ〉岩波
書店、2008年、221～222頁）、「「挑戦者から擁護者へー二一世紀国際秩序と中
国外交」（『外交フォーラム』238、2008年5月、28～31頁）、「ぶれる国家像 基
調の一貫性と「ぶれ」る現状を読み込む」（『論座』2008年8月号、52～58頁）、

「中国を見るための座標軸—特集によせて」(『RATIO』5、2008年7月、010～019頁)、「歴史という『資源』とガバナンス—日中間の難題を解くために」(『RATIO』5、2008年7月、144～161頁)、「未完のオリンピック—過去と未来の分水嶺になるか」(『中央公論』2008年10月号、112～119頁)。

貴志 俊彦

②『文化冷戦の時代—アメリカとアジア—』(土屋由香氏と共編、国際書院、2009年2月、281頁)、③『資料で読む世界の8月15日』(川島真氏と共編、山川出版社、2008年7月、230頁)、③“Source Material Digitalization and Chinese Studies in Japan,” (*Asia Research Trend, New Series*, No.3, Toyo Bunko, July 2008, pp. 81-93.)、「戦争とメディアをめぐる歴史画像デジタル化の試み—満洲国ポスター&伝単データベース」(『アジア遊学』113、勉誠出版社、2008年8月、68～74頁)、⑧座談会記録(石井米雄・田中耕司・柴山守・貴志俊彦)「地域研究における情報学を考える」(『アジア遊学』113、勉誠出版社、2008年8月、4～25頁)。

岸本 美緒

③「明代的応考資格和身分感覚」(黄寛重主編『基調与変奏 七至二十世紀的中国』第一冊、国立政治大学歴史学系・中国史学会(日本)・中央研究院歴史語言研究所・《新史学》雑誌社編、2008年7月、257～281頁)、④「明清契約文書研究の動向—1990年代以降を中心に—」(大島立子編『前近代中国の法と社会—成果と課題—』、財団法人東洋文庫、2009年3月、3～22頁)、⑤“New Studies on Statecraft in Mid- and Late-Qing China,” (*International Journal of Asian Studies*, Vol.6, No.1, Jan. 2009, pp. 82-102.)、⑦「銀のゆくえと明末清初の市場構造—モデルと実態」(第22回明清史研究合宿、2008年8月2日、於:出雲市ビッグハート)、⑧「法の『原理』と中国社会—中国史研究者からみた滋賀法制史学」(『創文』509、創文社、2008年6月、6～7頁)、「動乱と自治—日中歴史イメージの交錯」(村井章介編『人のつながりの中世』、山川出版社、2008年11月、214～238頁)。

金 鳳珍

②『한류와 한사상』(『韓流とハン思想』、金相一氏ほかと共著、図書出版 모시는 사람들、2009年1月、461頁)、③「『韓国併合有効・不当論』を問う」(笹川紀勝・李泰鎮編著『国際共同研究 韓国併合と現代 歴史と国際法からの再検討』、明石書店、2008年12月、593～618頁)、「글로벌 공공철학으로서의 한

사상」(「グローバル公共哲学としてのハン思想」、『한류와 한사상』、図書出版 모시는 사람들、2009年1月、143～180頁)、 「일본에서의 한류와 혐한류」(「日本における韓流と嫌韓流」、『한류와 한사상』、図書出版 모시는 사람들、2009年1月、435～451頁)、 「徐載弼의 내셔널 아이덴티티의 形成과 相克」(「徐載弼의 나ショナル・아이덴티티의 形成と相克」、『韓國文化』41、서울대학교奎蔵閣韓國学研究院、2008年6月、3～29頁)、 ⑤「稻垣久和『国家・個人・宗教 近現代日本の精神』」(『公共的良識人』(月刊新聞)、7面、公共哲学共働研究所、2008年4月1日)。

楠木 賢道

②『内国史院檔 天聰八年 本文』『内国史院檔 天聰八年 索引・図版』(加藤直人氏・中見立夫氏・細谷良夫氏・松村潤氏と共編著、財団法人東洋文庫、2009年1月、709頁)、 ③「編入清朝八旗的扎嚕特部蒙古族」(『中国边疆民族研究』2、2009年2月、360～366頁)。

久保 亨

①『現代中国の歴史—兩岸三地 100年のあゆみ』(土田哲夫氏・高田幸男氏・井上久士氏と共著、東京大学出版会、2008年6月、288頁)、 ③「『1949年前後の中国』をめぐる対話：上原一慶氏と高橋伸夫氏の書評に応えて」(高田幸男氏・丸山鋼二氏・山本真氏と共著、『近きに在りて』53、野沢豊、2008年5月、74～81頁)、 「戦時重慶の綿紡織業と国民政府」(『信大史学』33、信大史学会、2008年11月、20～39頁)、 「興亜院及其中国調査」(楊天石・庄建平編『戦時中国各地区』、社会科学文献出版社、2009年1月、73～106頁)、 ⑤「羅志田著『乱世潜流：民族主義与民国政治』」(『近きに在りて』54、野沢豊、2008年11月、110～113頁)、 「Kai Yiu Chan, *Business Expansion and Structural Change in Pre-War China: Liu Hongsheng and His Enterprises, 1920-1937*」(*International Journal of Asian Studies* 5-2、東京大学東洋文化研究所、2008年7月、260～263頁)、 ⑦「在華日資紗廠紡織生産設備以及其繼承」(在華日系企業研究ワークショップ、2008年8月2～3日、於：大阪大学)。

窪添 慶文

③「墓誌の起源とその定型化」(『立正史学』105、立正大学史学会、2009年3月、1～22頁)、 「墓誌の起源とその定型化」(伊藤敏雄編『魏晉南北朝史と石刻史料研究の新展開—魏晉南北朝史像の再構築に向けて』、平成18～20年度科

学研究費補助金(基盤研究(B))成果報告書、2009年2月、1～31頁、上と同じ論理構成をとるが、より詳細)、「正史と墓誌—北魏墓誌の官歴記載を中心に—」、平成18～20年度科学研究費補助金(基盤研究(B))成果報告書、2009年2月、151～182頁)、⑦「墓誌の起源とその定型化」(立正史学会大会、2008年5月)、「三国志の戦場」(財団法人東洋文庫平成20年度春期東洋学講座、2008年5月20日、要旨:『東洋学報』90-2、財団法人東洋文庫、2008年9月、158～160頁)。

黒田 卓

⑤「ハミッド・ダバシ著、田村美佐子・青柳伸子訳『イラン、背反する民の歴史』(書評タイトル「伝統/近代の二項対立に抗うイラン近現代史の挑戦的な読み直し」、『図書新聞』2875号、第5面、(株)図書新聞、2008年6月28日)、⑦「イラン人留学生ミールザー・サーレフが見た19世紀初めのイングランド」(東北大学大学院国際文化研究科「中東」表象研究会、2008年7月9日)、国際ワークショップコメント「Some Remarks on Dr. Takayuki Yoshimura's and Prof. Touraj Atabaki's Lectures」(International Workshop: "Ethnicity and State in Iran and Transcaucasia", 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2009年1月24日)、「イラン社会主義ソヴィエト共和国(ギーラーン共和国)におけるコムニスト政変:アゼルバイジャン共産党(ボ)機関紙「コムニスト」記事をめぐって」(東北大学東北アジア研究センター共同研究「旧ソ連圏アジア地域の学術・教育におけるアイデンティティ再構築に関する研究」第3回研究会、2009年2月21日)、「イラン社会主義ソヴィエト共和国(ギーラーン共和国)におけるコムニスト政変をめぐって」(イラン研究会、2009年3月28日、於:大阪大学外国語学部)。

氣賀澤 保規

②『東アジアの海とシルクロードの拠点福建—沈没船、貿易都市、陶磁器、茶文化—』(上田秀夫・氣賀澤保規・杉本憲司・鶴間和幸・森達也監修、海のシルクロードの出発点“福建”展開催実行委員会編、2008年10月、199頁)、『中国南北朝隋唐期における華北仏教石刻の諸相』(科学研究費補助金成果報告書・明治大学、2009年3月、164頁)、『新版 唐代墓誌所在総合目録(増訂版)』(科学研究費補助金成果報告書・明治大学、2009年3月、321頁)、③「中国・唐代の官職・位階とその周辺」(日向一雅編『王朝文学と官職・位階 平安文学と隣接諸学4』、竹林舎、2008年5月、83～101頁)、「武則天の感業寺出家問題と徳業寺」(西安碑林博物館編『紀年西安碑林九百二十周年華誕国際学術研討会論文集』、文物出版社、2008年10月、127～143頁)、「遣隋使の見た隋の風

景—「開皇二十年の遣隋使」の理解をめぐる—」（王維坤・宇野隆夫編『古代東アジア交流の総合的研究 国際日本文化研究センター共同研究報告』、国際日本文化研究センター、2008年12月、347～364頁）、「アジア周辺諸国を羈縻・冊封で統治 版図の変遷」（『新・歴史群像シリーズ⑩ 大唐帝国』、学習研究社、2009年3月、32～36頁）、「武川鎮軍閥 北魏に発し唐を運営した政治集団」（『新・歴史群像シリーズ⑩ 大唐帝国』、学習研究社、2009年3月、54～57頁）、「唐代西州府兵制再論—西州「衛士」の位置づけをめぐる—」（土肥義和編『敦煌・吐魯番文書の新研究』、（財）東洋文庫、2009年3月、293～313頁）、⑦「明治大学東アジア石刻文物研究所（寄託）墓誌石刻の紹介」（中国石刻合同研究会、於：明治大学、2008年7月27日）、「唐詩とその時代風景—『唐詩選』を読む（1）」（「明治大学リバティアカデミー講座、2008年5月8日・6月5日・6月19日・7月3日」）、「唐詩とその時代風景—『唐詩選』を読む（2）」（「明治大学リバティアカデミー講座、2008年10月2日・11月27日」）、「倭国の遣隋使和洛陽—紀念小野妹子遣隋使1400周年」（招待講演、遣隋使訪洛1400周年・中日友好条約締結30周年東アジア文化交流国際シンポジウム、於：中国・洛陽市、2008年10月26日）、「河北曲陽の八会寺仏教石經と華北刻經事業」（科学研究費補助金成果報告会「中国仏教石刻をめぐる諸問題」、於：明治大学、2009年1月10日）、⑧「北京3000年（589～907年、隋と唐の時代）—大運河と「龍舟」と高句麗侵攻拠点」（『Newton ニュートン』2008年9月号、2008年9月、36～37頁）、「堀敏一先生と私と明大アジア史」（『明大アジア史論集』12（特集・堀史学を語る）、明治大学東洋史談話会、2008年9月、43～47頁）、「明治大学東アジア石刻文物研究所の活動と展示」（『ミュージアム・アイズ MUSEUM EYES』52、明治大学博物館、2009年3月、6～7頁）、「（明治大学文学部）アジア史専攻」（『明治大学文学部七十五年史（1980-2005）』、明治大学文学部、2009年3月、179～186頁）、『今蘇る長安』（監修・出演、WOWWOWテレビ、テムジン制作、2009年3月）。

嚴 善平

②『現代アジア研究第3巻 政策』（武田康裕氏・丸川知雄氏と共著、慶應義塾大学出版会、2008年12月、420頁）、③「第6章 江西省における貧困大学生の勉強、生活および将来設計」（『貧困大学生援助策の実態及び支援体制構築にかかる提案型調査』、JBIC 委託報告書、2008年8月、89～115頁）、「第7章 江西省における高校生の勉強、生活および将来設計」（『貧困大学生援助策の実態及び支援体制構築にかかる提案型調査』、2008年8月、JBIC 委託報告

書、116～129頁）、「第Ⅲ部・第1章 日本農業の展開方向を規定する諸条件の検討」（藤谷築次編著『日本農業と農政の新しい展開方向』、昭和堂、2008年12月、141～160頁）、「第5章 格差是正へ農民の権利回復—労働力移動に戸籍制限の壁」（日本経済研究センター・清華大学国情研究センター編『中国 成長の壁を越えて』、日経新聞社委託研究報告書、2009年3月、55～71頁）、「日本農業の国際競争力の低位とその規定要因に関する一考察—対中農産物貿易の分析を中心に」（『桃山学院大学総合研究所紀要』33-3、2008年3月、桃山学院大学総合研究所、233～244頁）、「増大する流動人口と都市の「繁栄」：上海市を対象に」（『中国—社会と文化』23、中国社会文化学会、2008年7月、84～95頁）、「新しい農政下の農村、農業と農民—安徽省A県、江蘇省J市の農村調査ノート」（『現代中国研究』23、中国現代史研究会、2008年10月、35～47頁）、「中国経済はルイスの転換点を超えたか—「民工荒」現象の社会経済的背景を中心に」（『東亜』2008年12月号、霞山会、30～42頁）、⑧「座談会・格差社会 中国の現状をどう見るか」（小島麗逸氏・清水和美氏・阿古智子氏・今井理之氏・砂山幸雄氏等との座談、愛知大学現代中国学会編『中国21』30、風媒社、2009年1月、3～40頁）、「三中全会での決定から見た三農問題の行方」（『JCECONOMIC JOURNAL』2009年1月号、日中経済協会、22～25頁）。

胡 潔

③「平安文学における「博士」と「学生」（日向一雅編『王朝文学と官職・位階』、竹林舎、2008年5月、477～493頁）、「從養老令の親屬称谓看古代日本礼と法的兼收并蓄」（北京大学日本語言語文化系・北京大学日本文化研究所編『日本語文化研究』8、学苑出版社、2008年8月、145～153頁）、「白詩と平安文学的女性形象」（『日語学習与研究』、2008年12月、73～78頁）、「婚姻習俗と文学—恋の諸相の底流にあるもの」（論集『異文化としての日本』、名古屋大学国際言語文化研究科、2009年3月、143頁～152頁）、「嫡庶考（2）—律令・戸籍を中心に」（『言語文化論集』30-2、名古屋大学国際言語文化研究、2009年3月、1～18頁）、⑦「平安文学にみる紀伝道の文人達—家業伝承を中心に」（日本文学研究会11回年会、2008年8月19日、於：中国・大連外国語大学）、「婚姻と文学—」（国際シンポジウム「異文化としての日本」、2008年11月2日、於：名古屋大学）。

黄 東蘭

③「清末直隸地方自治与日本」（『清史訳叢』7、中国人民大学出版社、2008年

1月、145～172頁）、「中国における「亜細亜」概念の受容」（『東アジア近代史』11、ゆまに書房、2008年3月、6～25頁）、「清末・民国期地理教科書の日本イメージ」（『愛知県立大学外国語学部紀要』（地域研究・国際学編）41、2009年3月、67～84頁）、④「2007年の歴史学界の回顧と展望（中国・近代）」（『史学雑誌』117-5、史学会、2008年6月、232～239頁）、「歴史学」（『中国年鑑』2008年版、創土社、2008年6月、205～207頁）、「中国史叙述の新たな可能性を探って—「新社会史」・「新史学」の両誌を中心に」（『歴史と地理』621、『世界史の研究』218、山川出版社、2009年2月、53～57頁）、⑦「歴史教科書にみる近代日中の他者像—前近代史の叙述を通して」（「日中歴史研究者フォーラム—歴史研究と歴史認識」、2008年12月6日・7日、於：慶応義塾大学三田キャンパス、要旨：同フォーラム論文集、91～95頁）。

小南 一郎

③「旅する鮑照」（『桃の会論集』4、桃の会、2008年10月、63～84頁）、「中国西部地域における伏羲・女媧図像（上）」（『龍谷大学論集』473、龍谷大学、2009年1月、1～40頁）、「Ritual for the Earth」（“Early Chinese Religion”, Part One, BRILL, 2009.1. pp. 201-234.）、⑤「小林正美『道教齋法儀礼の思想史的研究』（『東方宗教』110、日本道教学会、2008年11月）、⑦「中国近代文芸に見る都市と農村」（「国際東方学会議 第53回大会」、2008年5月16日、要旨：Transactions of the International Conference of Eastern Studies No. LIII, TOHOGAKKAI, 2008）。

小浜 正子

⑦「アジアのリプロダクション—出産現場から見る現状と変化」（嶋澤燕子氏・松岡悦子氏・幅崎麻紀子氏・何燕俠氏らと会談、於：東京・日本助産学会、2009年3月21日）、「計画生育の開端—1950-60年代の上海」（近代華人社会公衛史討論会、於：台北・中央研究院歴史語言研究所、2008年12月27日）、⑧「上海女性は帝王切開がお好き？」（『アジア遊学』119＜アジアの出産＞特集号、勉誠出版、2009年2月、138～147頁）。

小松 久男

①『イブラヒム、日本への旅：ロシア・オスマン帝国・日本』（刀水書房、2009年10月、vi+176頁）、③「聖戦から自治構想へ：ダール・アル・イスラームとしてのロシア領トルキスタン」（『西南アジア研究』69、西南アジア研究会、2008年9月

30 日、59～91 頁)、⑦「中央ユーラシア研究の展望：現状と課題」(日本中央アジア学会・第 10 回まつぎきワークショップ、松崎町商工会、2008 年 4 月 1 日)、“Historical Perspective of Central Eurasia: Central Eurasian Studies in Japan,” (Central Eurasia in World History, Department of Asian History, Seoul National University, 18 April 2008)、“A Pan-Islamist’s Journey: Russia, the Ottoman Empire and Japan,” (Center for Pacific Asia Studies, Department of Oriental Languages, Stockholm University, 30 September 2008)、“Historical Perspectives on Central Asian Studies in Japan,” (Workshop on Central Asian History: Vision and Revision, Department of South and Central Asian Studies, Stockholm University, 1 October 2008)、“Japonya’da Merkezi Avrasya Araştırmalarına Yaklaşımlar: Geçmiş be Bugün,” (International Conference on Central Eurasian Studies: Past, Present and Future, Maltepe University (Istanbul, Turkey), 17 March 2009)。

早乙女 雅博

②『関野貞日記』(藤井恵介氏・大西純子氏・角田真弓氏と共著、中央公論美術出版、2009 年 2 月、総 833 頁)、③「1945 年以前の高句麗壁画古墳の調査 I」(『日本所在高句麗遺物 I』、東北亜歴史財団、2008 年 7 月、138～163 頁・191～197 頁)、④「東アジアにおける国際交流—韓国・北朝鮮—」(『日本考古学』26、日本考古学協会、2008 年 10 月、156～160 頁)、⑦「楽浪郡治址とその出土遺物」(シンポジウム『漢の楽浪と倭の出雲・伯耆』、2008 年 6 月 1 日、於：明治大学校和泉校舎)、「ピョンヤンの壁画古墳の現状」(文化遺産コンソーシアム、2008 年 10 月 29 日、於：東京文化財研究所)、「東アジアと日本の古墳」(世田谷区遺跡調査発表会、2008 年 12 月 7 日)、⑧「壁画古墳に見る高句麗の暮らし」(『別冊太陽 韓国朝鮮の絵画』、平凡社、2008 年 11 月、27 頁)。

桜井 由躬雄

③「山本教授と国際貿易港雲屯」(ハノイ人文社会大学史学部・クアンニン省重点遺蹟管理委員会編『ヴァンドン商港、歴史、経済潜在能力と文化交流の諸様相』、クアンニン省、2008 年 7 月、41～50 頁、ベトナム語)、「日本におけるベトナム研究とベトナム学研究所の 20 年」(『学際研究をめざすベトナム学と科学発展研究所の 20 年』、世界出版(ハノイ)、2008 年 10 月、13～23 頁)、“Trường Giáo Xuyên, or the School of Teacher Xuyên, French-Style Education in a Village in Northern Vietnam during the 1930s,” (Yoneo ISHII edited, The Changing Self Image of Southeast Asian Society during the 19th and 20th Centuries, Toyo Bunko Research

佐藤 次高

①『砂糖のイスラーム生活史』(岩波書店、2008年12月19日、241+58頁)、
『イスラーム世界の興隆』(『世界の歴史』8、中央公論新社(中央文庫)、2008
年11月25日、453頁)、③“The Origin and Expansion of Sugar Production in
the Islamic World,”(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』54、早稲田大学
大学院文学研究科、2009年3月、5～20頁)、④「イスラーム地域研究の新
展開」(『論壇 人間文化』vol.3、人間文化研究機構、2008年11月、78～101
頁)、⑧ Welcoming Address to IAS-AEI International Conference (22-24 November,
2008), (New Horizons in Islamic Area Studies: Islamic Scholarship across Cultures
and Continents, Hotel Nikko, Kuala Lumpur, 22 November, 2008.)、「エジプト製糖技
術の中国への伝播—マルコポーロの記述をめぐって—」(東洋文庫『友の会だより』、
財団法人東洋文庫、2008年9月10日、1～4頁)。

佐藤 宏

③ “The Impact of Village-Specific Factors on Household Income in Rural China”
(*Inequality and Public Policy in China*, New York: Cambridge University Press, 2008,
pp. 287-311)、「村特質対家庭収入の効応分析」(『中国居民收入分配研究 III』、
北京師範大学出版社、2008年、318～346頁)、“The Redistributive Impact of
Taxation in Rural China, 1995-2002,” (joint with Li Shi and Yue Ximing, *Inequality
and Public Policy in China*, New York: Cambridge University Press, 2008, pp. 312-
336)、「中国農村税賦的再分配効応」(李実氏・岳希明氏と共著、『中国居民收入
分配研究 III』、北京師範大学出版社、2008年、286～317頁)、“The Changing
Structure of Communist Party Membership in Urban China 1988-2002,” (joint with K.
Eto, *Journal of Contemporary China*, Vol.17, Issue 57, November 2008, pp. 653-672)、
“Public Goods Provision and Rural Governance in China,” (*China: An International
Journal*, Vol.6, No.2, September 2008, pp.281-298)、「中国農村地区の家庭成分、
家庭文化と教育」(李実氏と共著、『経済学(季刊)』7-4、2008年、1105～
1130頁)、「養老保険改革対家庭儲蓄率の影響：中国的経験証拠」(何立新氏・
封進氏と共著、『経済研究』2008年第10期、2008年、117～130頁)、「不同視
角下的中国城鎮社会保障制度与收入再分配—基于年度收入和終生収入の経験分
析」(何立新氏と共著、『世界經濟文彙』2008年第5期、45～57頁、2008年)、
「權勢的価値：黨員身分与社会網絡的回報在不同所有制企業是否不同？」(李

爽氏・陆铭氏と共著、『世界経済文彙』2008年第6期、23～39頁、2008年）、“Regional Growth Disparity in China 1990-2002: A Village-based Study,”（Fukino DP Series, No. 002, International Joint Research Center Fukino Project, Hitotsubashi University, September 2008.）、“Social Security and Income Redistribution in Urban China 1995-2002: An Empirical Analysis Based on Annual and Lifetime Income,”（joint with He Lixin, Fukino DP Series, No. 004, International Joint Research Center Fukino Project, Hitotsubashi University, September 2008.）、“Class Origin, Family Culture and Intergenerational Correlation of Education in Rural China,”（joint with Li Shi, Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series, No.7, October 2008.）、“How do Heterogeneous Social Interactions affect the Peer Effect in Rural-Urban Migration?: Empirical Evidence from China,”（joint with Chen Zhao, Shiqing Jiang, and Ming Lu, Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series No. 8, October 2008.）、“The Value of Power in China: How Do Party Membership and Social Networks Affect Pay in Different Ownership Sectors?,”（joint with Shuang Li and Ming Lu, Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series No. 11, November 2008.）、“Growth of Villages in China, 1990-2002,”（Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series No. 23, November 2008.）。

塩沢 裕仁

①『東漢魏晉南北朝都城境域研究』（『洛陽博物館文化叢書』、洛陽博物館、2009年2月、総204頁）、②『千年帝都洛陽—洛陽の遺跡と観光—』（発行：龍門石窟研究院、出版：河南人民出版社、2009年1月、総98頁）、③「東漢洛陽城都城境域與洛陽八閤」（洛陽博物館編、『洛陽博物館建館50周年論文集』、大象出版社、2008年12月、33頁～49頁）、⑦「鄴城近郊の遺跡—西門豹灌漑遺址を中心に—」（京都大学人間環境学公開講座、2009年2月、於：京都大学）、「伊河の河道変移と伊河河岸の遺跡」（京都大学人間環境学公開講座、2008年8月、於：京都大学）。

重近 啓樹

④「堀敏一先生の中国古代土地所有制研究をめぐって」（『明大アジア史論集』12、明治大学東洋史談話会、2008年9月、21～25頁）、「近年における秦漢經濟史研究の成果と課題」（『アジア研究』4、静岡大学人文学部「アジア研究プロジェクト」、2009年3月、37～52頁）、⑤「堀敏一著『東アジア世界の歴史』（講談社（講談社学術文庫）、2008年9月、349～356頁）。

設樂 國廣

③「史苑の窓 アンカラ概略史」(『史苑』第68巻第2号、pp.1-6、立教大学史学会 2008年3月)、「キプロスとトルコのEU加盟問題」(『世界史の研究』215、pp.1～ 山川出版社、2008年5月)、「イスラムとトルコ」(別冊環⑭『トルコとは何か』 pp.089～095 藤原書店、2008年5月)。

斯波 義信

②『宋史食貨志譯註(一)～(六)索引』(財団法人東洋文庫、2009年1月、282頁)、③「中国における都鄙連続関係の発生と展開」(妹尾達彦編『都市と環境の歴史学・第4集〈特集〉国際シンポジウム「都市と環境の歴史学：5年間の成果」』、中央大学文学部東洋史学研究室、2009年3月、11～25頁)。

嶋尾 稔

③「ベトナムの伝統的私塾に関する研究のための予備的報告」(『東アジア文化交渉研究』別冊2号、関西大学文化交渉学教育研究拠点 ICIS、2008年6月、53～66頁)、『『寿梅家礼』に関する基礎的考察(四)』(『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』40、慶應義塾大学言語文化研究所、2009年3月、247～257頁)。

新免 康

③「中国新疆のウルムチ(烏魯木齊)市の歴史の変遷」(妹尾達彦編『都市と環境の歴史学・第2集〈特集〉国際シンポジウム「東アジアの都市史と環境史—新しい世界へ」』、中央大学文学部東洋史学研究室、2009年3月、171～202頁)、「中国新疆のオアシス都市ヤルカンドとイスラーム聖者廟(マザール)」(妹尾達彦編『都市と環境の歴史学・第4集〈特集〉国際シンポジウム「都市と環境の歴史学：5年間の成果」』、中央大学文学部東洋史学研究室、2009年3月、243～254頁)、『『ターリーヒ・ラシーディー』テュルク語訳附編の叙述傾向に関する一考察—カシュガル(カシュガル)の歴代ハーキム・ベグの部分を中心に—』(『西南アジア研究』70、西南アジア研究会、2009年3月)、④「International Workshop〈Studies on the Mazar Cultures of the Silkroad〉(国際学術検討会「絲綢之路上的麻扎文化研究」)」(『日本中央アジア学会報』5、日本中央アジア学会、2009年3月、70～76頁)、⑧「東トルキスタン」(小杉泰・林佳世子・東長靖編『イスラーム世界研究マニュアル』、名古屋大学出版会、2008年6月、267～271頁)。

鈴木 均

③ “The Shaping of Rusta-shahrs and the Emergence of Self-Governance in the Post-Revolutionary Rural Societies of Iran” (Sato Tsugitaka (ed), *Development of Parliamentaryism in the Modern Islamic World*, pp.154-175, Toyo Bunko, 2009)、「イランの銀行制度とイスラーム金融」(調査研究報告書『イスラーム金融のグローバル化と各国の対応』、51-66 頁、アジア経済研究所、2009 年 3 月)、⑦「イスラーム革命以来の改革とそれに伴う政治・社会の変化」(浦安市国際センター中東理解講座、2008 年 4 月 13 日)、「西アジアの茶文化——イラン・アフガニスタンを中心に」(大東文化大学国際関係学部「社会人のためのアジア理解講座」、2008 年 11 月 29 日)、「イランおよびアフガニスタンのお茶」(東京学芸大学第 6 回宋代茶文化研究会、2008 年 12 月 6 日)、「イラン映画のなかの家族」(早稲田大学イスラーム地域研究所公開講演会、2009 年 3 月 14 日)、⑧「イランの主食はチェロウかナンか」(『アジア研ワールド・トレンド』161 号、16-17 頁、アジア経済研究所、2009 年 2 月)。

砂山 幸雄

③「現代中国における「和」と「公正」」(『中国 21』30、1-2 頁、愛知大学現代中国学会、2009 年 1 月)、⑤「野村浩一著『近代中国の政治文化—民権・立憲・皇権』」(『中国研究月報』62-10、36-39 頁、中国研究所、2008 年 10 月)、「水羽信男著『中国近代のリベラリズム』」(『近きに在りて』54、138-142 頁、2008 年 11 月)、⑦「「思想解放」と改革開放」(日本現代中国学会全国学術大会、2008 年 10 月 18 日)、⑧「格差社会 中国の現状をどう見るか」(『中国 21』30、1-2 頁、愛知大学現代中国学会、2009 年 1 月)。

妹尾 達彦

①『都市と環境の歴史学 第 2 集—国際シンポジウム特集 東アジアの都市史と環境史：新しい世界へ—[増補版]』(中央大学文学部東洋史学研究室、2009 年 3 月、1-647 頁)、『都市と環境の歴史学 第 4 集—国際シンポジウム特集 都市と環境の歴史学：5 年間の成果—』(中央大学文学部東洋史学研究室、2009 年 3 月、1-557 頁)、③「당 장안성 연구와 위술의 『양경신기』」(唐長安史研究と韋述『西京新記』)(田村晃一編、임석규 번역『동아시아의 도성과발해(東アジアの都城と渤海)』、동북아역사재단、2008 年 6 月、101-157 頁)、「都城与王權儀礼：根拠中国歴代都城復原図」(黄寛重主編『基調と変奏—七至二十世紀の中国—』、国立政治大学歴史学系・中国史学会(日本)・中央研究院歴史語言研究

所・『新史学』雑誌社、2008年7月、71～99頁）、「都城と律令制」（大津透編『史学会シンポジウム叢書 日唐律令比較研究の新段階』、山川出版社、2008年11月、97～118頁）、최재영訳「中国歴代都市図의變遷—이미지와 현실—」（『東亜文化』46、서울대학교 동아문화연구소ソウル大学東亜文化研究所、2008年12月、105～134頁）、「隋唐長安城と世界史の構造」（『歴史地理教育』741、歴史教育者協議会、2009年3月、口絵1頁+10～17頁）、「中国都城の方格状街割の沿革」（『都城制研究（3）—古代都城と条坊制：下三橋遺跡をめぐって—』、奈良女子大学21世紀COEプログラム報告集vol.27、2009年3月、71～86頁）、「中国都城の沿革と中国都市図の変遷—呂大防「唐長安城図」の分析を中心にして—」（館野和己編『古代都城のかたち—空間・制度・思想—』、同成社、2009年3月、176～202頁）、「唐長安の印刷文化—S.P.12とS.P.6の分析を中心として」（土肥義和編『敦煌・吐魯番文献の新研究』、財団法人東洋文庫、2009年3月、427～446頁）、「北京の小さな橋—街角のグローバルヒストリー—」（『国立民族学博物館調査報告 Senri Ethnological Reports』81、2009年3月、1～89頁）、④「第3届中国史学会“基調と変奏”7-20世紀的中国国際學術研討会」（『唐代史研究』11、唐代史研究会、2008年8月、117～125頁）、⑤「愛宕元『遊城南記／訪古遊記』（『唐代史研究』11、唐代史研究会、2008年8月、103～106頁）、⑦「歴史と記憶—9世紀中国における律令制度と王権儀礼—」（2008年度法制史学会大会、2008年4月20日、於：名古屋大学法学部）、「唐代の長安と洛陽—陸の都と水の都—」（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館講演会、2008年8月9日、於：江戸東京博物館、要旨：『よみがえる古代の大和』、東京新聞、2008年8月、18～32頁）、「唐代長安的東市と西市」（絲路胡人暨唐代中外文化交流學術討論会、2008年10月10日、於：西安・乾陵博物館）、「呂大防「長安図」的世界認識」（空間新思惟—歴史典拠学国際學術研討会、2008年11月7日、於：台北・故宮博物院）、「世界史の新しい見方」（2008年度茨城県高等学校教育研究会歴史部講演会、2008年11月28日、於：水戸・茨城歴史館、講演内容は『茨城史学』44、2009年5月刊行に掲載予定）、「都市と環境の歴史学」（日本學術振興会科学研究費基盤研究（S）国際シンポジウム、2009年3月15日、於：中央大学駿河台記念館、要旨：『都市と環境の歴史学第4集—国際シンポジウム特集 都市と環境の歴史学：5年間の成果—』（中央大学文学部東洋史学研究室、2009年3月、523～557頁）、⑧「中国社会文化学会シンポジウム「都市と建築—流動する人々、生成する権力—」企画の趣旨」（『中国—社会と文化』23、中国社会文化学会、2008年7月、3～8頁）、「コメント—太極殿—」（『都城制研究（2）—宮中枢部の形成と展開：太極殿の成立をめぐって—』、奈良

女子大学 21 世紀 COE プログラム報告集 vol.23、2009 年 1 月、93～114 頁）。

關尾 史郎

②『トゥルフアン出土漢文墓志集成（稿）—高昌郡・高昌国篇—』（清水はるか氏と共編著、新潟大学超域研究機構・大域プロジェクト研究資料叢刊 XIV、2009 年 3 月、120 頁）、③「高昌郡時代の上行文書とその行方」（藤田勝久・松原弘宣編『古代東アジアの情報伝達』、汲古書院、2008 年 4 月、75～89 頁）、「トゥルフアン新出「前秦建元廿（384）年三月高昌郡高寧縣都郷安邑里戸籍」試論」（『人文科学研究』123、新潟大学人文学部、2008 年 10 月、1～19 頁）、「魏晋「名刺簡」ノート—長沙呉簡研究のために—」（『新潟史学』60、新潟史学会、2008 年 11 月、31～41 頁）、「「五胡」時代の墓誌とその周辺」（『環日本海研究年報』16、新潟大学大学院現代社会文化研究科環日本海研究室、2009 年 2 月、1～11 頁）、「「五胡」時代、高昌郡文書の基礎的考察—兵曹関係文書群の検討を中心として—」（土肥義和編『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』、財団法人東洋文庫、2009 年 3 月、183～200 頁）、「「五胡」時代の「屬」について—トゥルフアン出土五胡文書分類試論（Ⅱ）—」（『資料学研究』6、新潟大学大学院現代社会文化研究科、2009 年 3 月、25～34 頁）、⑤「トゥルフアン出土、「五胡」時代文書の定名をめぐる—『新獲吐魯番出土文獻』の成果によせて—」（『西北出土文献研究』7、西北出土文献研究会、2009 年 3 月、67～77 頁）、⑦「敦煌・吐魯番出土「五胡」戸籍とその意義」（国際ワークショップ「敦煌・吐魯番文獻と西北地域」、2009 年 3 月 8 日、於：新潟大学五十嵐キャンパス、要旨：『国際ワークショップ「敦煌・吐魯番文獻と西北地域」予稿集』、国際ワークショップ「敦煌・吐魯番文獻と西北地域」実行委員会、2009 年 3 月、1～2 頁）、⑧「湖南省郴州市、蘇仙橋出土呉簡について」（『中国出土資料学会会報』38、中国出土資料学会、2008 年 7 月、14～16 頁）、「高台県の古墓群と主要出土文物をめぐるノート」（『西北出土文献研究』2008 年度特刊、西北出土文献研究会、2009 年 3 月、123-128 頁）。

関本 照夫

③ “Living in a vernacular culture: the Javanese in Surinam,” (*Latin American Studies* 16, 2008.4., pp. 155-175.).

高田 幸男

①『現代中国の歴史—兩岸三地 100 年のあゆみ』（久保亨氏・土田哲夫氏・井上久士氏らと共著、東京大学出版会、2008 年 6 月、iv+288 頁）、⑦「江蘇省教

育会之“復活”、1947年—對於江蘇省檔案館所藏有關“江蘇省教育會”檔案的介紹與考察—」（「漢學研究與中國社會科學」國際學術研討會、2008年9月25日、於：中國・杭州市）、⑧「堀敏一先生の學恩」（『明大アジア史論集』12、明治大學東洋史談話會、2008年9月、54～56頁）。

瀧下 彩子

③「抗日宣傳活動の中の廣東語漫画—戦え何老大！」（『アジア遊学』111、勉強出版、2008年7月、80～87頁）。

武内 紹人

① *Old Tibetan Inscriptions*, Old Tibetan Documents Online Monograph Series Vol. II, (in collaboration with K. Iwao and N. Hill, Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 2009, XXXVII + 98 pp.), ③ “*Tshar, srang, and tshan*: Administrative units in Tibetan ruled Khotan,” (*The Journal of Inner Asian Art and Archaeology* 3, 2009.), ④「古チベット文献研究の現段階」（『東洋史研究』67-4、東洋史研究会、2009年3月、123～129頁）、⑦ “The Universal Nature of the Tibetan Literary Tradition— Contributions of non-Tibetan Peoples.” (Colloque Edition, édition: l’écrit au Tibet, évolution et devenir, at Ecole Normale Supérieure, Paris, 2008. 5.), “Present stage of deciphering Old Zhangzhung.” (with Ai Nishida. International Symposium on the Linguistic Substrata in Tibeto-Burman Area, at National Museum of Ethnology, Osaka, Japan, 2008. 9.), “Formation and transformation of Old Tibetan.” (International Symposium on the Linguistic Substrata in Tibeto-Burman Area, at National Museum of Ethnology, Osaka, Japan, 2008. 9.), ⑧「チベット文明のユニークさと普遍性」（『図書』2008年10月号、岩波書店、10～13頁）、「佐藤長先生の學恩」（『東方學』116、東方学会、2008年7月、250～252頁）、「敦煌出土の古代シャンシュン語文獻」（国立民族学博物館編『チベット ポン教の神がみ』、千里文化財団、2009年、126～127頁）。

武田 幸男

⑦「広開土王碑、その過去と現在」（高麗神社〈渡来人の里講演会：第5回〉、2008年6月8日）

多田 猖介

④「歴史学会第32回大会シンポジウム参加記『移動の履歴とアイデンティティ』

傍聴の記」(『史潮』新64、歴史学会、2008年11月、86～89頁)、⑦「陳寿撰正史『三国志』の世界」(財団法人東洋文庫平成20年度春期東洋学講座、2008年5月13日、要旨：『東洋学報』90-2、財団法人東洋文庫、2008年9月、155～157頁)、⑧「事務局員斎藤政子さんのことなど」(『歴史学研究月報』583、歴史学研究会、2008年7月、5～6頁)。

田仲 一成

①『中国祭祀戲劇研究』(中文版、北京大学出版社、2008年2月、349頁)、③「中国農村演劇の指向するもの—「孝」と「節」の畸形化—(『日本学士院紀要』63-2、日本学士院、2009年1月、95～122頁)、「日本と韓国の神事芸能の比較—中国を媒介にした一考察—」(『日本学士院紀要』63-3、日本学士院、2009年1月、40～50頁)、「第3回日韓学術フォーラム報告総括：日韓文化の比較」(『日本学士院紀要』63-3、日本学士院、2009年1月、83～84頁)、「海陸豊正字戲的価値」(『文化遺産』2009-1、中山大学中国非物質文化遺産研究中心、2009年1月、50～56頁)、⑧「羅小東採訪」(『国際漢学』17、北京外国語大学、2009年2月)。

クリスチャン・ダニエルス

②『中国雲南少数民族生態関連碑文集』(総合地球環境学研究所、2008年3月31日、298頁)、『論集 モンスーンアジアの生態史—地域と地球をつなぐ—第2巻 地域の生態史』(弘文堂、2008年5月15日、280頁)、『(新版)東南アジアを知る辞典』(桃木至朗氏・小川英文氏・深見純生氏・福岡まどか氏・見市建氏・柳澤雅之氏・吉村真子氏・渡辺佳成氏との共編、平凡社、2008年6月、732頁)、③「解説：人間と環境をものがたる碑文」(唐立編『中国雲南少数民族生態関連碑文集』、総合地球環境学研究所、2008年3月31日、3～22頁)、「序論—自然環境はどのような人的要因によって改変されてきたか」(クリスチャン・ダニエルス責任編集『論集 モンスーンアジアの生態史—地域と地球をつなぐ—第2巻 地域の生態史』、弘文堂、2008年5月15日、1～14頁)、“Script as the Narrator; Oral Tradition and Literacy in Tay Maaw Chronicles”, (Kashinaga Masao Ed., *Written Cultures in Mainland Southeast Asia, Senri Ethnological Studies* 74, 2009.3.31., pp. 151-170.), ⑦「18、19世紀雲南民間天然資源管理措施初探」(『明清以来雲貴高原の環境與社会国際学術討論会』、主催：復旦大学歴史地理研究中心、2008年8月29日、於：復旦大学光華楼西主楼2201會議室)、⑧“Traditional Management of National Resources and Economic Development,”

(Akimichi Tomoya Ed., An Illustrated Eco-history of the Mekong River Basin, in collaboration with Nomoto Takashi, White Lotus Press, Bangkok, 2009, pp. 155-159.)

竺沙 雅章

⑦「遼金代燕京の禪宗」(禅学研究会、2008年11月29日、於:花園大学)、⑧『傳大士頌金剛經』のこと」(『柳田聖山先生追悼文集』、柳田聖山先生追悼文集刊行会、2008年11月、290～292頁)。

辻本 裕茂

③『『医家千字文註』の基礎的研究」(『南山日本文化論集』9、南山大学日本文化学科、2009年3月、19～36頁)。

土田 哲夫

①『現代中国の歴史—兩岸三地100年のあゆみ』(久保亨氏・高田幸男氏・井上久士氏らと共著、東京大学出版会、2008年6月、iv+288頁)、③「国際和平運動与中国抗戦—“国際和平聯合”(RUP/IPC)簡析」(王建朗・欒景河主編『近代中国、東亜与世界』上巻、中国社会科学出版社、2008年7月、351～364頁)、「中国抗日戦争の展開と宣戦問題」(斎藤道彦編『日中関係史の諸問題』、中央大学出版部、2009年2月、145～189頁)。

鶴見 尚弘

⑦「道州制または広域連合による大学の再編統合」(山梨県立大学新年講演会、2009年1月14日、於:ベルクラシック甲府)。

寺田 浩明

③「伝統中国法の全体像—「非ルール的な法」というコンセプト」(早稲田大学比較法研究所編『比較と歴史の中の日本法学—比較法学への日本からの発信』、成文堂、2008年6月、576～602頁)。

戸倉 英美

⑦「変身故事の変遷—由六朝志怪至《聊齋志異》」、「風景的誕生與其衰変—中国古代詩歌中自然描写的变化」、「從日本雅楽、伎楽看古代亞細亞的文化交流」(以上、全て香港城市大学中国文化中心主催、中国文化講座、2008年4月24～25日、要旨:『中国文化中心講座概覽』、16頁)、「風景的誕生與其

衰変—中国古代詩歌中自然描写的变化」(「重探自然—人文伝統與文人生活」国際研討会主催・「自然詩学重探」ワークショップ、2008年9月9日、於：台湾台北市)、⑧パネル・ディスカッション “Magic, Mythical and Mundane in The Extensive Records of the Taiping Period” (The Twelfth Asian Studies Conference Japan (ASCI)、2008年6月21日、於：立教大学)。

朽尾 武

⑦『『山海経』の図像学事始め』(成城学びの森コミュニティー・カレッジ、2009年2月14日)。

富澤 芳亜

③「1930年代中国銀行與冀豫晋三省紡織工業的重組」(張忠民・陸興龍・李一翔編『近代中国社会環境與企業發展』、上海社会科学院出版社、2008年3月、93～113頁)、⑤『『軍閥の傀儡政權』ではない新たな中華民国北京政府像の提示(書評：金子肇『近代中国の中央と地方』)』(『東方』333、東方書店、2008年11月、20～23頁)。

島海 靖

①『詳説日本史研究(改訂版)』(佐藤信氏・五味文彦氏・高埜利彦氏らと共著、山川出版社、2008年8月、552頁)、③「五箇条の御誓文と立憲政治の形成(『神園』1、明治神宮国際神道文化研究所、2008年10月、28～38頁)、⑦「幕末維新期における立憲政治論—加藤弘之『最新論』を中心に—」(明治維新史学会大会、2008年6月14日、於：青山学院大学)、「司馬遼太郎『坂の上の雲』—人物とその時代」(東急セミナー BE、2008年4月～2009年3月〈連続18回〉、東京急行電鉄)、「日本の歴史・流れと焦点—近・現代—」(朝日カルチャーセンター、2008年10月～2009年3月〈連続10回〉)、⑧『誰でも読める日本近代史年表ふりがな付き』(吉川弘文館、2008年8月、394頁)、『品川弥二郎文書』VII(伊藤隆氏らと共同、尚友倶楽部、2008年12月、300頁)。

中兼 和津次

③「歴史的視野から見た現代中国経済」(『中国経済研究』5-1、中国经济学会、2008年7月、1～4頁)、“China's Energy Strategy and Japan-China Relations,” (in A. Hashimoto et al. (eds), *The Japan-U.S. Alliance and China-Taiwan Relations—Implications for Okinawa*, Sigur Center. George Washington University, 2008, pp. 73-79.)。

長沢 栄治

- ③ “Historical Contexts of Economic Reform in Egypt,” (*Mediterranean World* XVIII, 2008, pp. 57-77)、「マシュレク」(小杉泰・林佳世子・東長靖編『イスラーム世界研究マニュアル』、名古屋大学出版会、2008年、218～225頁)、「ナショナリズム」(小杉泰・林佳世子・東長靖編『イスラーム世界研究マニュアル』、名古屋大学出版会、2008年、375～379頁)、⑦ “Two Autobiographies of Egyptian Intellectuals: Sayyid Qutb and Sayyid ‘Uways,” (*Journee tuniso-japonaise*, 2009. 3.25, CERES, Tunis)。

永田 雄三

- ①『前近代トルコの地方名士—カラオスマンオウル家の研究—』(刀水書房、2009年3月31日、viii+329頁)、③ “Dönemi Osmanlı İstanbul’unda Tiyatro,” (*Türklük Araştırmaları Dergisi* 19, İstanbul, 2008, pp. 327-346.)。

中見 立夫

- ②『内国史院檔 天聰八年』(松村潤氏・楠木賢道氏ほかと共訳註、財団法人東洋文庫、2009年1月、総 xxiii+709頁)、③「旗人金梁与清史档案」(中国第一歴史档案館編『明清档案与歴史研究論文集—慶祝中国第一歴史档案館成立 80周年』上冊、新華出版社、2008年1月、108～120頁)、「大橋忠一と須磨弥吉郎—異色外交官の戦前・戦中・戦後—」(『東アジア近代史』11、東アジア近代史学会、2008年6月、67～87頁)、「「元朝秘史」渡来のごころ—日本における「東洋史学」の開始とヨーロッパ東洋学、清朝「边疆史地学」との交差—」(『東アジア文化交渉研究』別冊4、関西大学文化交渉学教育研究拠点(ICIS)、2009年3月、3～26頁)、④「ハルビンへの回憶—オルガ・バキッチさんの講演に寄せて—」(『近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター』20、近現代東北アジア地域史研究会、2008年12月、8～11頁)、⑦「歴史資料における“公”と“私”の領域—海外での事例—」(東アジア近代史学会 第13回研究大会：歴史資料セッション「現代における歴史学研究と私文書—保存と公開の視点から—」、2008年6月22日、於：中央大学)、“The Russo-Japanese Entente and the “Man-Mō (Manchuria-Mongolia)” Question,” (12th European Conference for Japanese Studies, organized by European Association for Japanese Studies (EAJS), 20 September 2008, Lecce: Hotel Tiziano, Raffaello Room, Abstract: 12TH INTERNATIONAL CONFERENCE OF THE EAJS, SEPTEMBER 20-23/ 2008, SALENTO UNIVERSITY/ ITALY, Università del Salento, 2008, p. 170)、「「元朝秘史」渡来のごころ—日本における「東洋史学」の

開始とヨーロッパ東洋学、清朝「辺疆史地学」との交差—」(文部科学省グローバル COE プログラム関西大学文化交渉学教育研究拠点(ICIS)第2回国際シンポジウム「文化交渉学の構築 I —‘西学東漸’と東アジアにおける近代学術の形成—」、2008年10月24日、於：関西大学)、「日本の東洋史学者と「実録」」(財団法人東方学会第58回全国会員総会講演会、2008年11月8日、於：京大会館、要旨：『東方学』117、財団法人東方学会、2009年1月、257頁)、“The Search for “Northeast Asia” on the World Map: Japanese Approaches,” (Workshop: Mapping the History of Northeast Asia, 29 November 2008, Kioloa, NSW: Kioloa Coastal Campus of the Australian National University)、⑧ “Баярын илгээлт” (BULLETIN: The IAMS News Information on Mongolian Studies Nos. 40-41, the International Association for Mongol Studies, 2007-2008, pp. 24-25.)、「磯野富士子さんのことども」(『みすず』50-5 [通巻 561 号]、みすず書房、2008年6月、20～32頁)、「モンゴル高原で、「日本史」研究に望むことを考える」(『日本歴史』728 [新年特集：日本史研究に望むこと]、日本歴史学会、2009年1月、64～68頁)。

西尾 寛治

③ “Political Strategy for Coexistence in Multi-Ethnic Societies: The Concept of Orang Melayu in the 18th Century Johor-Riau Sultanate,” (ISHII, Yoneo [ed.] *Toyo Bunko Research Library 10: The Changing Self Image of Southeast Asian Society during the 19th and 20th Centuries*, The Toyo Bunko, 2009.3, pp. 3-26.)、⑦ 「混血者とマレー社会：近世・近代移行期のプラナカン概念」(シンポジウム「マレーシア研究の回顧と展望：『マレー農村の研究』を中心に」、第3部「マレーシア研究の展開と将来」、総合地球環境研究所、2008年9月28日、於：京都市、総合地球環境研究所講演室)、「近世のマレー世界における公正(アディル)概念」(日本マレーシア研究会第17回研究大会、2008年12月6日、於：獨協大学、要旨：『JAMS NEWS (日本マレーシア研究会会報)』42、日本マレーシア研究会、2009年3月、p. 4.)、⑧ 「ムシム・アラブ(アラブ人の季節)」(『The Daily NNA [Malaysia Edition] (デイリー NNA マレーシア版)』4015、NNA マレーシア、2009年3月、p. 12)。

延広 真治

① 『講談・人情咄集』(岩波書店、2008年12月、520頁)。

濱田 正美

- ③「北京第一歴史档案館所蔵コーカンド関係文書9種〔含 チャガタイ語文〕」(『西南アジア研究』68、西南アジア研究会、2008、82～111頁)。

林 俊雄

- ①『遊牧国家の誕生』(世界史リブレット98、山川出版社、2009年2月、90頁)。

原 實

- ③“Sleep in Sanskrit Literature: nidrā and svapna,” (*Traditional South Asian Medicine* 8, 2008, pp. 130-163.), 「大地(1)—古代インドの地球観—」(『超域アジア研究報告—付 歴史・文化研究』5、財団法人東洋文庫、2008年、53～80頁)、「古代インドの草木観(2)」(『超域アジア研究報告—付 歴史・文化研究』5、財団法人東洋文庫、2008年、81～107頁)、「輕蔑—常不輕菩薩によせて—」(『法華文化研究』33、立正大学法華經文化研究所、109～124頁)、⑦“Disgraceful Death of Warrior,” (Lecture at Universität München, 2008.6.4.), 「仏教環境論と現代」(日本印度学仏教学会第59回学術大会、2008年9月5日、於：愛知学院大学)、⑧「Préface a Mémorial Ojihara Yutaka, *Studia Indologica* (see above) vii-ix.」(「立正大学法華經文化研究所四十周年を祝して」『法華文化研究』33、立正大学法華經文化研究所、3～4頁)。

平勢 隆郎

- ②『漫画版世界の歴史2—三国志と唐の繁栄—』(監修、集英社、2009年1月、302頁)、③「何謂游俠的“儒化”—豪族石碑出現的背景」(趙力光主編『紀年西安碑林九百二十周年華誕國際學術研討會論文集』、2008年10月)、「「五服」論の生成と展開」(『古中世史研究』21、韓国・中国古中世史学会、2009年2月、205～233頁)、「秦始皇的城市建設設計与其理念基礎」(陳平原・王德威・陳學超編『西安：都市想象与文化記憶』、北京大学出版社、2009年3月、21～38頁)。

弘末 雅士

- ③「東南アジア史研究の最前線—学会創設40周年記念国際シンポジウム特集：特集によせて」(『東南アジア—歴史と文化』37、山川出版社、2008年5月、85～90頁)、“The Changing Intermediary Role of Indonesian Concubines between European and Local Communities at the Turn of the Twentieth Century,” (*The*

Changing Self Image of Southeast Asian Society during the 19th and 20th Centuries, ed. by ISHII Yoneo, The Toyo Bunko, March 2009, pp. 114-139.).

深沢 眞二

③「和漢聯句から和漢俳諧へー芭蕉と素堂と「和漢」ー」(『国文学 解釈と鑑賞』73-10、至文堂、2008年9月、28～36頁)、「桃青らの「漢和の懷昏」をめぐる」(『会報・大阪俳文学会』42、大阪俳文学研究会、2008年10月、1～4頁)、「「すゞしさを」歌仙注釈(下)」(『表現学部紀要』9、和光大学表現学部、2009年3月、1～19頁)。

藤田 忠

③「秦・漢時代の「不孝」の量刑についてー文献と簡牘の比較からー」(『国士館東洋史学』3、国士館大学東洋史学会、2008年、1～28頁)、「商鞅の変法」・『商君書』に関する論文目録(『国士館東洋史学』3、国士館大学東洋史学会、2008年、148～130頁)。

古屋 昭弘

①『張自烈『正字通』字音研究』(好文出版、2009年3月、344頁)、③『『老乞大』と『賓主問答』』(原文中国語、『韓漢語言研究』、ソウル学古房、2008年2月、101～109頁)、『『芭山詩集』と張自烈の友人たち』(『中国文学研究』34、早稲田大学中国文学会、2008年12月、32～46頁)、「上古音の開合と戦国楚簡の通仮例」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』54、早稲田大学大学院文学研究科、2009年、211～228頁)。

弁納 才一

⑧「華北農村訪問調査報告(1)ー2007年12月、山西省太原市・霍州市農村」(『金沢大学経済論集』29-1、金沢大学経済学経営学系、2008年12月、269～282頁)、「華東農村訪問調査報告(1)ー2008年3月、江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』29-1、金沢大学経済学経営学系、2008年12月、283～301頁)、「華東農村訪問調査報告(2)ー2008年9月、江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』29-2、金沢大学経済学経営学系、2009年3月、413～428頁)、「北京大学農学院中国農村経済研究所刊行物」(本庄比佐子編『戦前期華北実態調査の目録と解題』、財団法人東洋文庫、2009年3月、57～78頁)。

堀川 徹

⑦「アジアが結ぶ東西世界」(コメント、関西大学三研究所公開合同シンポジウム、2008年9月27日)、「世界遺産にみるイスラム文明(1) イスタンブール歴史地区」(KEIBUN 文化講座、2008年4月11日、4月25日、5月9日、5月23日、6月13日、6月27日)、「世界遺産にみるイスラム文明(2) 中央アジア」(KEIBUN 文化講座、2008年9月26日、10月10日、10月24日、10月31日、11月14日、11月28日)、⑧「シルクロードと能」(『桃心』(金春康之後援会会報誌)14、2008年12月1日)。

本庄 比佐子

②『戦前期華北実態調査の目録と解題』(財団法人東洋文庫、2009年3月、209頁)。

松重 充浩

④「日本大学文理学部情報科学研究所蔵「ハルビン絵葉書(黒崎コレクション)デジタルアーカイブ」構築の試みについて」(千葉正史氏・林幸司氏との共著、『近現代東北アジア地域史研究会 NEWS LETTER』20、近現代東北アジア地域史研究会、2008年12月、28～37頁)、⑤「旧制高等商業学校の華北調査」(本庄比佐子編『戦前期華北実態調査の目録と解題』、財団法人東洋文庫、2009年3月、87～94頁)、⑥「ハルビンの風景：ハルビン絵葉書アーカイブの可能性と課題」(千葉正史氏・林幸司氏との共同報告、財団法人日本郵趣協会「< JAPEX'08 > 第43回全国切手展」、2008年11月2日、要旨：『< JAPEX'08 > 記念出版 MANCHURIA 満洲・東北』、財団法人日本郵趣協会、2009年3月、342～345頁)。

松永 泰行

③“Mohsen Kadivar, an Advocate of Postrevivalist Islam in Iran,” (*Iranian Intellectuals: 1997-2007*, ed. Lloyd Ridgeon, Routledge (London and New York) 2008.4, pp. 57-69.), “Political Parties,” (*Iran Today: An Encyclopedia of Life in the Islamic Republic* vol.2, eds. Mehran Kamrava and Manochehr Dorraj, Greenwood Press (Westport, CT), 2008.10, pp. 390-394), “Revisiting Ayatollah Khomeini's Doctrine of Wilayat al-Faqih (Velayat-e Faqih),” (*Orient*, 44, NIPPON ORIENTO GAKKAI, 2009.3, pp. 77-90)。

松本 弘

③「民主化と構造調整—イエメンの事例から—」(『中東研究』500、中東調査会、

2008年6月、17～28頁）、「イエメンの政治と社会変容：自由化の意味」（福田安志編『湾岸、アラビア諸国における社会変容と政治システム—GCC諸国、イラン、イエメン—』（調査研究報告書）、日本貿易振興機構アジア経済研究所、2008年10月、193～228頁）、⑦「GCC諸国の政治制度と民主化」（国際交流基金異文化理解講座「湾岸アラビア諸国を知ろう」、国際交流基金、2008年10月17日）、「中東の政治社会」（防衛省防衛研究所第56期一般課程講義、2009年3月17日、於：防衛省防衛研究所）、⑧「研究案内 中東の民主化」、「海外文献調査ガイド イエメン」、「海外文献調査ガイド アラブ首長国連邦」（小杉泰・林佳世子・東長靖編『イスラーム世界研究マニュアル』、名古屋大学出版会、2008年、367～370頁、542～543頁、544頁）。

丸川 知雄

②『中国発・多国籍企業』（中川涼司氏と共編、同友館、2008年11月、234頁、うち「はしがき」iii～v頁、「第1章 中国発・多国籍企業」1～20頁、「第5章 海爾集団（ハイアール）の日本市場戦略」（才鑫氏と共著）97～120頁、「第7章 奇瑞と吉利—中国系自動車メーカーの海外展開」157～180頁、「第9章 尚徳電力（サンテック）の日本進出—太陽電池産業の現状」199～225頁、「あとがき」227～230頁を執筆）、『現代アジア研究3 政策』（武田康裕氏・巖善平氏と共編、慶應義塾大学出版会、2008年12月、408頁、うち、「序章 現代アジアが抱える政策課題と政策」（武田康裕氏・巖善平氏と共著）1～15頁、「第8章 21世紀型の産業政策—中国の事例を中心に」209～230頁を執筆）、『中国総覧2007—2008年版』（中国総覧編集委員会編、ぎょうせい、2008年9月、572頁、うち「工業」307～315頁を執筆。第4編「経済」を編集）、『中国の産業集積の探求』（現代中国研究拠点 研究シリーズNo.4、東京大学社会科学研究所、2009年3月、97頁、うち「はしがき」、第4章「広東省のステンレス食器産業集積」65～81頁を執筆）、③「中国とインドの民族系企業の台頭—自動車産業を中心に」（『東亜』493、霞山会、2008年7月、10～19頁）、「産業集積の発生：温州での観察から」（『中国経済研究』5-1、中国経済学会、2008年3月、19～34頁）、「自動車産業の高度化」（今井健一・丁可編『中国 高度化の潮流』、アジア経済研究所、2008年12月、47～76頁）、「中国自動車産業の競争力」（国際経済交流財団委託・株式会社現代文化研究所『中国自動車産業の競争力に関する調査研究報告』、2009年3月）、「中国経済は転換点を迎えたのか」（国際貿易投資研究所『中国労働市場の構造転換研究会報告書』、2009年3月）、⑤「石井知章『中国社会主義国家と労働組合 中国型協商体制の形成過程』」（『大原社会問題研究所雑誌』

596、法政大学大原社会問題研究所、2008年7月、79～81頁）、「Moriki Ohara, Interfirm Relations under Late Industrialization in China: The Supplier System in the Motorcycle Industry」(『比較経済研究』45-2、比較経済体制学会、2008年6月、56～59頁)、⑧「地理：新聞やテレビで『いま』を知れ」(『東京大学新聞』、2008年9月16日)、「The Discovery of Industrial Agglomerations in China,」(Social Science Japan, No.39, September 2008, pp. 13-15.)、「中国学のヒント10 中国経済研究」(『東方』335、東方書店、2009年1月、10～11頁)、「ワールドインパクト—中国の産業・総論」(『国際貿易』1824、日本国際貿易促進協会、2008年10月26日)、「世界の工場・中国の舞台裏を解明する」(『淡青』21、東京大学広報委員会、2008年10月、28頁)。

三浦 徹

③「架橋する法：イスラーム法が生まれるとき」(林信夫・新田一郎編『法が生まれるとき』、創文社、2008年10月、259～283頁)。

水野 善文

③ “The Atmosphere of Bhakti in Indian Literary works: Especially in a Buddhist stotra, one of Katha literature and a Folktale.” (科学研究費補助金基盤研究(B)『中世ヒンドゥイズムにおけるバクティ運動の歴史的展開』研究成果報告書(研究代表者：山下博司)、2008年3月、137～155頁)、「ジャンルを異にする諸テクスト間の時空—インド文学史の記述法を模索しつつ—」(科学研究費補助金基盤研究(A)『多言語社会における文学の歴史的展開と現在』研究成果報告書(研究代表者：水野善文)、2008年3月、171～195頁)、⑦「インド的文明とは何か? IIの総括」(南アジア学会設立20周年記念連続シンポジウム第6回、2008年6月18日、於：東京大学)、「ケーシャヴダースが紹介するブラジ・バーシャー詩の韻律」(科学研究費補助金基盤研究(B)『ヒンディー・ウルドゥー韻律のリズム構造の解明—ペルシア起源説の検証をととして—』(研究代表者：長崎広子)第2回研究会、2008年11月15日)、「驚きの一致! インドの夢占い—古代からの吉凶判断—」(ちょうふ市内・近隣大学等公開講座『世界の‘夢’模様—文学を浮遊して—』、2008年10月16日)、⑧「インドのことばをめぐるあれこれ[1] サンスクリット語の今」(Teaching English Now, 11、三省堂、2008年2月、1頁)、「本という運命(さだめ)に身をまかせて」(『Castalia(知の泉：東京外国語大学図書館報)』15、2008年3月、3～4頁)、「インドのことばをめぐるあれこれ[2] ベナレスって、どこ?」(Teaching English Now, 12、三省堂、2008年4月、1頁)。

三谷 孝

- ②『戦争と民衆—戦争体験を問い直す—』（旬報社、2008年4月、総325頁）、
⑦「秘密結社の社会史—20世紀中国の場合—」（一橋大学社会学部連続市民講座「市民の社会史」、2007年4月21日、要旨：一橋大学社会学部編『市民の社会史—戦争からソフトウェアまで—』、彩流社、2008年11月、59～76頁）。

御牧 克己

- ③ “Nine Vehicles of the Southern Treasury (*lho gter gyi theg pa dgu*) as presented in the *Bon sgo gsal byed* of Tre ston rGyal mtshan dpal, Part One: First Four Vehicles -Annotated Translation-,” (Samten Karmay 氏と共著、『京都大学文学部研究紀要』48、2009年3月、33～172頁）。

村井 章介

- ①『東アジアのなかの中世韓国と日本（景仁韓日関係研究叢書6）』（韓国語、景仁文化社、2008年10月、544頁）、②『中世東国武家文書の研究—白河結城家文書の成立と伝来—』（高志書院、2008年5月、365頁）、“Studies of Medieval Ryukyu within Asia's Maritime Network,” (*ACTA ASIATICA*, 95, TOHO GAKKAI, 2008.8, p. 104.）、『「人のつながり」の中世』（山川出版社、2008年10月、242頁）、③「結城親朝と北畠親房」（村井章介編『中世東国武家文書の研究—白河結城家文書の成立と伝来—』、高志書院、2008年5月、215～239頁）、「建武の新政」（歴史科学協議会編『天皇・天皇制をよむ』、東京大学出版会、2008年5月、140～143頁）、「松浦党の壱岐島「分治」と境界人ネットワーク」（村井章介編『「人のつながり」の中世』、山川出版社、2008年10月、188～213頁）、「大内義隆の対朝鮮通交の一事例」（『山口県史の窓』史料編中世4、山口県、2008年10月、1～4頁）、「蒙古襲来と異文化接触」（韓国語・日本語、韓日文化交流基金・東北亜歴史財団編『モンゴルの高麗・日本侵攻と韓日関係』、景仁文化社、2009年3月、3～55頁）、「尹龍赫「三別抄と麗日関係」への討論文」（韓国語、韓日文化交流基金・東北亜歴史財団編『モンゴルの高麗・日本侵攻と韓日関係』、景仁文化社、2009年3月、190～193頁）④「2007年の歴史学界—回顧と展望—・総説」（『史学雑誌』117-5、史学会、2008年6月、1～4頁）、⑦ “Monks Portraits in Japanese-Chinese Interaction in the 13th-14th Centuries,” (AAS Annual Meeting、2008年4月4日、Hyatt Regency Atlanta〔米国Atlanta市〕）、「笑雲瑞訢と雪舟等楊—実用風景画論—」（国際学術シンポジウム「東アジア文化交流—人物往来—」、2008年7月26日、於：杭州湾大酒店〔中国

杭州市))、「明代日中関係の連鎖構造」(「明清史合宿 2008 in 島根」、2008 年 8 月 2 日、於：ビッグハート出雲〔島根県出雲市〕)、「鉄砲伝来研究の現在」(西之表市市制施行 50 周年記念シンポジウム「鉄砲伝来 今よみがえる種子島」、2008 年 8 月 23 日、於：西之表市民会館〔鹿児島県西之表市〕)、“Who are Medieval ‘Japanese Pirates’ (*Wako*)?—On the polemic at the Japanese-Chinese joint research in history,” (International Conference “History Education and Reconciliation-comparative perspectives on East Asia,” (2008 年 10 月 15 日、Georg-Eckert-Institut für Internationale Schulbuchforschung〔ドイツBraunschweig市〕)、「蒙古襲来と異文化接触」(韓国国際学術会議「蒙古の高麗・日本侵攻と韓日関係」、2008 年 10 月 25 日、於：韓国国学振興院〔韓国安東市〕)、「輸入文化としての喫茶—13～14 世紀の文字史料から—」(茶道資料館シンポジウム「鎌倉時代の喫茶文化」、2008 年 11 月 3 日、於：茶道資料館〔京都市〕)。

村田 雄二郎

③「五四時期国語統一論争—從“白話”到“国語”」(趙京華訳、『東亜人文』1、生活・新知・読書三聯書店、2008 年 10 月、135～164 頁)、「清末の言論自由と新聞—天津『国聞報』の場合」(『近きに在りて』54、野沢豊、2008 年 11 月、2～16 頁)、「一位日本外交書記官記述的康有為与戊戌維新一読中島雄《随使述作存稿》与《往復文書目録》」(孔祥吉氏と共著、『ODYSSEUS (東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究 紀要)』13、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻、2009 年 3 月、29～46 頁)、「從日本両国档案看《国聞報》の内幕(上)(下)」(孔祥吉氏と共著、『学術研究』2008 年 7 月号・9 月号、95～109 頁・81～98 頁)、⑦「晚清言論自由与報紙：以『国聞報』為例」(「近現代中国リベラリズム研究」ワークショップ、2008 年 9 月 14 日、於：上海・復旦大学)、「漢字簡化浅論—另一个簡体字」(「20 世紀中国の政治と文化」国際シンポジウム、2008 年 10 月 26～29 日、於：北京・清華大学)。「京師白雲觀与晚清外交」(第 2 回「近代知と制度システムの転換」国際シンポジウム、2008 年 11 月 28～30 日、於：広州・中山大学)、「ユーラシア地域国家としての中国—P. Perdue, *China Marches West: The Qing Conquest of Central Eurasia* (2005) を素材にして」(科学研究費補助金・新学術領域研究「地域大国の比較研究」合同研究会、2009 年 3 月 3 日、於：北海道大学スラブ研究センター)、⑧「巻頭言」(『中国留学論集』8、霞山会、1 頁)、「光陰似箭：現代中国研究と訓詁学」(『中国研究月報』728、中国研究所、2008 年 10 月、50～51 頁)。

毛里 和子

①『中日関係—従戦後走向新時代』(徐顕芬訳、社会科学文献出版社、2009年2月、237頁)、「政改“中间道路”:东亚政治发展启示—于建嵘对话毛里和子」(『南方周末』、2008年11月20日)、「学としての“地域研究”の現状と課題」(『北東アジア研究交流ネットワーク 年報』2、2008年11月、6～11頁)、「激流の中にある現代中国にどう迫るか」(『論壇 人間と文化』3、人間文化研究機構、2008年11月、102～119頁)、「東アジアの新情勢と日中関係」(『民主主義教育 21』2、2008年5月、206～215頁)、「“平和的崛起”に向かうのか キーワードで読む中国外交」(『外交フォーラム』2008年5月号、2008年4月、23～27頁)、⑦「当代中国政治の分析—パラダイム転換のために」(愛知大学国際中国学研究センター主催国際シンポジウム、2008年12月6日、於:愛知大学)、「為了転換当代中国研究的範式」(南京大学社会学系建系20周年記念「中国社会与中国研究」国際學術研討會、中国語、2008年10月26日、於:南京大学)、「新段階の中日関係」(上海師範大学2008 International Scholars' Forum (08 学思湖海海外名師論壇)、中国語、2008年10月23日、於:上海師範大学)、「動く中国と変わらない中国」(日本アジア政経学会2008年全国大会パネル・ディスカッション「動く中国」、2008年10月11日、於:神戸学院大学)、“Sino-Japanese Relations and A New Regionalism in Asia,” (East Asia Programme, I.C.S., Centre for the Study of Developing Societies, India, 26 Sept., 2008, Delhi)。

本野 英一

③「光緒新政期商標保護制度の挫折と日英対立」(『社会経済史学』74-3、2008年9月)、⑤「碩学の遺著に対するオマージュ:『馬建忠の中国近代』」(『東方』329、東方書店、2008年7月、33～36頁)、「フェルメールの名画を扉とした『一七世紀グローバリゼーション』」(『東方』330、東方書店、2008年8月)、⑦「清末民初における商標権侵害紛争—特に日本商人・企業の行動を中心に—」(社会経済史学会第七十七年全国大会自由論題報告、於:広島大学、2008年9月27日)、「従外国勢力来たる中国商標法(1923)的意義—以日本・英国為中心—」(中国商業史論壇報告論文、於:香港大学、2008年11月28日)。

森平 雅彦

②『朝鮮の歴史—先史から現代—』(田中俊明氏・桑野栄治氏・河かおる氏・太田修氏との共著、昭和堂、2008年4月、372頁)、③「高麗王家とモンゴル皇族の通婚関係に関する覚書」(『東洋史研究』67-3、東洋史研究会、2008年12

月、1～39 頁)、「高麗群山亭考」(『年報朝鮮學』11、九州大学朝鮮学研究会、2008 年 5 月、29～53 頁)、「高麗における宋使船の寄港地「馬島」の位置とめぐって—文献と現地の照合による麗宋間航路研究序説—」(『朝鮮学報』207、朝鮮学会、2008 年 4 月、1～47 頁)。

森安 孝夫

⑦「唐・チベット・ウイグル三大勢力の角逐からトルキスタンの成立へ」(平成 20 年度兵庫県高等学校教育研究会社会部会春季総会、2008 年 5 月 23 日、於：兵庫県立考古博物館)、“The Discovery of Manichaean Paintings in Japan and Their Historical Background.”(National Palace Museum, Taipei = 故宮博物院(台北)、2008 年 12 月 25 日)。

柳田 征司

③「東京大学国語研究室蔵『蒙求抄』について」(『訓点語と訓点資料』121、訓点語学会 2008 年 9 月、60～84 頁)、⑧「「きわだやたのみなるらん」—狂言のこぼ一片—」(『愛媛国文と教育』41、愛媛大学教育学部国語国文学会、2009 年 2 月、1～11 頁)、「抄物目録稿(仏書他一斑)」(『抄物の研究』16、抄物研究会、2009 年 3 月、1～51 頁)、「東京大学文学部国語研究室蔵『蒙求抄』(三)」(奈良大学大学院生と共編、『奈良大学大学院研究年報』14、奈良大学大学院、2009 年 3 月、1～11 頁)。

柳谷 あゆみ

②『日本におけるアラビア文字資料の所蔵及び整理状況の調査』(NIHU プログラム「イスラーム地域研究」東洋文庫拠点、2009 年 3 月、66 頁)、⑥「Rihlah ma‘a al-Hayku」(Hassan Abbas 氏と共訳、Damascus: Dar al-Afif lil-Dirasat wa-al-Nashr, 2008, p. 143.)、「イブン・ハルドゥーン自伝」(『イスラーム地域研究ジャーナル』1、早稲田大学イスラーム地域研究機構、2009 年、49～58 頁)。

矢吹 晋

①『日本の発見—朝河貫一と歴史』(花伝社、2008 年 12 月、265 頁)、③「中国全人代分析」(『統計月報』2008 年 5 月号、東洋経済新報社、13～17 頁)、「中国最高指導部の権力バランス」(『中国情報源』、蒼蒼社、2008 年 7 月、16～25 頁)、「チベット騒乱」(『中国情報源』、蒼蒼社、2008 年 5 月、30～37 頁)、「中国経済の中長期展望」(『中国情報ハンドブック』、蒼蒼社、2008 年 7 月、17～

101 頁)、⑤「信太謙三著『巨龍のかたち』」(『電子礫・蒼蒼』24、21 世紀中国総研ネット、2008 年 5 月、http://www.21ccs.jp/soso/gyakujun/gyakujijunji_21.html)、「中国の「どん底世界」—『中国低層訪談録』を読む—」(Directors Watching、21 世紀中国総研ネット、2008 年 6 月、http://www.21ccs.jp/china_watching/DirectorsWatching_YABUKI/Directors_watching_41.html)、「上田信『風水という名の環境学』」(『出版ダイジェスト』2122、出版ダイジェスト社、2008 年 6 月 20 日)、「池谷薫『人間を撮る』」(『日本と中国』2008 年 8 月 5 日号)、「西茹著『中国の経済体制改革とメディア』、集広舎、2008 年 7 月(『中国図書』2009 年 1 月号、内山書店)、「フレデリック・ウィリアムズ著『サミュエル・ウィリアムズ生涯と書簡』、高城書房、2008 年 8 月(『中国図書』2009 年 1 月号、内山書店)、「布占祥・馬亮寛主編『傅斯年与中国文化』、天津古籍出版社、2006 年 3 月(『中国図書』2009 年 1 月号、内山書店)、⑦「全人代からチベット問題まで」(『東亜』2008 年 5 月号、霞山会)、「全人代・毒ギョーザ・チベット問題」(『善隣』2008 年 5 月号、国際善隣協会)、⑧インタビュー「論陣・改革開放 30 年」(『読売新聞』2008 年 12 月 11 日)、映画『戦場のレクイエム』解説(『東宝ステラ』2008 年 10 月)、「胡錦濤訪日」(時事通信ネットマガジン『複眼中国』2008 年 5 月 28 日号)、「四川省地震」(時事通信ネットマガジン『複眼中国』2008 年 7 月 1 日号)、「一保一控」(時事通信ネットマガジン『複眼中国』2008 年 8 月 1 日号)、「北京五輪の残したもの」(時事通信『e-World』2008 年 9 月 10 日号)、「Chimerica という構図」(時事通信ネットマガジン『複眼中国』2009 年 1 月 7 日号)、「いま中国の課題は区分所有法である」(『マンション学の構築と都市法の新展開—丸山英気先生古稀記念論文集』、プログレス、2009 年 1 月、664～665 頁)。

山口 瑞鳳

③「ツォンカパの教義—仏説との乖離に驚く」(『成田山仏教研究所紀要』32、大本山成田山新勝寺成田山仏教研究所、2009 年 2 月、57～163 頁)。

山本 英史

③「中国訴訟文書の世界」(佐藤道生編『古文書の諸相』、慶應義塾大学文学部、2008 年 7 月、85～97 頁)、「清康熙の孤本公牘三種について」(『史学』77-4、三田史学会、2009 年 3 月、13～25 頁)、「清代の公牘とその利用」(大島立子編『前近代中国の法と社会—成果と課題—』、財団法人東洋文庫、2009 年 3 月、53～70 頁)、⑧「和田博徳先生を悼む」(『三田評論』1118、慶應義塾、2008 年 12 月、110 頁)、「和田博徳先生を偲ぶ 附和田博徳先生業績分類目録」(『史

学』77-4、三田史学会、2009年3月、91～101頁）。

吉田 光男

①『近世ソウル都市社会研究』（草風館、2009年2月、294頁）、『北東アジアの歴史と朝鮮半島』（放送大学教育振興会、2009年3月、222頁）、②『日本所在朝鮮近世記録類解題』（東洋文庫東北アジア研究班（朝鮮）編、財団法人東洋文庫、2009年3月、258頁）、③「近世韓国における住民の居住地移動—慶尚道丹城県の場合—」（『韓国朝鮮の文化と社会』7、2008年10月、031～061頁）、⑥「朴漢濟編『中国歴史地図』（平凡社、2009年1月、238頁）。

吉田 豊

③「大谷探検隊収集『西巖寺藏橋資料』について」（大木彰氏・橋堂晃一氏と共著、『東洋史苑』70・71合併号、龍谷大学東洋史学研究会、2008年6月、59～79頁）、“Die buddhistischen sogdischen Texte in der Berliner Turfansammlung und die Herkunft des buddhistischen sogdischen Wortes für Bodhisattva,” (Y. Kasai tr., *Acta Orientalia Hungarica* 61-3, 2008.6, pp. 325-358.), 「寧波のマニ教画 いわゆる「六道図」の解釈をめぐる」（『大和文華』120、大和文華館、2009年3月、3～15頁）、“Karabalgasun Inscription and the Khotanese documents,” (P. Zieme et al. (eds.), *Literarische Stoffe und ihre Gestaltung in mitteliranischer Zeit.*, Berlin, 2009.3., pp. 351-364.), “Buddhist literature in Sogdian,” (R. E. Emmerick and M. Macuch (eds.) *The Literature of Pre-Islamic Iran - Companion Volume I (History of Persian Literature 17)*, London, 2008, pp. 288-329.), ⑤ “Christiane Reck, *Mitteliranische Handschriften. Teil 1. Berliner Turfanfragmente manichäischen Inhalts in soghdischer Schrift (Verzeichnis der Orientalischen Handschriften in Deutschland Band XVIII, 1)*, Stuttgart: Franz Steiner Verlag GmbH, 2006, 363 pp.,” (*Indo-Iranian Journal* 51, 2008. 10., pp. 51-61.), ⑥ 「J. EBERT 「近年マニ教画と認定された大和文華館所蔵の絹絵についての覚え書き」」（『大和文華』119、大和文華館、2009年3月、35～47頁）、⑦ 「「六道図」はマニ教の「三道図」」（大和文華館日曜美術講座、2008年6月8日、於：大和文華館〔奈良〕）、「ソグド人の宗教世界」（龍谷大学仏教学特別講座、2008年11月27日、於：龍谷大学）、“Heroes of the Shahnama in a Turfan Sogdian text Sogdians in home and away” (2008年11月13日、於：エルミタージュ博物館〔ロシア・サンクトペテルブルグ〕）、⑧ 「序文・Foreword」（『内陸アジア言語の研究』XXIII、中央ユーラシア学研究会、2008年8月、pp. i-v）、「はじめに」（『大和文華』120、大和文華館、2009年3月、1～2頁）。

吉水 千鶴子

③ “Zhang Thang sag pa's reevaluation of Buddhapālita's statement of consequence (*prasaṅga*),” (『哲学・思想論集』34、筑波大学哲学・思想専攻、2009年3月、81～99頁)、⑤「チベット仏教研究に新時代を開くか、『喝当文集』ほか」(『東方』332、東方書店、2008年10月、20～23頁)、⑦「チベット仏教の潮流 1. 仏教事始」(チベットの歴史と文化学習会、2009年2月8日、於：文京区民センター、要旨は資料として配布)、⑧「成美堂出版編集部編『一冊でわかるイラストでわかる図解宗教史』」(塩尻和子氏・津城寛文氏と共同監修、成美堂出版、2008年10月、143頁)。

吉村 慎太郎

③「「差異化」を超えるアジアからの試みー持続可能な国際平和協力の模索」(平成17年度～19年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書、研究代表者：吉村慎太郎、2009年5月、1～4頁、129～141頁)、⑦「イスラーム世界と「近代」の両義性ーイラン立憲革命(1905-11年)の展開と挫折」(「近代国家とは何か」、2008年6月14日、於：坂の上の雲ミュージアム)、⑧「サイド『オリエンタリズム』」、「日本戦没学生記念会編『きけわだつみのこえー日本戦没学生の手記』」、「中村哲『医者、用水路を拓く』」、「板垣雄三『石の叫びに耳を澄ますー中東和平の模索』」、「ジョンソン『アメリカ帝国への報復』」(いずれも広島大学101冊の本委員会編『大学新入生に薦める101冊の本 新版』、岩波書店、2009年3月、124～125頁、136～137頁、172～173頁、180～181頁、184～185頁)、「イランの「気配り文化」とチャーイー」(『なごみ』8-9、淡光社、2008年5月)。

六反田 豊

③「19世紀慶尚道沿岸における「朝倭未弁船」接近と水軍営鎮等の対応ー『東萊府啓録』にみる哲宗即位年(1849)の事例分析ー」(『大阪市立大学東洋史論叢』別冊特集号、大阪市立大学東洋史研究室、2009年1月、157～187頁)、⑦「19世紀慶尚道南部海域における「朝倭未弁船」接近と水軍営鎮の対応ー『東萊府啓録』にみえる1849年の事例分析ー」(朝鮮史研究会関東部会2008年7月例会、2008年7月19日、要旨：『朝鮮史研究会会報』、朝鮮史研究会、(号数未定)掲載予定)、『西岳志』異本考ーその概要と類型化ー」(第59回朝鮮学会大会、2008年10月6日、要旨：『朝鮮学報』210、朝鮮学会、2009年1月、167～168頁)、「朝鮮時代海軍史研究の課題と可能性」(韓・日海洋史海洋文化共同ワークショップ「韓日海洋史研究の最前線」、2008年11月27日、要旨：『韓

日海洋史研究の最前線』(予稿集)、木浦大学人文大学、2008年11月、121～124頁)、「朝鮮時代の政治・文化と絵画」(静岡県立美術館公開ワークショップ「朝鮮時代の絵画とその周辺—時代背景への視点」、2009年3月1日、要旨なし)。

和田 恭幸

②『仮名草子集成』第44巻、共編(東京堂出版、2008年9月、336頁)、『浅井了意全集』仏書編1、(岩田書院、2008年9月、709頁)。

IV 業 務 報 告

1. 総 務 報 告

A. 会議事項

(1) 理事会

第 336 回 開催日 2008 年 6 月 3 日（火曜日）

出席者 榎原 稔、山川尚義、石井米雄、草原克豪、佐藤次高、斯波義信、
田仲一成、鶴見尚弘、中根千枝、濱下武志、福澤 武、三木繁光
委任状 岩崎寛彌、大崎 仁、原 實

第 337 回 開催日 2009 年 2 月 17 日（火曜日）

出席者 榎原 稔、山川尚義、草原克豪、佐藤次高、斯波義信、田仲一成、
中根千枝、濱下武志、原 實、福澤 武、三木繁光
委任状 石井米雄、大崎 仁、鶴見尚弘

(2) 評議員会

第 159 回 開催日 2008 年 6 月 3 日（火曜日）

出席者 荒蒔康一郎、梅村 坦、久保正彰、後藤 明、瀬谷博道、
平野健一郎、増田信行
委任状 有馬朗人、安西祐一郎、尾池和夫、岸本美緒、小宮山宏、
佐竹昭広、白井克彦、西田龍雄、間野英二、Wang Gungwu

第 160 回 開催日 2009 年 2 月 17 日（火曜日）

出席者 梅村 坦、久保正彰、平野健一郎
委任状 荒蒔康一郎、有馬朗人、安西祐一郎、尾池和夫、岸本美緒、
後藤 明、小宮山宏、白井克彦、瀬谷博道、西田龍雄、
増田信行、間野英二、Wang Gungwu

(3) 東洋学連絡委員会

前期 開催日 2008年5月20日(火曜日)

出席者 石井米雄、梅原 郁、興膳 宏、斯波義信、竺沙雅章、中根千枝、森本公誠

- 議題 1. 2007年度財団法人東洋文庫事業報告について
2. 2008年度財団法人東洋文庫事業計画について
3. その他

後期 開催日 2009年2月6日(金曜日)

出席者 榎原 稔(委員長)、斯波義信、石井米雄、尾崎 康、興膳 宏、間野英二、森本公誠

- 議題 1. 2008年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2. 2009年度財団法人東洋文庫事業計画案について
3. その他

B. 総務・広報事項

- ・当文庫リーフレットを作成し、関係機関等に配布した。
- ・特別展示会の開催、文京区等の行事への参加及び関係する広報誌への協力等を行い、広報普及活動を図った。

C. 設備・営繕事項

- ・文庫の建替えに伴い、11月上旬に付属棟への事務所引越し、備品等の一部外部保管移動並びに人間文化研究機構による2室等について外部事務所への移転を行った。

2. 人事報告

A. 役員

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2008. 7. 1	評議員	佐竹昭広	逝去	
2008. 7.23	理事	岩崎寛彌	逝去	

B. 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2008. 4. 1	部長代理	青木雄二	昇級	
"	研究員	會谷佳光	就職	
"	"	櫻井徹子	就任	
"	"	篠崎陽子	"	
"	"	原山隆広	就職	
"	"	山村義照	就任	
"	参事	橘伸子	異動	
2008. 4.11	研究員	矢澤利彦	逝去	
2008. 5. 7	"	丸尾常喜	"	
2008. 7. 1	"	佐竹昭広	"	
2008. 7.28	"	和田博徳	"	
2008.11. 8	研究員	荒松雄	逝去	
2009. 1. 1	会計課長	柴代淳子	昇級	
"	主幹研究員	會谷佳光	"	
"	"	瀧下彩子	"	
2009. 2. 1	研究員	池田雄一	委嘱	
2009. 3.31	文庫長	渡邊幸秀	転任	*
"	閲覧係長	中善寺慎	"	*
"	研究員(兼任)	永田雄三	退任	

(*印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

C. 客員研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2008.10. 3	研究員(客員)	小南一郎	委嘱	
2009. 3.31	"	池田温	退任	
"	"	栃尾武	"	
"	"	原實	"	
"	"	柳田征司	"	

3. 会 計 報 告

貸 借 対 照 表

2009年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	2,478,478	2,681,579	△ 203,101
前払費用	2,864,451	2,856,507	7,944
未収金	12,135,286	20,081,023	△ 7,945,737
仮払金	0	5,400,000	△ 5,400,000
商 品	3,460,223	5,655,865	△ 2,195,642
流動資産合計	20,938,438	36,674,974	△ 15,736,536
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
図書資料	1,041,708,012	1,041,708,012	0
土地	110,494	110,494	0
保証金	50,000	50,000	0
投資有価証券	2,842,419,502	2,841,936,643	482,859
預金	115,322	115,322	0
基本財産合計	3,884,403,330	3,883,920,471	482,859
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	31,708,144	25,950,488	5,757,656
建物設備修繕引当資産	63,276,068	0	63,276,068
特定資産合計	94,984,212	25,950,488	69,033,724
(3) その他固定資産			
建物	286,633,675	457,692,206	△ 171,058,531
構築物	1,075,735	1,344,669	△ 268,934
什器備品	23,359,960	27,049,400	△ 3,689,440
図書資料	153,859,313	110,184,981	43,674,332
ソフトウェア	4,204,302	2,648,743	1,555,559
電話加入権	364,000	364,000	0
保証金	2,215,440	0	2,215,440
長期前払費用	1,817,492	0	1,817,492
建物等修繕引当資産	0	63,077,400	△ 63,077,400
運営調整積立資産	82,413,540	36,387,985	46,025,555
その他固定資産合計	555,943,457	698,749,384	△ 142,805,927
固定資産合計	4,535,330,999	4,608,620,343	△ 73,289,344
資産合計	4,556,269,437	4,645,295,317	△ 89,025,880
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,977,285	2,684,025	293,260
預り金	1,252,112	1,316,150	△ 64,038
賞与引当金	7,559,536	6,496,053	1,063,483
流動負債合計	11,788,933	10,496,228	1,292,705
2. 固定負債			
退職給付引当金	31,708,144	25,950,488	5,757,656
固定負債合計	31,708,144	25,950,488	5,757,656
負債合計	43,497,077	36,446,716	7,050,361
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金等	202,110,494	202,110,494	0
指定正味財産合計	202,110,494	202,110,494	0
(うち基本財産への充当額)	(202,110,494)	(202,110,494)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	4,310,661,866	4,406,738,107	△ 96,076,241
(うち特定資産への充当額)	(3,682,292,836)	(3,681,809,977)	(482,859)
(63,276,068)	(63,276,068)	(0)	(63,276,068)
正味財産合計	4,512,772,360	4,608,848,601	△ 96,076,241
負債及び正味財産合計	4,556,269,437	4,645,295,317	△ 89,025,880

正味財産増減計算書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	81,600,328	57,186,203	24,414,125
特定資産運用益	89,539	45,882	43,657
受取寄付金	95,400,000	96,000,000	△ 600,000
維持会費収入	40,200,000	40,200,000	0
寄付金収入	55,200,000	55,800,000	△ 600,000
受取会費	462,500	485,000	△ 22,500
受取分担金	25,400,000	25,160,000	240,000
受託金	12,000,000	0	12,000,000
事業収益	8,847,504	7,741,142	1,106,362
受取補助金等	112,160,000	113,240,000	△ 1,080,000
雑収益	566,985	659,565	△ 92,580
経常収益計	336,526,856	300,517,792	36,009,064
(2) 経常費用			
事業費	230,038,968	191,140,763	38,898,205
調査研究費	32,014,932	28,193,658	3,821,274
資料収集・整理費	15,471,370	15,484,435	△ 13,065
研究資料出版費	29,518,223	18,075,810	11,442,413
普及活動費	13,900,993	12,907,396	993,597
学術情報提供費	10,427,213	9,343,562	1,083,651
地域研究プログラム費	12,923,941	11,733,133	1,190,808
受託研究費	10,530,318	0	10,530,318
人件費	66,584,968	41,545,453	25,039,515
給料手当	54,757,558	34,951,451	19,806,107
賞与引当金繰入	3,618,128	1,786,739	1,831,389
退職給付費用	1,936,304	1,012,954	923,350
福利厚生費	6,272,978	3,794,309	2,478,669
事務費	38,667,010	53,857,316	△ 15,190,306
設備保守修繕費	3,047,237	6,760,324	△ 3,713,087
水道光熱費	6,163,368	5,613,510	549,858
謝金	0	1,518,572	△ 1,518,572
賃借料	76,293	0	76,293
業務委託費	1,882,669	0	1,882,669
減価償却費	20,932,990	31,135,718	△ 10,202,728
諸雑費	6,564,453	8,829,192	△ 2,264,739
管理費	66,655,695	77,163,604	△ 10,507,909
人件費	54,948,937	59,214,313	△ 4,265,376
役員報酬	10,720,000	9,070,000	1,650,000
給料手当	30,388,311	36,888,785	△ 6,500,474
賞与引当金繰入	3,941,408	4,709,314	△ 767,906
退職給付費用	3,821,352	1,514,109	2,307,243
福利厚生費	6,077,866	7,032,105	△ 954,239
事務費	11,706,758	17,949,291	△ 6,242,533
設備保守修繕費	477,367	2,253,442	△ 1,776,075
水道光熱費	1,128,535	1,871,170	△ 742,635
謝金	1,845,420	2,067,390	△ 221,970
減価償却費	5,168,732	8,326,428	△ 3,157,696
諸雑費	3,086,704	3,430,861	△ 344,157
経常費用計	296,694,663	268,304,367	28,390,296
当期経常増減額	39,832,193	32,213,425	7,618,768
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産受贈益	17,296,191	2,634,188	14,662,003
経常外収益計	17,296,191	2,634,188	14,662,003
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	153,134,625	162,589	152,972,036
経常外費用計	153,134,625	162,589	152,972,036
当期経常外増減額	△ 135,838,434	2,471,599	△ 138,310,033
税引前当期一般正味財産増減額	△ 96,006,241	34,685,024	△ 130,691,265
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 96,076,241	34,615,024	△ 130,691,265
一般正味財産期首残高	4,406,738,107	4,372,123,083	34,615,024
一般正味財産期末残高	4,310,661,866	4,406,738,107	△ 96,076,241
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	202,110,494	202,110,494	0
指定正味財産期末残高	202,110,494	202,110,494	0
III 正味財産期末残高	4,512,772,360	4,608,848,601	△ 96,076,241

財 務 諸 表 に 対 す る 注 記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的有価証券

償却原価法（定額法）を採用しております。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法を採用しております。

(3) 固定資産の減価償却方法

① 有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 30～50年

什器備品 3～10年

② 無形固定資産

定額法を採用しております。

(4) 引当金の計上基準

① 賞与引当金

役員及び職員の賞与金の支払いに備えて、賞与支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

② 退職給付引当金

役員及び職員の退職給付に備えるため、当事業年度における退職給付債務に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式を採用しております。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
図書資料	1,041,708,012	—	—	1,041,708,012
土地	110,494	—	—	110,494
保証金	50,000	—	—	50,000
有価証券	2,841,936,643	1,000,482,859	1,000,000,000	2,842,419,502
預金	115,322	1,000,027,589	1,000,027,589	115,322
小 計	3,883,920,471	2,000,510,448	2,000,027,589	3,884,403,330
特定資産				
退職給付引当資産	25,950,488	5,780,515	22,859	31,708,144
建物設備修繕引当資産	—	63,276,068	—	63,276,068
小 計	25,950,488	69,056,583	22,859	94,984,212
合 計	3,909,870,959	2,069,567,031	2,000,050,448	3,979,387,542

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
図書資料	1,041,708,012	—	(1,041,708,012)	—
土地	110,494	(110,494)	—	—
保証金	50,000	—	(50,000)	—
有価証券	2,842,419,502	(202,000,000)	(2,640,419,502)	—
預金	115,322	—	(115,322)	—
小計	3,884,403,330	(202,110,494)	(3,682,292,836)	—
特定資産				
退職給付引当資産	31,708,144	—	—	(31,708,144)
建物設備修繕引当資産	63,276,068	—	(63,276,068)	—
小計	94,984,212	—	(63,276,068)	(31,708,144)
合 計	3,979,387,542	(202,110,494)	(3,745,568,904)	(31,708,144)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	812,020,671	525,386,996	286,633,675
構築物	26,893,390	25,817,655	1,075,735
什器備品	76,536,979	53,177,019	23,359,960
ソフトウェア	5,791,380	1,587,078	4,204,302
合 計	921,242,420	605,968,748	315,273,672

5. 満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりです。(単位：円)

科 目	帳簿価額	時 価	評 価 損 益
国債	2,499,937	2,505,200	5,263
三菱自動車工業	299,919,565	298,800,000	△ 1,119,565
三菱UFJセキュリティーズ・インターナショナル	1,000,000,000	586,120,000	△ 413,880,000
三菱セキュリティーズ・インターナショナル・クレジット債	500,000,000	474,725,000	△ 25,275,000
三菱信託銀行ユーロ円建永久劣後債	500,000,000	495,395,000	△ 4,605,000
三菱UFJセキュリティーズ・インターナショナル	500,000,000	411,115,000	△ 88,885,000
共同発行市場公募地方債	40,000,000	40,955,600	955,600
合 計	2,842,419,502	2,309,615,800	△ 532,803,702

6. 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりです。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
一般会計 補助金						
科学研究費補助金 (特定奨励費)	文部科学省	0	110,000,000	110,000,000	0	—
科学研究費補助金	日本学術振興会	0	2,160,000	2,160,000	0	—
合 計		0	112,160,000	112,160,000	0	—

7. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度をもうけています。

(2) 退職給付債務及びその内訳

退職給付債務 Δ 31,708,144 円

退職給付引当金 Δ 31,708,144 円

(3) 退職給付費用に関する事項

勤務費用 5,757,656 円

退職給付費用 5,757,656 円

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算しています。

財 産 目 録

2009 年 3 月 31 日 現 在

(単 位 : 円)

科 目	金 額	額
(資産の部)		
I 流動資産		
現金預金		
現金	28,502	
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金	215,364,148	
三菱東京UFJ銀行駒込支店定期預金	250,000,000	
郵便振替口座	40,330	
前払費用		
保険料等	3,268,451	
未収金		
有価証券未収利息等	12,135,286	
商出版物等	3,460,223	
流動資産合計		484,296,940
II 固定資産		
(1) 基本財産		
図書資料	515,330冊	1,041,708,012
和漢書	364,722冊	
洋写資料	29,800点	
土地		110,494
所在地	東京都文京区本駒込2丁目28番21号	
地番	東京都文京区本駒込2丁目147番1号	
地目	宅地	
面積	3,687.63平方メートル	
保証金		50,000
日本警備保証株式会社保証金		
投資有価証券		2,842,419,502
満期保有目的有価証券		
預金		115,322
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		
基本財産合計		3,884,403,330
(2) 特定資産		
建物		153,764,163
所在地	東京都文京区本駒込2丁目147、157-2	
建物(付属構)	構造 鉄骨造	
	建築面積 216.45平方メートル	
	延床面積 408.14平方メートル	
	空調衛生、昇降機、電気給排水等諸設備	
構築物		6,262,924
建設仮勘定		62,712,965
設計料等		
什器備品		140,853
金庫	1点	
保証金		220,000
敷金		
退職給付引当資産		
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		11,708,144
定期預金		20,000,000
建物設備修繕引当資産		23,276,068
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		40,000,000
定期預金		
特定資産合計		318,085,117
(3) その他固定資産		
建物		286,633,675
所在地	東京都文京区本駒込2丁目28番21号	
建物	構造 鉄筋コンクリート造	
	建築面積 810.74平方メートル	
	延床面積 4,091.02平方メートル	
	空調衛生、昇降機、電気給排水等諸設備	
構築物		1,075,735
什器備品		23,359,960
事務用器具等	146点	
図書資料	13,534冊	153,859,313
和漢書	21,235冊	
洋書	マイトフイルム等	679冊
ソフトウェア	5点	4,204,302
電話加入権	5回線	364,000
保証金		2,215,440
敷金		
長期前払費用		1,817,492
保険料		
運営調整積立資産		
三菱東京UFJ銀行駒込支店普通預金		72,413,540
定期預金		10,000,000
その他固定資産合計		555,943,457
固定資産合計		4,758,431,904
資産合計		5,242,728,844
(負債の部)		
I 流動負債		
未払金	出版物印刷料等	2,977,285
預り金	職員に対する給与源泉所得税等	1,254,521
賞与引当金	役員賞与引当額	7,559,536
流動負債合計		11,791,342
II 固定負債		
退職給付引当金	役員退職金引当額	31,708,144
固定負債合計		31,708,144
負債合計		43,499,486
正味財産		5,199,229,358

収 支 計 算 書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	56,600,000	81,117,469	△ 24,517,469	
維持会費収入	40,200,000	40,200,000	0	
寄付金収入	55,000,000	55,200,000	△ 200,000	
会費収入	500,000	462,500	37,500	
分担金収入	25,160,000	25,400,000	△ 240,000	
受託金収入	0	12,000,000	△ 12,000,000	
研究活動収入	7,500,000	8,847,504	△ 1,347,504	
補助金等収入	110,000,000	112,160,000	△ 2,160,000	
雑収入	500,000	512,762	△ 12,762	
事業活動収入計	295,460,000	335,900,235	△ 40,440,235	
2. 事業活動支出				
事業費	226,960,000	233,759,164	△ 6,799,164	
調査研究費	33,500,000	32,014,932	1,485,068	
資料収集・整理費	32,000,000	33,715,989	△ 1,715,989	
研究資料出版費	30,000,000	29,518,223	481,777	
普及活動費	14,500,000	13,900,993	599,007	
学術情報提供費	13,300,000	8,231,571	5,068,429	
地域研究プログラム費	25,160,000	21,646,962	3,513,038	
受託研究費	0	10,530,318	△ 10,530,318	
人件費	56,000,000	64,648,664	△ 8,648,664	
事務費	22,500,000	19,551,512	2,948,488	
管理費	61,000,000	57,735,611	3,264,389	
人件費	54,000,000	51,127,585	2,872,415	
事務費	7,000,000	6,608,026	391,974	
事業活動支出計	287,960,000	291,494,775	△ 3,534,775	
事業活動収支差額	7,500,000	44,405,460	△ 36,905,460	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
建物等修繕積立資産取崩収入	0	63,276,068	△ 63,276,068	
運営調整積立資産取崩収入	30,000,000	20,000,000	10,000,000	
投資活動収入計	30,000,000	83,276,068	△ 53,276,068	
2. 投資活動支出				
固定資産取得支出	2,500,000	5,355,502	△ 2,855,502	
保証金支出	0	2,215,440	△ 2,215,440	
退職給付引当資産取得支出	5,000,000	5,668,117	△ 668,117	
建物設備修繕引当資産取得支出(特定)	0	63,276,068	△ 63,276,068	
運営調整積立資産取得支出	30,000,000	66,000,000	△ 36,000,000	
投資活動支出計	37,500,000	142,515,127	△ 105,015,127	
投資活動収支差額	△ 7,500,000	△ 59,239,059	51,739,059	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	(注1)
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	△ 14,833,599	14,833,599	
前期繰越収支差額	20,522,881	20,522,881	0	
次期繰越収支差額	20,522,881	5,689,282	14,833,599	

(注) 1. 借入金限度額 30,000,000円

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、前払費用、未収金、仮払金、未払金、預り金、賞与引当金を含めています。

なお、前期末残高及び当期末残高は、下記2に記載するとおりです。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳 (単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	2,681,579	2,478,478
前払費用	2,856,507	2,864,451
未収金	20,081,023	12,135,286
仮払金	5,400,000	0
合 計	31,019,109	17,478,215
未払金	2,684,025	2,977,285
預り金	1,316,150	1,252,112
賞与引当金	6,496,053	7,559,536
合 計	10,496,228	11,788,933
次期繰越収支差額	20,522,881	5,689,282

V 役 職 員 名 簿

2009年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	榎 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社相談役
専務理事 理 事	山 川 尚 義	東洋文庫専務理事
	石 井 米 雄	東洋文庫研究顧問 国立公文書館アジア歴史資料センター長 京都大学名誉教授
〃	大 崎 仁	人間文化研究機構長特別顧問
〃	草 原 克 豪	拓殖大学副学長
〃	佐 藤 次 高	東洋文庫研究部長 早稲田大学教授 東京大学名誉教授
〃	斯 波 義 信	東洋文庫特別顧問 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	田 仲 一 成	東洋文庫図書部長 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	鶴 見 尚 弘	山梨県立大学学長 横浜国立大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	日本学士院第1部部長 東京大学名誉教授
〃	濱 下 武 志	東洋文庫図書顧問 龍谷大学教授
〃	原 實	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	福 澤 武	三菱地所株式会社相談役
〃	三 木 繁 光	株式会社三菱東京UFJ銀行相談役
監 事	岡 野 理一郎	東洋文庫監事
〃	東 條 和 彦	三菱商事株式会社顧問

2. 評 議 員

役 職 名	氏 名	現 職
評 議 員	荒 蒔 康一郎	キリンホールディングス株式会社取締役会長
〃	有 馬 朗 人	科学技術館館長 武蔵学園長 東京大学名誉教授
〃	安 西 祐一郎	慶應義塾塾長
〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	尾 池 和 夫	前京都大学総長
〃	岸 本 美 緒	お茶の水女子大学教授
〃	久 保 正 彰	日本学士院院長 東京大学名誉教授
〃	後 藤 明	東洋大学教授 東京大学名誉教授
〃	小宮山 宏	東京大学総長
〃	白 井 克 彦	早稲田大学総長
〃	瀬 谷 博 道	旭硝子株式会社相談役
〃	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
〃	平 野 健一郎	早稲田大学名誉教授 東京大学名誉教授
〃	増 田 信 行	三菱重工業株式会社相談役
〃	間 野 英 二	龍谷大学教授 京都大学名誉教授
〃	Wang Gungwu	シンガポール大学東亜研究所長

3. 東洋学連絡委員会委員

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	榎 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社相談役
委 員	石 井 米 雄	東洋文庫研究顧問 国立公文書館アジア歴史資料センター長
〃	梅 原 郁	京都大学名誉教授
〃	尾 崎 康	元慶應義塾大学教授
〃	興 善 宏	前京都国立博物館館長 京都大学名誉教授
	斯 波 義 信	東洋文庫特別顧問 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	竺 沙 雅 章	京都大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	日本学士院第1部部長 東京大学名誉教授
〃	西 田 龍 雄	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	間 野 英 二	龍谷大学教授 京都大学名誉教授
〃	御 牧 克 己	京都大学教授 日本学士院会員
〃	森 本 公 誠	東大寺長老

4. 名誉研究員

氏 名	所 属 機 関
BLUSSE, Leonard	Universite Leiden
De BARY, W. T.	Columbia University
ELVIN, Mark	The Australian National University (Prof.Emeritus)
FRANKE, Herbert.	Ludwig-Maximilians-Universitat Munchen (Prof.Emeritus)
HUMPHREYS, R.Stephen	University of California
GERNET, Jacques.	Collège de France
KADIVAR, Mohsen	Tarbiat Modarres University
韓 永 愚	Seoul 大学校 (Prof.Emeritus)
黄 寛 重	国立中興大学 中央研究院歴史語言研究所
KYCHANOV, E.I.	Saint-Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences
LANCIOTTI, Lionelio	University of Naples (Prof.Emeritus)
李 伯 重	清華大学人文社会科学学院經濟学研究所
McDERMOTT, Joseph P.	St.Johns college, Cambridge University
RAFEQ, Abdul-Karim	The College of William and Mary Department of History
SAHIN, Ilhan	Kirgizistan-Turkiye Manas Universitesi
WANG, Gungwu	National University of Singapore

5. 職員・研究員

部 名	職 名	氏 名	現 職 (*印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)
	理 事 長	榎 原 稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社相談役
	特 別 顧 問 専 務 理 事	斯 波 義 信 山 川 尚 義	(総務部長兼務)
総務部	部 長 代 理	青 木 雄 二	
〃	課 長	柴 代 淳 子	
〃	参 事	長谷川 茂 広	
〃	〃	藤 代 和 卓	
〃	〃	藤 村 由美子	
〃	〃	牧 祐紀子	

部 名	職 名	氏 名	現 職
図書部	部長	田 仲 一 成	東洋文庫研究員（兼任）龍谷大学教授 * *
〃	図書顧問	濱 下 武 志	
〃	東洋文庫長	渡 邊 幸 秀	
図書部	閲覧係長	中 善 寺 慎	東洋文庫研究員（兼任） （早稲田大学教授） 東洋文庫研究員（兼任） （国立公文書館アジア資料センター長）
〃	主幹研究員	會 谷 佳 光	
〃	研究員	櫻 井 徹 子	
〃	〃	篠 崎 陽 子	東洋文庫研究員（兼任） （早稲田大学教授） 東洋文庫研究員（兼任） （国立公文書館アジア資料センター長）
〃	〃	山 村 義 照	
〃	〃	橘 伸 子	
研究部	参事	佐 藤 次 高	東洋文庫研究員（兼任） （早稲田大学教授） 東洋文庫研究員（兼任） （国立公文書館アジア資料センター長）
〃	部長	石 井 米 雄	
〃	研究顧問	瀧 下 彩 子	
〃	主幹研究員	原 山 隆 広	現代中国研究資料室研究員 イスラーム地域研究資料室研究員 （中央大学名誉教授） （お茶の水女子大学名誉教授） （東京外国語大学名誉教授） （東京学芸大学名誉教授） （東京外国語大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （中央大学元教授） （熊本大学元教授） （田園調布学園短期大学名誉教授） 東洋文庫特別顧問
〃	研究員	大 澤 肇	
〃	〃	柳 谷 あゆみ	
〃	〃	池 田 雄 一	（東京大学元教授） （日本女子大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東海大学名誉教授） （青山学院大学名誉教授） （京都大学名誉教授） （桐朋学園大学元理事長） （國学院大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東京大学元教授）
〃	〃	市 古 宙 三	
〃	〃	大 江 孝 男	
〃	〃	太 田 幸 男	（東京大学元教授） （日本女子大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東海大学名誉教授） （青山学院大学名誉教授） （京都大学名誉教授） （桐朋学園大学元理事長） （國学院大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東京大学元教授）
〃	〃	岡 田 英 弘	
〃	〃	風 間 喜 代 三	
〃	〃	菊 池 英 夫	（東京大学元教授） （日本女子大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東海大学名誉教授） （青山学院大学名誉教授） （京都大学名誉教授） （桐朋学園大学元理事長） （國学院大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東京大学元教授）
〃	〃	草 野 靖	
〃	〃	酒 井 憲 二	
〃	〃	斯 波 義 信	（東京大学元教授） （日本女子大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東海大学名誉教授） （青山学院大学名誉教授） （京都大学名誉教授） （桐朋学園大学元理事長） （國学院大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東京大学元教授）
〃	〃	志 茂 碩 敏	
〃	〃	末 成 道 男	
〃	〃	多 田 狷 介	（東京大学元教授） （日本女子大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東海大学名誉教授） （青山学院大学名誉教授） （京都大学名誉教授） （桐朋学園大学元理事長） （國学院大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東京大学元教授）
〃	〃	田 仲 一 成	
〃	〃	田 中 時 彦	
〃	〃	田 村 晃 一	（東京大学元教授） （日本女子大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東海大学名誉教授） （青山学院大学名誉教授） （京都大学名誉教授） （桐朋学園大学元理事長） （國学院大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東京大学元教授）
〃	〃	竺 沙 雅 章	
〃	〃	千 葉 熈	
〃	〃	土 肥 義 和	（東京大学元教授） （日本女子大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東海大学名誉教授） （青山学院大学名誉教授） （京都大学名誉教授） （桐朋学園大学元理事長） （國学院大学名誉教授） （東京大学名誉教授） （東京大学元教授）
〃	〃	鳥 海 靖 子	
〃	〃	永 積 洋 子	

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研 究 員	西 田 龍 雄	(京都大学名誉教授)
〃	〃	濱 島 敦 俊	(暨南国際大学教授)
〃	〃	本 庄 比佐子	
〃	〃	松 丸 道 雄	(東京大学名誉教授)
〃	〃	松 村 潤	(日本大学名誉教授)
〃	〃	矢 吹 晋	(横浜市立大学名誉教授)
〃	〃	山 口 瑞 鳳	(東京大学名誉教授)
〃	〃	山 崎 元 一	(國學院大学名誉教授)
〃	〃	吉 田 寅 寅	(立正大学元教授)
〃	〃	渡 辺 紘 良	(獨協医科大学名誉教授)
〃	研究員(兼任)	飯 島 武 次	駒沢大学教授
〃	〃	石 橋 崇 雄	国士舘大学教授
〃	〃	内 山 雅 生	宇都宮大学教授
〃	〃	小 名 康 之	青山学院大学教授
〃	〃	糟 谷 憲 一	一橋大学教授
〃	〃	加 藤 直 人	日本大学教授
〃	〃	川 崎 信 定	東洋大学教授
〃	〃	岸 本 美 緒	お茶の水女子大学教授
〃	〃	窪 添 慶 文	立正大学教授
〃	〃	後 藤 明	東洋大学教授
〃	〃	小 松 久 男	東京大学教授
〃	〃	C.A.ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化 研究所教授
〃	〃	中 兼 和津次	青山学院大学教授
〃	〃	長 澤 栄 治	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	永 田 雄 三	明治大学教授
〃	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化 研究所教授
〃	〃	八尾師 誠	東京外国語大学教授
〃	〃	林 佳世子	東京外国語大学教授
〃	〃	平野 健一郎	早稲田大学名誉教授
〃	〃	弘 末 雅 士	立教大学教授
〃	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
〃	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学教授
〃	〃	御 牧 克 己	京都大学教授
〃	〃	毛 里 和 子	早稲田大学教授
〃	〃	粂 山 明	埼玉大学教授
〃	〃	柳 澤 明	早稲田大学准教授
〃	〃	吉 田 光 男	東京大学教授

6. ■客員研究員■

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員（客員）	青 山 瑠 妙	早稲田大学准教授
〃	〃	秋 葉 淳	千葉大学准教授
〃	〃	浅 野 秀 剛	大和文華館 館長
〃	〃	天 児 慧	早稲田大学教授
〃	〃	新 井 政 美	東京外国語大学教授
〃	〃	荒 川 正 晴	大阪大学教授
〃	〃	飯 尾 秀 幸	専修大学教授
〃	〃	池 田 温	創価大学名誉教授
〃	〃	池 田 美佐子	名古屋商科大学教授
〃	〃	伊 香 俊 哉	都留文科大学教授
〃	〃	石 塚 晴 通	北海道大学名誉教授
〃	〃	磯 貝 健 一	京都外国語大学国際平和言語研究所研究員
〃	〃	井 上 和 枝	鹿児島国際大学教授
〃	〃	井 上 和 人	奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査 部考古第一調査室長
〃	〃	今 西 祐 一 郎	九州大学教授
〃	〃	上 野 英 二	成城大学教授
〃	〃	内 田 知 行	大東文化大学教授
〃	〃	梅 田 博 之	麗澤大学名誉教授
〃	〃	梅 原 郁	京都大学名誉教授
〃	〃	梅 村 坦	中央大学教授
〃	〃	大河原 知 樹	東北大学准教授
〃	〃	大 澤 正 昭	上智大学教授
〃	〃	太 田 信 宏	東京外国語大学准教授
〃	〃	大 谷 俊 太	奈良女子大学准教授
〃	〃	丘 山 新	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	小 川 裕 充	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	奥 村 哲	首都大学東京教授
〃	〃	粕 谷 元	日本大学准教授
〃	〃	片 桐 一 男	青山学院大学名誉教授
〃	〃	片 山 章 雄	東海大学教授
〃	〃	片 山 剛	大阪大学教授
〃	〃	加 藤 弘 之	神戸大学教授
〃	〃	金 丸 裕 一	立命館大学教授
〃	〃	辛 島 昇	東京大学名誉教授
〃	〃	川 井 伸 一	愛知大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員（客員）	川 島 真	東京大学大学院准教授
〃	〃	貴 志 俊 彦	神奈川大学教授
〃	〃	北 本 朝 展	情報・システム研究機構国立情報学研究所准教授
〃	〃	金 鳳 珍	北九州市立大学教授
〃	〃	楠 木 賢 道	筑波大学准教授
〃	〃	久 保 亨	信州大学教授
〃	〃	熊 本 裕	東京大学教授
〃	〃	黒 田 卓	東北大学准教授
〃	〃	気賀澤 保 規	明治大学教授
〃	〃	巖 善 平	桃山学院大学教授
〃	〃	胡 潔	名古屋大学准教授
〃	〃	黄 東 蘭	愛知県立大学准教授
〃	〃	興 梶 一 郎	神田外語大学准教授
〃	〃	小 島 芳 孝	金沢学院大学教授
〃	〃	小 杉 泰	京都大学教授
〃	〃	小 浜 正 子	日本大学教授
〃	〃	小 南 一 郎	龍谷大学教授
〃	〃	早乙女 雅 博	東京大学准教授
〃	〃	桜井 由 躬 雄	前東京大学教授
〃	〃	佐 藤 慎 一	東京大学教授
〃	〃	佐 藤 宏	一橋大学教授
〃	〃	塩 沢 裕 仁	法政大学講師
〃	〃	重 近 啓 樹	静岡大学教授
〃	〃	設 樂 國 廣	立教大学教授
〃	〃	薮 勇 造	東京大学教授
〃	〃	嶋 尾 稔	慶応義塾大学准教授
〃	〃	清 水 宏 祐	九州大学教授
〃	〃	清 水 信 行	青山学院大学教授
〃	〃	庄垣内 正 弘	京都大学教授
〃	〃	新 免 康	中央大学教授
〃	〃	須 川 英 徳	横浜国立大学教授
〃	〃	鈴 木 均	アジア経済研究所新領域研究センター 国際関係・紛争研究グループ長代理
〃	〃	鈴 木 博 之	山形短期大学講師
〃	〃	鈴 木 立 子	愛知大学教授
〃	〃	砂 山 幸 雄	愛知大学教授
〃	〃	妹 尾 達 彦	中央大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員（客員）	關 尾 史 郎	新潟大学教授
〃	〃	関 本 照 夫	東京大学東洋文化研究所所長
〃	〃	曾 田 三 郎	広島大学教授
〃	〃	高 田 幸 男	明治大学准教授
〃	〃	武 内 紹 人	神戸市外国語大学教授
〃	〃	武 田 幸 男	岐阜聖徳学園大学教授
〃	〃	田 島 俊 雄	東京大学教授
〃	〃	立 川 武 蔵	愛知学院大学教授
〃	〃	田 中 明 彦	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	辻 本 裕 成	南山大学准教授
〃	〃	土 田 哲 夫	中央大学教授
〃	〃	鶴 見 尚 弘	山梨県立大学学長
〃	〃	寺 田 浩 明	京都大学教授
〃	〃	唐 亮	横浜市立大学准教授
〃	〃	戸 倉 英 美	東京大学教授
〃	〃	朽 尾 武	成城大学名誉教授
〃	〃	富 澤 芳 亜	島根大学准教授
〃	〃	中 野 真 麻 里	人間文化研究機構国文学研究資料館准教授
〃	〃	並 木 頼 寿	東京大学教授
〃	〃	西 尾 寛 治	防衛大学校教授
〃	〃	延 廣 真 治	帝京大学教授
〃	〃	萩 田 博	東京外国語大学准教授
〃	〃	長谷川 誠 夫	千葉工業大学講師
〃	〃	花 田 宇 秋	明治学院大学教授
〃	〃	濱 田 正 美	京都大学教授
〃	〃	林 俊 雄	創価大学教授
〃	〃	原 實	東京大学名誉教授
〃	〃	平 勢 隆 郎	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	平 野 聡	東京大学准教授
〃	〃	廣 瀬 紳 一	A. T Kearney. Principal
〃	〃	深 沢 眞 二	和光大学教授
〃	〃	藤 田 忠	国士舘大学教授
〃	〃	藤 本 幸 夫	麗澤大学教授
〃	〃	古 田 和 子	慶應義塾大学教授
〃	〃	弁 納 才 一	金沢大学教授
〃	〃	細 谷 良 夫	東北学院大学教授
〃	〃	堀 川 徹	京都外国語大学教授
〃	〃	松 重 光 浩	日本大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員（客員）	松 永 泰 行	東京外国語大学准教授
〃	〃	松 濤 誠 達	大正大学名誉教授
〃	〃	松 本 弘	大東文化大学准教授
〃	〃	丸 川 知 雄	東京大学准教授
〃	〃	水 野 善 文	東京外国語大学教授
〃	〃	三 谷 孝	一橋大学教授
〃	〃	宮 崎 修 多	成城大学教授
〃	〃	村 井 章 介	東京大学教授
〃	〃	村 田 雄二郎	東京大学教授
〃	〃	本 野 英 一	早稲田大学大学院教授
〃	〃	森 平 雅 彦	九州大学准教授
〃	〃	森 安 孝 夫	大阪大学教授
〃	〃	柳 田 征 司	奈良大学教授
〃	〃	山 内 弘 一	上智大学教授
〃	〃	山 内 民 博	新潟大学准教授
〃	〃	山 本 英 史	慶応義塾大学教授
〃	〃	山 本 毅 雄	情報・システム研究機構国立情報学 研究所名誉教授
〃	〃	吉 田 伸 之	東京大学教授
〃	〃	吉 田 豊	神戸市外国語大学教授
〃	〃	吉 水 千鶴子	筑波大学准教授
〃	〃	吉 村 慎太郎	広島大学准教授
〃	〃	六反田 豊	東京大学准教授
〃	〃	和 田 恭 幸	龍谷大学准教授

I The Toyo Bunko's activities in FY2008

The following outlines the projects that the Toyo Bunko conducted during fiscal year 2008, and discusses the developments in the projects.

Firstly, the following explains the changes in officials and staff members made during the 2008 fiscal year. In the Council meeting held in June, Mr. Naoyoshi Yamakawa, Mr. Yoneo Ishii, Mr. Yoshinobu Shiba and Ms. Chie Nakane were reappointed as Directors after their terms had expired. There were no changes in the membership of the Auditors and Councilors. Therefore, there was no change in the organization of the Toyo Bunko, which includes 15 Directors, two Auditors and 17 Councilors.

Regarding the staff members, Research Fellow Yoshimitsu Aitani joined the Library Department, Research Fellow Takahiro Harayama joined the Research Department, and Manager Nobuko Tachibana at the General Affairs Department moved to the Library Department in April. Regarding promotions in January 2009, manager Junko Shibadai in the General Affairs Department was promoted to Senior Manager. Manager (Research Fellow)Saeko Takishita in the Research Department and Manager (Research Fellow)Yoshimitsu Aitani in the Library Department were promoted to Senior Manager (Research Fellows). Mr. Christophe Marquet, who worked at the Toyo Bunko as a representative of the French School of Asian Studies (EFEO), returned to France in September and Mr. Nobumi Iyanaga took his post as the new representative.

With respect to the Spring Conferment of Decorations, Councilor Yuichiro Anzai, who was the President of Keio University, and Visiting Research Fellow Musashi Tachikawa, who is a Professor Emeriti at the National Museum of Ethnology (MINPAKU), were given the Medal with Purple Ribbon. Visiting Research Fellow Hiroyuki Umeda, who is an ex-President of Reitaku University, was given the Order of the Sacred Treasure, Gold Rays with Neck Ribbon. With regard to the Autumn

Conferment of Decorations, Councilor Tatsuo Nishida was given a title of a person of cultural merit and Director Yoneo Ishii was given the Order of the Sacred Treasure, Gold and Silver Star.

It is regrettable to report that the following members passed away during fiscal year 2008: Director Hiroya Iwasaki, Councilor Akihiro Satake, ex-Research Fellow Hironori Wada, Research Fellow Matsuo Ara, Research Fellow Toshihiko Yazawa and Research Fellow Tsuneki Maruo.

There were developments in the reconstruction of the Toyo Bunko building. Construction and equipment work for the annex building and the library building was completed at the end of October. The ceremony for the completion was held on November 5. Design and supervision of the work was conducted by Mitsubishi Jisho Sekkei, Inc. and construction work was conducted by the Toda Corporation. The office moved to the annex building and duties restarted at the temporary office in mid-November. It was decided that construction work on the main building would also be conducted by the Toda Corporation as a result of the bidding process. The ground-breaking ceremony was held on December 4. After launching the demolition of the current office building, it was discovered that a significant amount of asbestos was used in the existing building. Removal of the asbestos, combined with an excavation survey of Buried Cultural Properties, led to a delay in the construction schedule of about two months. Therefore, the construction work is expected to be completed by the end of September 2011. In addition to the general contractor mentioned above, other major contractors were also decided on through the bidding process. Since the annex building and the temporary office do not have enough space, an additional temporary office was established in a neighboring apartment building. The new office will function as the office for contract research for the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) mentioned below, and the Documentation Center for Islamic Area Studies which is a joint project with the National Institutes for the Humanities (NIHU). The office of Executive Librarian Yoshinobu Shiba was also established near the Toyo Bunko buildings.

The Toyo Bunko plans to utilize the buildings and equipment newly constructed in the current construction work for a long period of time by conducting appropriate repairs in the future. Therefore, it was decided at the Board of Directors meeting in February that a long-term repair plan for the period of 20 years will be created, and that 23 million yen will be deposited every year as specific assets "allowance for repairs" starting from fiscal year 2009.

With respect to the Library Department, the contract for the Toyo Bunko to serve as a branch of the National Diet Library, which lasted for 60 years from 1948, was dissolved at the end of March 2009. The Reading Room of the Toyo Bunko will operate as a private library from April 2009. Cooperation with the National Diet Library will continue and it was decided that two on-the-job trainees will be dispatched to the Toyo Bunko from the National Diet Library in fiscal year 2009.

The monthly hit count for the database of the Toyo Bunko dramatically increased during fiscal year 2008, reaching about 100,000 hits per month. The number of books possessed by the Toyo Bunko increased by 4,211 in total during fiscal year 2008, which included 2,922 purchased books and 4,446 donated books.

The library received a maritime map of from 18th Century China which was owned by Prof. Skinner, who was an old acquaintance of Executive Librarian Yoshinobu Shiba, in accordance with his will. Research Fellow On Ikeda donated original Dunhuang documents to the Toyo Bunko. The Toyo Bunko is honored to own original Dunhuang documents, in addition to the library's microfilms of Dunhuang documents kept in various parts of the world. 67 items including Nepal's Buddhist statues were donated by Mr. Kikunoshin Nakamura who is a member of the Society for the Friend of the Toyo Bunko.

Fiscal year 2008 marked the sixth year of the Research Department's

new organizational structure, which started in fiscal year 2003. The library published nine collections of papers in addition to eight regular publications. An inventory of books kept in the vaults was conducted for the first time in several decades and the locations for keeping some of the literature were rearranged.

Oriental Studies Lecture Series was held in the spring and autumn, each contained three lectures. The topic of the Spring Lecture Series was "The world of Records of Three Kingdoms" and the topic of the Autumn Lecture Series was "Islam across borders". Both series were very popular and the room was nearly full at every lecture. Various seminars and lectures were held 116 times in total, receiving a total of 1,837 participants. The Toyo Bunko received five overseas researchers, and it also provided services for 28 researchers from Canada, China, Egypt, Germany, the Netherlands, Russia, Singapore and the United States.

The Toyo Bunko continues exchanges with Taiwan's Institute of History and Philology of Academia Sinica with whom the library made a cooperation agreement. Director General Minoru Makihara and Executive Director Naoyoshi Yamakawa visited the institute in February. The Toyo Bunko also started discussing with the Harvard-Yenching Library and the Harvard-Yenching Foundation about future cooperation.

The Toyo Bunko concluded a new research project contract (12 million yen) for the Development of Joint Research Institutions in Human Studies and social Sciences, as part of a MEXT's contract research program in fiscal year 2009. It was also decided that the Mitsubishi Foundation will provide a research subsidy for research into the Morrison Pamphlets conducted by Exective Librarian Yoshinobu Shiba.

Regarding the library's finances, the annual income and expenditures ended in the black in fiscal year 2008, which has not happened for the past several years. This enabled the library to increase the reserve for operation adjustments for the first time in several years.

With respect to internal control, the Toyo Bunko is continuing its work to develop various regulations. Regulations established or revised during fiscal year 2008 include the following: regulations on the joint appointments of staff members; regulations on the official seal; regulations on authority (revised); guidelines on the treatment of visiting research fellows; regulations on entry into the general stack rooms; guidelines on the handling of identification cards; regulations on the safekeeping of documents; regulations on salaries (revised); standards on setting the period for keeping serial publications written in Japanese (revised); supplementary clause 1 for the regulations on copying literature; internal regulations on scientific research expenses; the table of salaries (revised); work regulations (revised); regulations on organization management (revised); guidelines on the treatment of temporary staff members (revised); the supplementary clause for the regulations on account processing (revised); and a system for internal notifications.

With regard to public relations, an interview with Director General Minoru Makihara about the Toyo Bunko was published in the culture column of the Nikkei newspaper on February 3. Regarding PR magazines, the Toyo Bunko was given opportunities to introduce its precious books every two months in a monthly magazine called the "Monthly Mitsubishi" which is published by the Mitsubishi Public Affairs Committee, and six articles were published during fiscal year 2008. In the December edition of "Ryowa," the in-house magazine of the Mitsubishi Corporation, a story about a visit by Mrs. Ayako Fukuzawa (the youngest daughter of Mr. Hisaya Iwasaki, the founder of the Toyo Bunko) to the library was published. An introduction to the Toyo Bunko and the ground-breaking ceremony for the construction were also broadcast as part of the in-house television programs of the Mitsubishi Corporation. In addition, the Mitsubishi Estate organized a site visit to the Toyo Bunko for its PR magazine "Seikatsu Sampo" and a report on the visit was published in the magazine. An article about the library was also published as the top story in the January issue of "Bunkyo Academy Square," the PR magazine

distributed by Bunkyo City to the residents (100,000 copies circulated).

In November, the Public Relations Committee, which was a cross-department internal organization of the Toyo Bunko, was reorganized into the Dissemination and Exhibition Committee.

The main visitors to the Toyo Bunko during fiscal year 2008 included: Dr. Yuan Tseh Lee who is the ex-President of Academia Sinica in Taiwan and a Nobel-prize winner; Mr. Chi-tai Feng who is the Representative (ambassador) at the Taipei Economic and Cultural Representative Office (TECRO) in Japan; Mr. Wang who is the Director of the Institute of History and Philology of Academia Sinica; Mr. Tim Clark who is the head of the Japanese section at the British Museum; and Mr. Kleinman who is the director of the Harvard University Asia Center. Regarding exhibitions, the Toyo Bunko held special exhibitions for officials of the Mitsubishi Group's cultural foundations, for members and staff of the Japan Academy, etc. The library also hosted training for newly appointed corporate officers at the Mitsubishi Corporation as well as hosting VIPs from the Tata group in India. Other events which the library organized included a visit to places associated with Mitsubishi.

II Activities Report

1. Survey and Research

Together with its continual and systematic collection of primary sources on history and culture of the regions of Asia and provision of those sources to interested researchers in Japan and abroad, the Toyo Bunko is involved in an extensive Asian studies research program of its own based on its Library holdings.

It was in 2003 that the Research sector was reorganized and expanded to 1) promote the participation of younger researchers in its programs, 2) expand the dissemination of its research findings abroad through more Western language publications and 3) make its research findings and Library sources better available to the world scholarly community through the introduction of information technology to its operations.

Organizationally, the research sector was divided into two major departments Supradisciplinary Asian Studies and Asian Regional Studies-the former adopting integrated approaches to contemporary Asia, the latter concentrating on basic research on a region-by-region, discipline-by-discipline basis.

A. Supradisciplinary Studies Group

<Asian Section>

The rapid development experienced in all parts of Asia since the 1940s has resulted in a significant increase in the importance of the role it is now playing in the world of the 21st century.

For example, after the communist revolution of 1949, the People's Republic of China went through head-spinning social change and economic development, which has made its domestic and foreign relations, position in the world an important topic of study, requiring integrated and diversified approaches.

Due to its globalization and leading role in a major part of the world, including not only the Middle East, but also China and Southeast Asia, Islam is another phenomenon that needs to be understood in a contemporary context via scientific, objective research methodology.

It was for this reason that these two spheres of cultural and social influence be approached in research projects transcending traditional

academic boundaries and incorporating all kinds of approaches: political science, economics, international relations and history.

(1) Contemporary Chinese Studies : Interdisciplinary research on China

Projects under this research department are subsumed under a research agenda for a holistic analysis, including historical and cultural aspects, of the whole specter of contemporary China within the turbulent times experienced since the end of World War II and the political and economic influence East Asia has exerted on the rest of the world.

The collection of sources for that purpose begins with the vast holdings of the Toyo Bunko's Library and aims at their substantiation and reorganization from the viewpoint of interdisciplinary approaches and public utilization.

[Research Activity]

- a) Political Group: Bimonthly research sessions continued aiming at analyzing 1) political movements caused by the current wave of tremendous social change and 2) the rapidly expanding body of literature exhibiting a significant diversification in public discourse.
- b) Economics Group: Work continued on the writing and publication of a collection of papers authored by Group members and entitled *The Contemporary Chinese Economy in Historical Perspective*.
- c) International Relations and Culture Group: Bimonthly research sessions were held around the theme of postwar Chinese sociocultural change and international relations, building on the research results of the Toyo Bunko Series publication, *Sociocultural Change during the 2nd Sino-Japanese War*. The sessions were marked by significant contributions made by the outstanding younger members of the Group.

(2) Contemporary Islamic Studies: Research on the Islamic cultural sphere —Comparative study of the development of parliamentary politics and constitutionalism—

This project is concerned with analyzing source materials available in Arabic, Persian and Turkish regarding parliamentary politics in the Middle East, comparing the related ideas and resulting constitutional systems established in the nations of the region, in an effort to come to some integrated understanding of the historical role and contemporary

significance of the nation-state in the Islamic Middle East.

[Research Activities]

Analysis of the sources contained in *Agenda Index of the Minutes of the Iranian National Assembly* (English), *A Guide to Egyptian Parliamentary Records* (English) and 『トルコにおける議会制の展開：オスマン帝国からトルコ共和国へ』(*The Development of the Turkish Parliamentary System: From the Ottoman Empire to the Turkish Republic*) (Japanese) published during 2005 and 2006. Publication of Toyo Bunko Research Library (hereafter TBRL) English language monograph series 11, *Development of Parliamentarism in the Modern Islamic World* for publication during 2008.

B. Historical and Cultural Studies Group

In order to understand the dynamic and compound development that has occurred in contemporary Asia, the rich and unique heritage of the peoples of the region cannot be ignored by interested scholars.

<East Asian Section>

(1) Premodern Chinese Studies

① Ancient Chinese Regional studies: Analysis of *Shijing Zhu* 水經注 (*Water Classic and Commentaries*)

Analysis of the annotated version of China's oldest work of geography dating back to the sixth century AD, utilizing the most recent archeological findings and Landsat mapping technology, in the hope of reconstructing regional society in ancient China.

[Research Activities]

- a) At team meetings held every other week, studying Parts 17, 18, 19 of Chen Qiaoyi's 陳橋驛 collation of the work (published by Jiangsu guji chubanshe 江蘇古籍出版社刊) covering the Weishui 渭水 river from its source in Gansusheng 甘肅省 through southern Xian yang 咸陽 (Shanxi shen 陝西省), northern Xian 西安 (Changan 長安) to where it empties into the Huanghe 黄河 River, based on the detailed 1/100,000 1978 Landsat map drawn in the former Soviet Union and US Aerial photography. The reading of Chapter 15 "Ruoshui 洛水" continued.
- b) Topographical descriptions and archeological reports concerning the Weishui Basin were collected, and data on ancient sites in the area

were collated with the content of the *Shijing Zhu*, in order to understand in more concrete terms the historical ecology and social milieu of the Weishui Basin.

- c) A survey was conducted by team members, Tada Kensuke, Ikeda Yuichi, with cooperation from Takada Hisako and Yamamoto Takanao for the purpose of verifying Qiaoyi's annotation of *Shijing Zhu*, held by Academia Sinica, and the analytical papers of Fu Xinian 傅斯年 purchased by the Library.

② Compilation of a Dictionary of Song Period Socio-Economic terminology

The dictionary, based on 『宋史食貨志訳注』 (*Treatise on the Economy and Finance of the Sung*), 6 vols., The Toyo Bunko, 1961-2006 and cards from the ongoing subject indexing project for *Song huiyaojigao shihuo* 宋会要輯稿食貨, will be compiled as a database available to the public.

[Research Activities]

- a) Compilation and revision continued for a dictionary based on 『宋史食貨志訳注』 *Treatise on the Economy and Finance of the Sung*, 6 vols., The Toyo Bunko, 1961-2006 and cards from the ongoing subject indexing project for *Song huiyaojigao shihuo* 宋会要輯稿食貨, with the aim to create a new database.
- b) Selection of dictionary terms, their division into subject, period and regional sub-codes and the establishment of criteria for writing definitions, examples and references also continued.

③ Archeological Study Survey and Research of East Asian Cities II

The comparative study, which began in 2004, of walled cities in the region centering upon Bohai 渤海. Two volumes of research have been published to date 『東アジアの都城と渤海』 (*The Capital Castles of East Asia and Bohai*), 2005, 394 pp. and 『渤海都城の考古学的研究 II』 (*Archeological Studies on The Capital Castles of Bo 'hai*), Vol. II, 2007. However, due to the inordinately large number of artifacts unearthed from the Bohai shangjinglongquan 渤海上京龍泉府 Site (Dongjing 東京 Castle), the task of cataloging them will continue during 2008.

[Research Activities]

- a) Research on the walled cities of northeastern China during the Bohai, Liao 遼 and Jin 金 Periods continued, with Tamura Koichi and Kojima Yoshitaka conducting related field research and analyzing the survey data.
- b) Comparison of northeastern walled cities with those in the kingdoms of the central plain during the periods in question continued.
- c) Information was obtained on the Bohai-related artifacts excavated from the Asuka Fujiwara Palace site in Nara, Japan through a survey at Nara National Research Institute for Cultural Properties.

④ Law and Society in Premodern China II

The objective is to clarify legal institutions regarding family registers, land cadastres and forms of land taxation between the Song and Ming periods, identifying the "civil" characteristics of premodern Chinese law, analyzing their historical evolution and regional differences, in order to examine the relationship between "central" and "local" in premodern times. The project is now concentrating on locating legal precedents and contracts from the periods in question. [Research Activities]

- a) Continued international collection of statutes and legal precedents.
- b) Reports dealing with research trends on the subject and bibliographic data on research done to date on "civil" law, norms, contracts, etc. were compiled into a publication entitled 『前近代中国の法と社会—成果と課題—』 (*Law and Society in Premodern China: Research Date and Pending Issues*).

(2) Modern Chinese Studies

Japanese perceptions about China during the 1910-30s

Ascertaining perceptions about modern China through an examination of contemporary fieldwork conducted by both Japanese government and civilian organization. Trying to come to a more comprehensive understanding of the issues involved, based on the research done to date on wartime reports on China done by the Koain 興亜院 (Asia Development Board) and survey of Chintao and Shantung done by the Japanese Constabulary stationed during WWI, as well as information from other sources such as surveys done by the

Manchurian Railway and Japanese Chambers of Commerce located in China. The Year 2008 will also mark the beginning of preparation for publishing the team's research findings in the form an annotated catalogue of the major source materials necessary in studying the subject.

[Research Activities]

- a) Research continued on how the economic base was built in Japanese-occupied Shandong in order to come to a better understanding of Japan's advance into northern China.
- b) Research conferences including both team members and guest researchers were held on 14 June, 6 September, and 14 February, featuring interesting reports on perceptions of China that existed in pre-WWII Japan.
- c) The proceedings of international research conferences held to date were compiled into a publication entitled 『戦前期華北実態調査の目録と解題』 (*Annotated Catalogue of Japanese Fieldwork in North China 1910-1940s*).

(3) Northeastern Asian Studies

① Study of source materials preserved in Japan on late premodern Korea

Implementation of the second phase of the historio-bibliographical study of Korean sources held at such institutions as the Kyoto University Library (Kawai Collection), General Library, The University of Tokyo (Agawa Collection). Beginning of a 4-year plan to continue compiling Volume 1 and complete Volume 2 of an annotated catalogue of the available source materials. We now have a fairly complete idea of the body of classical works available in Japan (called "Chosenbon" 朝鮮本). However, another body of materials from local and private sector sources, mainly ledgers of all kinds, have not been sufficiently surveyed. During the first phase of the above-mentioned survey, we found and analyzed sources that no longer exist in Korea. At the end of the second phase, we are confident that a comprehensive grasp of what is available will be obtained.

[Research Activities]

『日本所在朝鮮近世記録解題』(*Catalogue of Late Premodern*

Korean Sources in Japan), which contains research results garnered over the past five years, was published.

②Manchu archival sources

In the recent research being done on the history of the Qing Dynasty both in Japan and abroad, it has been realized that a proper grasp of the related Manchurian sources is indispensable. In this sense, the activities of this team are being perceived as an important vehicle to further the research. At present, the team is conducting research on such archives held by the Toyo Bunko as the collection of documents from the Xianghongqi 鑲紅旗 Banner's Manchuria (southeastern Inner Mongolia) clerical office and the national history section of the First Historical Archives of China 中国第一歷史檔案館 in Beijing. The latter sources dated Tiancong 天聰 7 and 8 (1633, 1634) have already romanized and translated in two volumes published in 2003 and 2009. Preparations are now being made for the publication sources from Tiancong 天聰 5 (1631). Also, an English language summary of the latter has already been published and the preparation of an English collection of research finding is in progress.

[Research Activities]

- a) Progress was made in cataloging and research of the banner documents with the purpose of publishing an English collection.
- b) A publication was released containing romanization and translation of the First Historical Archives of China dated Tiancong 天聰 8, with facsimiles of the originals.

③Structural Historical Analysis of East and Northeast Asia during the Qing Period

Overlapping a time marked by efforts on the part of the West to unify the world was an independent movement to consolidate the region spanning East and North Asia was also underway under the Qing Dynasty, an area that geographically corresponds to contem-porary China. This project aims at analyzing the Dynasty's territorial structure and foreign relations, in relation to such events as the formation of the nation of Manchukuo in 1932 and contemporary issues related to China's present day autonomous regions and non-Hanethnic groups.

[Research Activities]

- a) Source material searches and fieldwork were conducted regarding such diverse areas of study as Qing Dynasty politics, the social, economic and political history of Qing Period China, the Qing Dynasty's relations with the Mongols and Russian Empire and the ethnic history of southwestern China during the Qing Period, in an attempt to transcend conventional territorial and chronological typological schemes. Preparations continued for deepening specialized based on these results and surveying, cataloging and analyzing the available bibliographical sources.
- b) Preparations continued for the 2009 publication of No. 15 in the TBRL series tentatively entitled *the Historical Structures of Eastern and Northern Asia in the Qing Dynasty Era*. The volume will contain the project's findings over the three-year period beginning in 2006.

(4) Japanese Studies

① Bibliography for the Rare Archives in the Iwasaki Collection

All of the rich sources dealing with Japanese culture, literature and language contained in the Library's Iwasaki Collection have yet to be bibliographically surveyed. Upon the publication of a five-volume bibliographic introduction to the old manuscripts and printings dated up through the Muromachi Period was completed in 2006, the work then turned to the holdings that were published during the Tokugawa Period, preparing basic research on them to be published in the future.

[Research Activities]

- a) The work continued on a bibliographic survey, begun in 2007, on the approximately 100 titles in the Kimura Shoji Collection related to the ancient Manyōshū poetry collection and similar titles in the Iwasaki Collection.
- b) Editorial work progressed for the publication of the above findings as volume VI of the series entitled 『岩崎文庫貴重書書誌解題』 (*Annotated Bibliography of Rare Titles in the Iwasaki Collection*).

<Inner Asian Section>

(1) Central Asian Research Team

① Dunhuang and Turfan Documents Preserved at Saint Petersburg

Based on the catalogue introducing the Uighur, Sogd, Khotan, Manichaeian and Mongolian documents recorded on the Library's microfilm copy of St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Science Archives, reading and analysis of the Uighur documents is continuing from the viewpoints of bibliography, linguistics, Buddhist studies and historical science.

These documents, which are crucial to any historiographical understanding of central Eurasia from the 5-6th to the 15th century, are worth studying in detail down to the tiniest fragment, in order to form a base for utilizing them as research materials. In addition to studying the documents themselves, an understanding of the historical image of the regions from which they were unearthed will also be pursued.

[Research Activities]

- a) The task of image scanning mainly the Uighur documents and compiling a database continued. However, under the contract signed with the Russian Academy of Science, the pictorial materials on the microfilm cannot be offered en masse to public Library users, so the plan is to try to make them available to members of the immediate research team.
- b) Preparations continued on the publication of enlarged and revised catalogue of the Uighur documents.

② Ethnic Groups in Modern and Contemporary Central Asia

Since the breakup of the Soviet Union and the formation of five independent nations of Central Asia, and given the situation in Afghanistan, the Volga-Ural region has become the staging ground for various forms of "ethnic consciousness," which is also influencing surrounding regions, such as the Xinjiang Uighur Autonomous Region. This new dynamic characterizing the region is now being investigated at the Toyo Bunko based on the related historiographical sources held by its Library, leading to a re-examination of the "nation-state" framework and clarification of diversified approaches to the idea of "ethnic origins." What we do know is that the prototype for "ethnic consciousness" in the region was created during the late nineteenth century, when Muslim intellectuals pioneered the formation of an ethnic identity through their contributions to newspapers and

magazines. It is these periodicals dating around the turn of the 19th century, which are held by the Library, that now have become key sources in explaining what is happening in the region today.

[Research Activities]

- a) The work continued in cataloging and studying the Library's Modern and Contemporary Central Asian Periodical Collection, and the accumulation of newly released sources and research also continued.
- b) Research seminars continued to be held with participation of outside experts.
- c) In order to disseminate research being done in Japan on Central Asian History internationally, a cooperative effort has been undertaken with the Indiana University Institute of Inner Asian Studies to publish an English translation series of Japanese research.
- d) Research collaborator Shimizu Yuriko (doctoral candidate, Chuo University) was dispatched to the Xinjiang Archives in the Xinjiang Uighur Autonomous Region to survey its holdings.

③Philological Research on the Chinese Documents Unearthed at Dunhuang and Turfan

The analysis of Chinese documents that were written on the spot in locations around Inner Asia should be able to supplement and better clarify the historical image of the non-Han peoples that has been created by official histories and chronicles compiled at the center of the Chinese Empire. This project is involved in cataloging a collection of Chinese documents written between the 3rd and 13th centuries according to their content, based on the idea that they have just as much to tell about the actual historical conditions of the peoples of the region as about the formal aspects of diplomatics during that time.

[Research Activities]

- a) Continuing collation of the list of document serial numbers and no. of frames for reels with nos. 256-363 of the St. Petersburg microfilm with the facsimiled documents contained in the 17-volume Ecang dunhuang wenxian 俄藏敦煌文献 published by Shanghai guji chubanshe 上海古籍出版社.
- b) Progress was made in the joint proofreading and investigating the microfilm listing, thus enabling an evaluation of content's worth for

each team member's field of expertise.

- c) A collection of research findings, 『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』 (*New Research Chinese Documents Discovered in Dunhuang and Turfan*) by 20 contributions will be published during 2008.

(2) Tibetan Studies

① Philological Research on Tibetan Canonical works Omitted from the Tripitaka

A database is being compiled of such sources held by the Library, including those brought to Japan by Kawaguchi Ekai. Also the collation, translation and explanation of documents dealing with Buddhist doctrine are being conducted in order to better understand Tibetan ideas about it. Collation, translation and research are continuing on the Stein Collection of Tibetan documents unearthed in Dunhuang, the microfilm of which is held by the Library.

[Research Activities]

- a) The compilation work continued on the non-Tripitika database and preparing the script for typeset printing..
- b) Textual corrections and translation tasks continued on the chapter concerning bKa' gdams pa in Thu'u bkwan's *Grub mtha'* トウカン著『一切宗義書』「カダム派の章」 in preparation for the 2010 publication of 『西藏仏教宗義研究』 (*A Study of the Grub Mtha' of Tibetan Buddhism*) vol. IX, while the work began on reading and studying Tibetan texts unearthed in Dunhuang.
- c) The 2007 publication of 『西藏仏教宗義研究』 (*A Study of the Grub Mtha' of Tibetan Buddhism*) vol. VII was enlarged and a fourth edition released.

<India and Southeast Asia Section>

(1) Indian Studies

Power Politics and Culture in South Asia

The investigation of the historiography related to each Mughal emperor is continuing along with the examination of primary Persian sources. The collection and analysis of Mughal imperial edicts is also continuing.

[Research Activities]

- a) Ona Yasuyuki (team leader) conducted surveys at such institutions as the British Library as part of the team's efforts to collect and analyze microfilm collections, etc. pertaining to official documents, such as imperial edicts (farman) issued from the center of the Mughal Empire.
- b) Research seminars and analysis of bibliographic searches were conducted in preparation for an English publication tentatively entitled "*Studies on Documentary Sources Related to the Mughal Imperial Rule*," to be released in 2009.

(2) Southeast Asian Studies

Images of Self Vs. Others in the Port Cities of Southeast Asia During its Transition to Modernity

The port cities of the region, which from ancient times acted as important entrepôts of East-West trade, not only housed the merchants involved in that trade, but also became homes to many immigrants from China, India and Western Asia, resulting in a diversified, racially mixed population. On the other hand, these ports of trade became intermediaries linking the outside world with inland areas. The present project focuses on these cities during their period of transition to modernity and the way in which their residents viewed themselves in relation to others, in order to examine the dynamic that was created between local society and the wider world order.

[Research Activities]

- a) Collection and analysis of bibliographic sources on the subject continued.
- b) An English language publication of the team's research results achieved over the past five years was released as TBRL10, *The Changing Self Image of Southeast Asian Society during the 19th and 20th Centuries*.

<West Asian Section>

West Asian Studies

Contractual Documents in the Islamic Sphere

The documents in question include both private contracts (sale, etc.) and administrative (vassalage, tax farming, etc.). The aim is to examine social relations cemented in the Islamic through concluding contracts

under the system guaranteeing their performance and enforcement.
[Research Activities]

- a) International comparative research of Islamic contracts was conducted in conjunction with the symposium, "Research on Multinational Historical Archives," sponsored by the Department of Archival Studies of the National Institute of Japanese Literature. The symposium's proceedings were published in both Japanese and Turkish as 『中近世日本とオスマン朝にみる国家・社会・文書/Erken Modern Osmalı ve Japonya 'da Devlet, Toplum ve Belgeler』.
- b) The study of velum contract documents from Morocco held by the Library was continued, the results of which are expected to be published in 2011.
- c) Opening of joint research with such organizations as the Historical Study on the Central Asian Documents (Kyoto University of Foreign Studies) and Interdisciplinary Research on Islamic Manuscripts and Documents Project (Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies).

C. Source Materials Studies Group

<Source Materials Section>

East Asian Studies

For the East Asian Research Team, this means its incorporation of a new mix of regional specialists into a new organization. To begin with, an agreement has been reached with Taiwan's Academia Sinica to utilize its archives of complete texts and to exchange researchers. In addition, scholarly exchange is being promoted with such institutions as Fudan University (Shanghai), East China Normal University (Shanghai), the Shanghai Library and the Beijing Academy of Social Sciences.

[Research Activities]

- a) Cai Zhe mao 蔡哲茂, research staff member at Academia Sinica and John Timothy Wixted, professor emeritus at Arizona State University were invited to Japan to discuss their research.
- b) Yabuki Susumu visited Academia Sinica in order to conduct surveys on sources related to contemporary history.

D. Seminars and Lectures

No./Month	Apr	May	Jun	July	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Total
Meetings	8	11	14	7	3	10	8	11	6	13	10	15	116
Attendance	116	427	219	121	55	157	125	117	51	145	138	166	1,837

2. Source Material Collection and Cataloging

All sections and their teams in the Research Departments are involved with the Library staff in supplementing the Toyo Bunko archives with the most up to date collection of primary source materials, research monographs and scholarly periodicals. In order to better grasp the world of Chinese periodicals, Internet access has been opened to the China National Knowledge Infra-Database (CNKI) information available on politics, economics, jurisprudence, history, philosophy and thought. The Library's holdings now total 934,825 volumes (527,364 Japanese-Chinese volumes, 377,364 Western language volumes and 29,800 volumes of reproductions), 95% of which has been cataloged into database form (as of March 2007). Efforts to repair of such holdings as rare Western and Chinese works, as well a frequently read and photocopied titles, are being accompanied by a project to digitalize both text and image content for easier and gentler access.

A. Purchases by Language and Research Department (No. of Volumes)

Field	Chinese/Japanese	Asian Languages	Other
Supradisciplinary: China	293	9	0
Supradisciplinary: Islam	0	1,017	60
East Asia	186	2	0
Inner Asia	92	52	4
India-Southeast Asia	0	53	11
West Asia	0	295	0
Shared	612	281	108
Total	1,183	1,709	183

B. Publication Exchanges by Type and Language (No. of volumes)

Type	Received			Donated		
	China/Japan	Western	Total	China/Japan	Western	Total
Monograph	1,094	441	1,535	2,031	871	2,902
Periodical	2,004	672	2,676	5,027	1,458	6,485
Total	3,098	1,113	4,211	7,058	2,329	9,387

C. Database Input

The following data was input into databases between 1 Apr. 2008-31 Mar. 2009

Western Language	357	Turkish	361
Chinese-Japanese	2,198	SE Asian Language	104
Cyrillic	155	Periodicals	4,886
Persian	1,288		
Arabic	611		
		Total	9,960

D. Preservation and Cataloging Binding Production and Repair

Between 1 Apr. 2008 and 31 Mar. 2009, the following tasks were completed.

- Microfilm deterioration prevention: 1304 items
- Microfilm cataloging: 1037 items.

3. Research Publications

The Research Department is currently publishing monograph series, annotated source material collections, bibliographic introductions and periodicals in both Japanese and English, containing research based on the languages of Asia, including Chinese, Korean, Manchurian, Uighur, Arabic, Persian and Turkish. This activity is intended to contribute to a better understanding of the issues facing Asia today and stimulate discussion of them within the international academic community.

A. Periodicals

- (1)『東洋文庫和文紀要』(東洋学報)

(*The Journal of the Research Department of the Toyo Bunko*)

Vol. 90 Nos. 1-4 A5 Size Journal Released

- (2)『東洋文庫欧文紀要』

(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*)

No. 66 B5 Size Journal Released

- (3)『近代中国研究彙報』(*Report of Modern Chinese Studies*)

- | | | |
|--|-----------------|----------|
| No. 31 | A5Size Journal | Released |
| (4)『東洋文庫書報』 (<i>Philological Report from the Toyo Bunko</i>) | | |
| No. 40 | A5 Size Journal | Released |
| (5)『超域アジア研究報告』(<i>Supradisciplinary Studies Report</i>) | | |
| Vol.5 | B5 Size Journal | Released |
| (6) <i>Asian Research Trends</i> . New Series No.3 | | |
| | A5 Size Journal | Released |
| (7)『東洋文庫年報』 (<i>Toyo Bunko Yearbook</i>) 2007 | | |
| | A5 Size Journal | Released |

B. Monographs, etc.

- | | |
|---|----------|
| (1)TBRL10 <i>The Changing Self Image of Southeast Asian Society during the 19th and 20th Centuries</i> | |
| One B5 Size Volume | Released |
| (2)TBRL11 <i>Development of Parliamentarism in the Modern Islamic World</i> | |
| One B5 Size Volume | Released |
| (3)前近代中国の法と社会—成果と課題—』
(<i>Law and Society in Premodern China: Research Results and Pending Issue</i>) | |
| One B5 Size Volume | Released |
| (4)内国史院檔 天聰八年 (本文編、索引・図版編)』
(<i>Neiguoshiyuandang : The Early Manchu Archives of Imperial Historiographcal office ; the Eighth Year of Tiancong, 1634</i>) | |
| TwoB5 Size Volume | Released |
| (5)敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』
(<i>New Perspectives on Documents Unearthed in Dunhuang and Turfan</i>) | |
| One B5 Size Volumes | Released |

- (6) 『中近世日本とオスマン朝にみる国家・社会・文書/*Erken Modern Osmalı ve Japonya'da Devlet, Toplum ve Belgeler*』
One B5 Size Volumes Released
- (7) 『戦前期華北実態調査の目録と解題』
(*Annotated Catalogue of Japanese Fieldwork in North China : 1910-1940s*)
One B5 Size Volumes Released
- (8) 『日本所在朝鮮近世記録類解題』
(*Catalogue of Late Premodern Korean Sources in Japan*)
One B5 Size Volumes Released
- (9) 『宋史食貨志訳註(一)～(六)索引』
(*Index to the Translation with Annotation of the Treatises on Economics and Finance, the Dynastic History of the Song vols 1 to 6*)
One A5 Size Volumes Released

4. Dissemination of Information

A. Research Information

(1) Asian Studies Lecture Series

Six annual lectures divided into spring and fall series.

(2) Special Lectures

Approximately six lectures delivered by world renown scholars visiting Japan.

(3) Panel Discussions

Held four times a year on a specialized research topic proposed by a keynote paper.

B. Database Availability (1 Apr. 2008-31 Mar. 2009)

Databases	Apr	May	Jun	July	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Total
Chinese Sources	1,641	1,537	1,911	2,810	2,895	1,138	2,279	3,444	1,617	2,160	2,786	2,835	27,053
New Acquisitions (Chinese, Western, Russian Titles)	189	42											231
Chinese Titles (incl./Modern China Res. Team, Periodicals)	2,157	2,081	2,338	2,962	3,804	1,918	2,894	2,639	1,525	1,251	2,152	2,690	28,411
Japanese Titles (incl./Modern China Res. Team, Periodicals)	2,072	2,188	2,541	2,792	3,763	1,923	2,067	2,405	1,678	2,056	2,311	1,987	27,783
Japanese Bibliography (incl./Modern titles, Iwasaki Collection)	1,946	1,437	1,341	1,454	2,379	1,587	1,293	1,440	857	1,053	1,455	2,073	18,315
Western Titles Catalog (incl./Modern China Res. Team)	1,797	1,547	2,135	1,538	2,886	1,788	1,537	1,884	895	1,132	1,517	1,575	20,231
Consolidated Western Title DB	389	481	748	592	514	260	303	451	322	367	228	266	4,921
Arabic Titles	545	449	473	489	907	590	966	1,015	570	687	863	1,124	8,678
Turkish Titles	933	530	863	973	1,179	965	708	783	522	361	649	689	9,155
Persian Titles	317	366	1,066	493	725	324	639	1,028	642	447	560	744	7,351
Tibetan Titles (incl./Kawaguchi Collection, non-Buddhist titles)	410	428	455	744	884	334	380	401	0	155	288	282	4,761
Mongolian Titles	284	346	315	185	239	171	752	738	227	1,121	492	647	5,517
Uighur Titles	192	129	119	201	137	64	189	220	140	140	185	254	1,970
Burmese Titles	291	266	245	969	332	187	80	74	25	57	47	177	2,750
Thai Titles	106	48	80	53	108	58	182	139	44	79	139	240	1,276
Indonesian/Malay Titles	65	84	165	186	229	76	52	58	19	88	125	197	1,344
Central Asian Research Titles	318	255	229	386	375	108	121	120	64	29	21	65	2,091
Middle East/Islam Research Titles	1,089	460	731	653	741	254	135	35	51	168	180	222	4,719
Biographical Directory of Asian History	593	161	294	304	457	218	639	676	261	282	239	306	4,430
Full-Text Database Images							276	234	108	147	200	210	1,175
Image DB (incl./Umebara Collection, Hong Kong Copperplates)	21,303	47,637	53,101	51,699	55,616	63,717	13,786	15,219	6,888	7,844	8,978	10,923	356,711
Moving Image DB (Hong Kong Festivals and Stage Drama)	1,380	1,033	1,025	1,186	1,658	798	52,041	50,300	51,312	47,606	52,194	44,332	304,875
Miscellaneous (incl./Russian, Kazaf, Korean Titles)	36,433	21,053	22,538	20,607	21,246	24,548	28,225	32,097	31,904	29,651	28,307	26,398	323,007
Total	74,450	82,558	92,713	91,276	101,084	101,026	109,544	115,400	99,671	96,881	103,916	98,236	1,166,755

5. Scientific Information Availability

In addition to its role as an Asian studies research institute, the Toyo Bunko also acts as a liaison for scholars and organizations in Japan and abroad. Related activities (1 Apr. 2008-31 Mar. 2009) include:

A. Reading Room Services

No./Month	Apr	May	Jun	July	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Total
Users	157	154	139	170	209	186	150	96	149	117	162	180	1,869
Title Requests	2,365	1,969	2,176	1,535	3,156	2,615	1,596	1,215	2,503	2,039	2,934	3,525	27,628
Reference Service Requests	42	42	38	46	56	50	41	26	40	32	44	49	506

B. Photocopying Services

(1) Microfilm and Paper Developing

Category	Service Request
Amount	176

(2) Electronic Photocopying

Category	Service request	Number of Copies
Amount	824	40,322

C. Reprinting and Expanded Publication

『東洋学報』(<i>The Journal of the Research Department of the Toyo Bunko</i>) Vol. 89, No. 4	330
『東洋学報』(<i>The Journal of the Research Department of the Toyo Bunko</i>) Vol. 90, No. 1-3	330
<i>Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko</i> Vol.65	50
TBRL9 <i>Mémorial OJIHARA Yutaka-Studia Indologica</i>	30
『宋会要輯稿篇食貨社会経済語彙用語集成』 (<i>The Terminology of Socio-Economy in the Section of The Song Digest</i>)	100
『水経注疏訳註』[渭水篇 上] (<i>Translation with Notes on The Water Classic and Commentaries</i> [Chapter 17, 18: Wei Shui 1st, 2nd])	100
『トルコにおける議会制の展開』 (<i>The Development of the Turkish Parliamentary System: From the Ottoman Empire to the Turkish Republic</i>)	30
『近代中国研究叢報』(<i>Report of Modern Chinese Studies</i>) No. 30	50
『東洋文庫書報』(<i>Philological Report from the Toyo Bunko</i>) No. 39	20
『東洋文庫年報』(<i>Toyo Bunko Yearbook</i>) 2007	10

D. Public Relations

Periodic update of the Toyo Bunko English and Japanese websites.

E. Scholarly Exchange

< Long Term Fellowships >

(1) Japan

Mitsuta Tsuyoshi (Prof. of Seikei University)

Specialty: The Chinese Revolution as an Asian Revolution

Term: 1 Jan. 2007-31 Aug. 2009

(2) 2008 Japan Society for the Promotion of Science Research Fellowships for young Scientist (Post-Doctoral)

①SPD

Noda Jin (The University of Tokyo)

Specialty: Diplomatic History of the Kazakh Khanate: Its Relations with the Qing Dynasty during 18th and 19th Centuries

Term: 3 years through 2009

②PD

Kawahara Yayoi (The University of Tokyo)

Specialty: Islam and the Formation of Fergana Muslim Society during the Kokand Khanate

Term: 3 years through 2007

Iiyama Tomoyasu (Waseda University)

Specialty: The Origins of Han Society and Social Integration in Northern Jin Period China as Seen from Movements among Indigenous Peoples

Term: 3 years through 2008

Ogasawara Hiroyuki (The University of Tokyo)

Specialty: Historical Consciousness Within the Ottoman Empire: The Creation and Evolution of the "Memory" about its Mythological Origins

Term: Three years through 2008

Moriyama Teruaki (The University of Tokyo)

Specialty: Ulama and Local History in the Middle East from the 10th to the 12th Century: Social Historical Study of the Compilation of Biographical Dictionaries

Term: Three years through 2008

Yoshida Tateichiro (Keio University)

Specialty: Interdisciplinary Examination of International Trade in Animal Husbandry Commodities in Modern China: Egg, Bone and Leather Products

Term: Three years through 2009

Hashizume Retsu (The University of Tokyo)

Specialty: The Authority of Deposed Caliphs: A Reexamination from the Viewpoint of Military Regimes, the Abbas Family and Ulama

Term: 3 years through 2010

(3) Foreign Fellowships

Yanaga Nobumi

(Tokyo Branch Director, Institut National Des Langues et Civilisations Orientales)

Specialty: Japanese Buddhism

Term: 1 Sept. 2008-31 Aug. 2009 (To be extended)
and 5 other scholars.

< Funding to Foreign Scholars >

Nelly Hanna

Prof., American University in Cairo
and 27 other scholars.

6. Regional Studies Program

A. Documentation Center for Islamic Area Studies

Pioneering an Islamic Historical Information Science

The aim of the Center is to build a research foundation for local source materials in regional languages through the systemization of bibliographical information, and set up a convenient environment for the systematic collection and use of source materials. Viewing source materials as mirrors reflecting society, the Center promotes its research activities from a broad perspective in order to comprehend the complexity of social, political, and cultural structures in Islamic areas.

1. Systematic collection of local source materials in regional languages, including manuscripts and historical documents
2. development of bibliographical databases and network for librarians
3. Comparative historical study based on the documents

[Research Activities]

a) Research Conferences

The study of social institutions and social relations in Islamic regions is being encouraged through interregional comparison based on such documents of the modern and contemporary periods as judicial records.

Linked to the developing bibliographic research program which

exists in Japan, one conference and one seminar on Central Asian documents and three conferences, four seminars, a workshop and one lecture on Ottoman Period documents were held, while three study group meetings on cataloging Southeast Asian Kitab regarding the compilation of an East Asian Khitab catalogue were conducted with the Islamic Area Studies Center at Sophia University.

In addition, two research teams have been formed: one dealing with the topic, "The Shari'a and Modern Times: The Ottoman Civil Law Code," the other with the "Overall research on Ottoman Historical Records."

b)Release of Databases Containing Toyo Bunko Library Sources

Beginning in April 2008, a central site for a local language source database covering Library holdings was opened. The multi-language database can be searched using either the Arabic or Roman alphabet.

c)Building and Expanding Bibliographic Information Networks

- 1.Publication of a survey of locations and cataloguing conditions of Arabic script source materials held in Japan.

- 2.Compilation and release of the Bibliographical Database of Middle East Studies in Japan.

d)Overseas Dispatches (Destination, purpose, date, researcher)

- 1.Uzbekistan, survey and photography of Islamic judicial documents, 22 Aug.-5 Sep. 2008, Isogai Ken'ichi

- 2.Turkey and Croatia, Source material collection, survey and research conference attendance, 11 Aug.-11 Sep. 2008, Sawai Kazuaki (collaborator, Overall research on Ottoman Historical Records)

- 3.England, Source material survey, 20-27 Sep. 2008, Yanagiya Ayumi

e)Invitations to Foreign Researchers (Name, date of visit)

- 1.Dr. Obeid Ghassan (Director of The Center of Historical Documents in Damascus) 11-19 Mar.

- 2.Dr. Cemal Kafadar (Ottoman source materials researcher, Prof.,Harvard University) & Dr. Gülru Necipoğlu (Prof., in Harvard University), 18-28 Mar.

- 3.Dr. Nelly Hanna (Ottoman source materials researcher, Prof., American University in Cairo), 18 Dec.-19 Jan.

f)Systematic Collection of Local Language Source Materials

Persian: 321 books, 61 periodicals; Arabic: 1209 books, 11 periodicals; Ottoman Turkish: 260 books, Western Language: 19 titles of books.

B. Documentation Center for China Studies (DCCS)

Constructing a System of Collecting and Studying Source Materials for China Studies

The Center puts emphasis on building a systematic organization for the collection, use and research of sources through cooperation with every kind of research institution dealing with contemporary China. Such support functions as compiling of bibliographic data, preparing a Chinese bibliographic search system and making source material information available to subscribers are also being carried out.

In concrete terms, DCCS's activities are built upon 3 supports:

1. Organized, systematic collection, cataloging and dissemination of source materials related to contemporary China
2. Cooperation with related organizations to promote joint research and use of source materials related to contemporary China.
3. Promoting empirical research based on the available primary sources proofreading

[Research Activities] :

a) Systematic Collection and Study of Chinese Sources

Local history: 82 volumes of the "Minguo zhenxi duankan duankan" (民国珍稀短刊断刊) series; Education: 168 volumes of contemporary textbooks and guides, language, history and geography materials; early Republican Era political sources: 26 volumes of "Zhonggong zhongyao lishi wenxian ziliao huibian" (中共重要历史文献资料汇编). Video sources were the topic of a workshop held on 16 May, entitled "Video Archives in China and Their Relevance to Chinese Studies" and featuring Nagai Akira of the NHK Broadcasting Culture Research Institute. The oral sources were the topic of a workshop held on 21 June, attended by over 30 participants. A survey of the conditions under which local sources are stored and circulated in China was conducted research fellow Osawa between 21 Aug. and 3 Sep. in Zhejiang Province at the Zhejiang Library and Shaoxing Library. Interviews of local librarians were

also conducted. Five source material research conferences were held centering around younger scholars in the field: one dealing with educational sources, the other three with sources of the 1950s and 60s.

b)Source Collection and Information Sharing

Activities are continuing in the area of digitalizing sources and registering them at NACSIS-Webcat. Concerning digitalization, part of an integrated electronic library system was completed, operations testing in digital image sources was carried out, and statistics regarding time and cost requirements was recorded. Concerning data registration, registration and bibliography compilation was completed for 558 contemporary Chinese titles collected since 2003 and 663 Japanese periodicals collected by the former Modern China Research Committee.

c)Research on Network Development, Cataloging and Release

The topic of linking projects via networks was taken up in two workshops held in the spring, which included the participation of outside experts. The June workshop, entitled "Oral History and the Study of Contemporary China: Methodology, Recording and Storytelling," was an NIHU China Studies Colloquium featuring experts from Waseda, Tokyo, Keio Universities and the Research Institute for Humanity and Nature. In order to report on the activities of the Center, Osawa attended an international conference at Ulaanbaatar, Mongolia during June to deliver a paper on the digitalization of Asian historical sources.

7 . Contract Research

The Development of Joint Research Institutions in Human Studies and Social Sciences

The purpose of the commission is to deepen and improve the understanding of Islam in the contemporary globalized world through developments going on in network-based joint Islamic regional studies. The implementation of joint research projects will promote the participation of a wide-range of interested people both in Japan and abroad through an open, "call for papers" network, and also build

a strong operations system of research support. The Toyo Bunko is dedicated to playing a role as an Islamic area studies source material center involved in the promotion of collection and utilization of sources and implementing innovations in Islamic bibliography and philology.

[Research Activities]

- a) Research activity in the areas of collection, cataloging and utilization of historical sources related to the Islamic areas progressed and infrastructure was prepared to strengthen source collection, cataloging and database compilation. This year new bibliographical data published after 1989 had started to be accumulated and be inputted into the database "Bibliography of Middle Eastern and Islamic Studies in Ja-pan". Purchases included reference books, such as Middle Eastern language dictionaries, area studies bibliographies and cartographies.
- b) In order to put on the research activities, a website was set up at <http://www.tbias2.jp/>.
- c) The requested topics of research, "The pervasion of Persian bookkeeping in the Islamic World: case studies on the Ottoman accounting registers" was initiated under the leadership of Dr. Takamatsu Yoichi (associate professor, Tokyo University of Foreign Studies) and will continue for 3 years. A total of four research meetings were held between Nov 2008 and Mar 2009, featuring initial research reports and arrangements of the detailed plan. During Jan and Feb 2009, two researchers were dispatched to Egypt and Turkey for the purpose of archival surveys. One foreign researcher was invited to deliver a lecture at the seminar "Ottoman documents in the Bulgarian archives", jointly organized with the Institute of Oriental Culture, the University of Tokyo. He also joined the International Workshop "Cizye and Avariz tax registers and their place in the Ottoman fiscal and administrative practice" held at Hongo satellite office, Tokyo University of Foreign Studies.

III Accounting Report

Balance Sheet of General Account

As of March 31, 2009

(Unit: Yen)

Account Title		Current FY	Previous FY	Increase/Decrease
I ASSETS	Account Title			
1.	Current Assets			
	Cash and deposits	2,681,579	1,995,457	686,122
	Prepaid expenses	2,856,507	0	2,856,507
	Accounts receivable	20,081,023	19,718,445	362,578
	Suspense payments	5,400,000	0	5,400,000
	Goods	5,655,865	2,586,287	3,069,578
	Total current assets	36,674,974	24,300,189	12,374,785
2.	Fixed Assets			
(1)	Basic assets			
	Library materials	1,041,708,012	1,041,708,012	0
	Land	110,494	110,494	0
	Guarantee money	50,000	50,000	0
	Investment securities	2,841,936,643	2,841,454,301	482,342
	Deposits	115,322	114,822	500
	Total basic assets	3,883,920,471	3,883,437,629	482,842
(2)	Specific assets			
	Pension assets	25,950,488	54,697,345	△ 28,746,857
	Allowance for repairs of buildings and equipment			
	Total specific assets	25,950,488	54,697,345	△ 28,746,857
(3)	Other fixed assets			
	Buildings	457,692,206	0	457,692,206
	Structures	1,344,669	0	1,344,669
	Fixtures and fittings	27,049,400	25,495,722	1,553,678
	Library materials	110,184,981	66,154,836	44,030,145
	Softwares	2,648,743	3,220,753	△ 572,010
	Telephone rights	364,000	364,000	0
	Guarantee money			0
	Long-term prepaid expenses			
	Allowance for repairs of buildings, etc.	63,077,400	62,989,523	87,877
	Reserve for operation adjustments	36,387,985	39,339,716	△ 2,951,731
	Total other fixed assets	698,749,384	197,564,550	501,184,834
	Total fixed assets	4,608,620,343	4,135,699,524	472,920,819
	Total Assets	4,645,295,317	4,159,999,713	485,295,604
II LIABILITIES				
1.	Current Liabilities			
	Accounts payable	2,684,025	12,420,425	△ 9,736,400
	Deposits received	1,316,150	1,726,548	△ 410,398
	Allowance for bonuses	6,496,053	6,646,098	△ 150,045
	Total current liabilities	10,496,228	20,793,071	△ 10,296,843
2.	Fixed Liabilities			
	Allowance for retirement benefits	25,950,488	54,697,345	△ 28,746,857
	Total fixed liabilities	25,950,488	54,697,345	△ 28,746,857
	Total liabilities	36,446,716	75,490,416	△ 39,043,700
III NET WORTH				
1.	Specified Net Worth			
	Donations, etc.	202,110,494	202,110,494	0
	Total specified net worth	202,110,494	202,110,494	0
	(of which the amount appropriated to basic assets)	(202,110,494)	(202,110,494)	
2.	General Net Worth			
	(of which the amount appropriated to basic assets)	4,406,738,107	3,882,398,803	524,339,304
	(of which the amount appropriated to specific assets)	(3,681,809,977)	(4,171,051,415)	(△ 489,241,438)
		(0)	(0)	0
	Total Net Worth	4,608,848,601	4,084,509,297	524,339,304
	Total Liabilities and Net Worth	4,645,295,317	4,159,999,713	485,295,604

The Increase and Decrease of General Account's Net Worth
from April 1, 2008 to March 31, 2009

(Unit: Yen)

Account Title	Current FY	Previous FY	Increase/Decrease
I GENERAL NET WORTH INCREASE/DECREASE			
1. Current Increase/Decrease			
(1) Current revenues			
Financial revenue from basic assets	57,186,203	56,656,621	529,582
Financial revenue from specific assets	45,882	53,843	△ 7,961
Donations received			0
Donations by Support Society	40,200,000	35,200,000	5,000,000
Other donations	55,800,000	59,445,854	△ 3,645,854
Membership fee received	485,000	15,000	470,000
Project fee received	25,160,000	12,000,000	13,160,000
Contract research payment			
Operating revenue	7,741,142	5,895,341	1,845,801
Grants, etc.	113,240,000	111,770,000	1,470,000
Other revenue	659,565	536,400	123,165
Total current revenues	300,517,792	281,573,059	18,944,733
(2) Current expenditures			
Operating expenses	191,140,763	97,697,810	93,442,953
Library and research program	28,193,658	26,399,004	1,794,654
Acquisition	15,484,435	18,947,182	△ 3,462,747
Publishing	18,075,810	19,563,196	△ 1,487,386
Research dissemination	12,907,396	14,261,133	△ 1,353,737
Academic information service	9,343,562	14,344,442	△ 5,000,880
Regional study program	11,733,133	4,182,853	7,550,280
Contract research expense			
Payroll	41,545,453	0	41,545,453
Wages	34,951,451	0	34,951,451
Provision for bonuses	1,786,739	0	1,786,739
Pension expense	1,012,954	0	1,012,954
Welfare expense	3,794,309	0	3,794,309
Office expenses	53,857,316	0	53,857,316
Equipment repairs and maintenance	6,760,324	0	6,760,324
Utilities	5,613,510	0	5,613,510
Rewards	1,518,572	0	1,518,572
Rent			
Outsourcing cost			
Depreciation expense	31,135,718	0	31,135,718
Other expense	8,829,192	0	8,829,192
Administrative expenses	77,163,604	157,464,465	△ 80,300,861
Payroll	59,214,313	93,041,537	△ 33,827,224
Directors' compensation	9,070,000	14,281,818	△ 5,211,818
Wages	36,888,785	58,980,116	△ 22,091,331
Provision for bonuses	4,709,314	6,646,098	△ 1,936,784
Pension expense	1,514,109	2,552,938	△ 1,038,829
Welfare expense	7,032,105	10,580,567	△ 3,548,462
Office expenses	17,949,291	64,422,928	△ 46,473,637
Equipment repairs and maintenance	2,253,442	21,648,221	△ 19,394,779
Utilities	1,871,170	6,768,526	△ 4,897,356
Rewards	2,067,390	5,739,170	△ 3,671,780
Depreciation expense	8,326,428	20,600,905	△ 12,274,477
Other expense	3,430,861	9,666,106	△ 6,235,245
Total current expenditures	268,304,367	255,162,275	13,142,092
Current increase/decrease for this term	32,213,425	26,410,784	5,802,641
2. Nonrecurring Increase/Decrease			
(1) Nonrecurring revenues			
Gain from receiving fixed assets	2,634,188	1,439,109	1,195,079
Total nonrecurring revenues	2,634,188	1,439,109	1,195,079
(2) Nonrecurring expenditures			
Loss on retirement of fixed assets	162,589	0	162,589
Total nonrecurring expenditures	162,589	0	162,589
Nonrecurring increase/decrease for this term	2,471,599	1,439,109	1,032,490
Pretax general net worth increase/decrease	34,685,024	27,849,893	6,835,131
Corporate tax, inhabitant tax and business tax	70,000	70,000	0
General net worth increase/decrease for this term	34,615,024	27,779,893	6,835,131
General net worth at the beginning of the term	4,372,123,083	5,087,521,383	△ 715,398,300
General net worth at the end of the term	4,406,738,107	5,115,301,276	△ 708,563,169
II SPECIFIED NET WORTH INCREASE/DECREASE			
Change in specified net worth for this term	0	0	0
Specified net worth at the beginning of the term	202,110,494	202,110,494	0
Specified net worth at the end of the term	202,110,494	202,110,494	0
III NET WORTH AT THE END OF THE TERM	4,608,848,601	5,317,411,770	-708,563,169

List of Assets

As of March 31, 2009

(Unit : Yen)

Account Title		Amount		
(ASSETS)				
I	Current Assets			
	Cash and deposit			
	Cash			
	Ordinary deposit at Komagome Branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ	6,096,454		
	Time deposit at the above bank branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ	6,096,454		
	Postal transfer account	1,043,220		
	Prepaid expenses			
	Insurance premium, etc.	2,856,507		
	Accounts receivable			
	Accrued interest on securities, etc.	20,081,023		
	Goods			
	Publication, etc.	5,655,865		
	Total current assets		41,829,523	
II	Fixed Assets			
	(1) Basic assets			
	Library materials		1,041,708,012	
	Japanese and Chinese books	515,330 books		
	Western books	364,722 books		
	Copied materials	29,800 items		
	Land		110,494	
	Location	2-28-21 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo		
	Lot number	2-147-1 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo		
	Land category	Building land		
	Area	3,687.63 square meters		
	Guarantee money			
	Guarantee money to Nihon Keibi Hoshu Co., Ltd.	50,000		
	Investment securities			
	Securities to be held to maturity	2,841,936,643		
	Deposit			
	Ordinary deposit at Komagome Branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ	115,322		
	Total basic assets	3,883,920,471		
	(2) Specific assets			
	Buildings		457,692,206	
	Location	2-28-21 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo		
	Buildings (annex building)	Construction (steel-frame building)		
		Building area 1,415.17 square meters		
		Total floor area 7,141.00 square meters		
		Air-conditioning & plumbing, elevator machinery, utilities, etc.		
	Structures		1,344,669	
	Construction in progress			
	Design fee		514,500	
	Fixtures and fittings			
	Strongbox	1 items	27,049,400	
	Guarantee money			
	Security deposit			
	Allowance for retirement benefits			
	Ordinary deposit at Komagome Branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ	23,077,400		
	Time deposit at the above bank branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ	40,000,000		
	Allowance for repairs of buildings and equipment	5,927,665		
	Ordinary deposit at Komagome Branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ	20,000,000		
	Time deposit at the above bank branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ	5,927,665		
	Total specific assets			
	(3) Other fixed assets		457,692,206	
	Buildings			
	Location	2-28-21 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo		
	Buildings	Construction Reinforced concrete structure		
		Building area 1,415.17 square meters		
		Total floor area 7,141.00 square meters		
		Air-conditioning & plumbing, elevator machinery, utilities, etc.		
	Structures		1,344,669	
	Fixtures and fittings			
	Office furniture, etc.	145 items	27,049,400	
	Library materials		110,184,981	
	Japanese and Chinese books	10,764 books		
	Western books	17,249 books		
	Microfilms, etc.	532 books		
	Softwares		2,648,743	
	Telephone rights	3 items	364,000	
	Guarantee money			
	Security deposit			
	Long-term prepaid expenses			
	Insurance premium		2,856,507	
	Reserve for operation adjustments			
	Ordinary deposit at Komagome Branch, The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ	36,387,985		
	Total other fixed assets	638,528,491		
	Total fixed assets		4,528,376,627	
	TOTAL ASSETS			4,570,206,150
(LIABILITIES)				
I	Current Liabilities			
	Accounts payable	Publication printing fee, etc.	2,684,025	
	Deposits received	Withholding income tax on employees' wages, etc.	1,316,150	
	Allowance for bonuses	Cumulative allowance for bonuses to officers and employees	6,496,053	
	Total current liabilities			10,496,228
II	Fixed Liabilities			
	Allowance for retirement benefit	Cumulative allowance for retirement benefits	25,950,488	
	Total fixed liabilities			25,950,488
	TOTAL LIABILITIES			36,446,716
	TOTAL NET WORTH			4,533,759,434

Income & Expenditure Statement of General Account

from April 1, 2007 to March 31, 2008

(Unit: Yen)

Account Title	Budget (A)	Settlement (B)	Increase/Decrease (A) - (B)	Remarks
I OPERATING ACTIVITIES				
1. Operating Revenues				
Financial revenue from basic assets	56,300,000	56,703,361	△ 403,361	
Donations by Support Society	40,200,000	40,200,000	0	
Other donations	55,000,000	55,800,000	△ 800,000	
Membership fee received	500,000	485,000	15,000	
Project fee received	20,000,000	25,160,000	△ 5,160,000	
Contract research payment received				
Revenue from research	7,000,000	7,741,142	△ 741,142	
Grants, etc.	110,000,000	113,240,000	△ 3,240,000	
Other revenue	500,000	523,419	△ 23,419	
Total operating revenues	289,500,000	299,852,922	△ 10,352,922	
2. Operating Expenditures				
Operating expenses	223,998,000	205,054,391	18,943,609	
Library and research program	34,000,000	28,193,658	5,806,342	
Acquisition	41,000,000	47,412,480	△ 6,412,480	
Publishing	21,500,000	18,075,810	3,424,190	
Research dissemination	13,500,000	12,907,396	592,604	
Academic information service	15,500,000	12,413,140	3,086,860	
Regional study program	20,000,000	22,797,810	△ 2,797,810	
Contract research expense				
Payroll	47,538,000	40,532,499	7,005,501	
Office expenses	30,960,000	22,721,598	8,238,402	
Administrative expenses	59,802,000	98,666,987	△ 38,864,987	
Payroll	50,762,000	88,974,124	△ 38,212,124	
Office expenses	9,040,000	9,692,863	△ 652,863	
Total operating expenditures	283,800,000	303,721,378	△ 19,921,378	
Net operating activities	5,700,000	△ 3,868,456	9,568,456	
II INVESTMENT ACTIVITIES				
1. Investment Revenues				
Allowance for repairs of buildings and equipment			0	
Accrued retirement benefits	0	31,273,920	△ 31,273,920	
Operating expenses allowance	0	33,000,000	△ 33,000,000	
Total investment revenues	0	64,273,920	△ 64,273,920	
2. Investment Expenditures				
Acquisition of fixed assets	0	8,322,233	△ 8,322,233	
Guarantee money				
Accrued retirement benefits	5,000,000	2,481,181	2,518,819	
Allowance for repairs of buildings and equipment (specific assets)				
Operating expenses allowance	0	30,000,000	△ 30,000,000	
Total investment expenditures	5,000,000	40,803,414	△ 35,803,414	
Net investment activities	△ 5,000,000	23,470,506	△ 28,470,506	
III FINANCIAL ACTIVITIES				
1. Financial Revenues	30,000,000	0	30,000,000	
2. Financial Expenditures	0	0	0	(Note)
Net financial activities	0	0	0	
Current balance	700,000	19,602,050	△ 18,902,050	
Balance carried over from the previous term	920,831	920,831	0	
Balance carried forward to the next term	1,620,831	20,522,881	△ 18,902,050	

(Note) The maximum borrowing limit: 30,000,000 yen

IV List of Parsonnel

The personnel of the Toyo Bunko as of March 31, are as follows:

1. Directors

Title	Name	Present Post
Director General	MAKIHARA, Minoru	Director General, The Toyo Bunko; Advisor, Mitsubishi Corporation
Executive Director	YAMAKAWA, Naoyoshi	Executive Director & General Affairs
Directors	ISHII, Yoneo	Advisor, Research Department, The Toyo Bunko; Director General, Japan center for Asian Historical Records National Archive of Japan Prof. Emer., Kyoto University
	OSAKI, Hitoshi	Special Advisor to the President, National Institutes for the Humanities
	KUSAHARA, Katsuhide	Vice-President, Takushoku University
	SATO, Tsugitaka	Research Department Head, The Toyo Bunko; Prof., Waseda University; Prof. Emer., The University of Tokyo
	SHIBA, Yoshinobu	Executive Librarian, The Toyo Bunko; Member, The Japan Academy; Prof. Emer., Osaka University
	TANAKA, Issei	Head Librarian, The Toyo Bunko; Member, The Japan Academy; Prof. Emer., The University of Tokyo
	TSURUMI, Naohiro	President, Yamanashi Prefectural University; Prof. Emer., Yokohama National University
	NAKANE, Chie	Chairman of Section I, The Japan Academy; Prof. Emer., The University of Tokyo
	HAMASHITA, Takeshi	Advisor, Library Department, The Toyo Bunko; Prof., Ryukoku University
	HARA, Minoru	Member, The Japan Academy; Prof. Emer., The University of Tokyo
	FUKUZAWA, Takeshi	Advisor, Mitsubishi Estate Co., Ltd.
	MIKI, Shigemitsu	Senior Advisor, Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.
	OKANO, Riichiro	Auditor, The Toyo Bunko
Auditor	TOJO, Kazuhiko	Senior Advisor, The Mitsubishi Kin'yo-kai

2. Councilors

Title	Name	Present Post
Councilors	ARAMAKI, Koichiro	Chairman of the Board, Kirin Holdings Co., Ltd.
	ARIMA, Akito	Curator of the Science Museum; Chancellor, Musashi Gakuen; Prof.Emer., The University of Tokyo
	ANZAI, Yuichiro	President, Keio University
	UMEMURA, Hiroshi	Prof., Chuo University
	OIKE, Kazuo	Former President of Kyoto University
	KISHIMOTO, Mio	Prof., Ochanomizu University
	KUBO, Masaaki	Secretary General, The Japan Academy; Prof.Emer., The University of Tokyo
	GOTO, Akira	Prof., Toyo University; Prof.Emer., The University of Tokyo
	KOMIYAMA, Hiroshi	President, The University of Tokyo
	SHIRAI, Katsuhiko	President, Waseda University
	SEYA, Hiromichi	Advisor, Asahi Glass Co., Ltd.
	NISHIDA, Tatsuo	Member, The Japan Academy; Prof. Emer., Kyoto University
	HIRANO, Ken'ichiro	Prof. Emer., Waseda University; Prof.Emer., The University of Tokyo
	MASUDA, Nobuyuki	Advisor, Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.
	MANO, Eiji	Prof. , Ryukoku University Prof. Emer., Kyoto University
	WANG, Gungwu	Director, East Asian Institute, National University of Singapore

3. Oriental Studies Advisory Council

Title	Name	Present Post
Chairman of the Committee	MAKIHARA, Minoru	Director General, The Toyo Bunko Advisor, Mitsubishi Corporation
Members of the Committee	ISHII, Yoneo	Advisor, Research Department, The Toyo Bunko; Director General, Japan center for Asian Historical Records National Archive of Japan; Prof.Emer., Kyoto University
	UMEHARA, Kaoru	Prof. Emer., Kyoto University Honorary Fellows
	OZAKI, Yasushi	Former Prof., Keio University
	KOZEN, Hiroshi	Former Director General, Kyoto National Museum; Prof.Emer., Kyoto University
	SHIBA, Yoshinobu	Exective Librarian, The Toyo Bunko Member, The Japan Academy Prof.Emer., Osaka University
	CHIKUSA, Masaaki	Prof. Emer., Kyoto University

Title	Name	Present Post
Members of the Committee	NAKANE, Chie	Chairman of Section I, The Japan Academy; Prof. Emer., The University of Tokyo
	NISHIDA, Tatsuo	Member, The Japan Academy Prof. Emer., Kyoto University
	MANO, Eiji	Prof. Emer., Kyoto University
	MIMAKI, Katumi	Member, The Japan Academy Prof., Kyoto University
	MORIMOTO, Kosei	Abbot Emeritus, Todai-ji

4. Honorary Fellows

Name	Home Institution
BLUSSE, Leonard	Universite Leiden
DE BARY, W. T.	Columbia University
ELVIN, Mark	The Australian National University (Prof. Emeritus)
FRANKE, Herbert.	Ludwig-Maximilians-Universitat Munchen (Prof. Emeritus)
HUMPHREYS, R. Stephen	University of California
GERNET, Jacques.	Collège de France
KADIVAR, Mohsen	Tarbiat Modarres University
HAN Yeong'u	Seoul National University (Prof. Emeritus)
HUANG Kuanzhong	National Chung Hsing University
	Institute of History and Philology, Academia Sinica
KYCHANOV, E.I.	Saint-Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences
LANCIOTTI, Lionelio	University of Naples (Prof. Emeritus)
LI Bozhong	National Tsing Hua University
McDERMOTT, Joseph, P.	St. Johns College, Cambridge University
RAFEQ, Abdul-Karim	The College of William and Mary Department of History
SAHIN, Ilhan	Kirgizistan-Turkiye Manas Universitesi
WANG, Gungwu	National University of Singapore

5. Personnel, Research Fellows

Department	Title	Name	Rmarks (*:Research Fellow)
	Drector General	MAKIHARA, Minoru	Advisor, Mitsubishi Corporation
	Executive Librarian	SHIBA, Yoshinobu	*
	Executive Director	YAMAKAWA, Naoyoshi	
General Affairs Department	Assistant General Manager	AOKI, Yuji	
	Senior Manager	SHIBADAI, Junko	
	Manager	FUJIMURA, Yumiko	
	"	FUJISHIRO, Kazutaka	
	"	HASEGAWA, Shigehiro	
Library Department	"	MAKI, Yukiko	
	Head Librarian (Dept. Head)	TANAKA, Issei	
	Advisor (NDL)	HAMASHITA, Takeshi	* Prof., Ryukoku University
		WATANABE, Yukihide	Director, Toyo Bunko Branch of National Diet Library
	"	CHUZENJI, Makoto	Cheef, Toyo Bunko Branch of National Diet Library
	Senior Manager	AITANI, Yoshimitsu	*
	Manager	SAKURAI, Toru	*
	"	SHINOZAKI, Yoko	*
	"	YAMAMURA, Yoshiteru	*
	"	TACHIBANA, Nobuko	
Research Department	Dept. Head	SATO, Tsugitaka	* Prof., Waseda University
	Advisor	ISHII, Yoneo	* Director General, Japan center for Asian Historical Records National Archive of Japan
	Senior Manager	TAKISHITA, Saeko	*
	Manager	HARAYAMA, Takahiro	*
	Research Fellow	OSAWA, Hajime	* Documentation Center for China Studies
	"	YANAGIYA, Ayumi	* Documentation Center for Islamic Area Studies
	"	CHIBA, Hiroshi	* Former Director, Toho Gakuen
	"	CHIKUSA, Masaaki	* Prof. Emer., Kyoto University
	"	DOHI, Yoshikazu	* Prof. Emer., Kokugakuin University
	"	HAMASHIMA, Atsutoshi	* Prof., National Chi Nan University
	"	HONJO, Hisako	*

Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellow	ICHIKO, Chuzo,	* Prof. Emer., Ochanomizujoshi University
	"	IKEADA, Yuichi	* Prof. Emer., Chuo University
	"	KAZAMA, Kiyozo,	* Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	KIKUCHI, Hideo	* Former Prof., Chuo University
	"	KUSANO, Yasushi	* Former Prof., Kumamoto University
	"	MATSUMARU, Michio	* Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	MATSUMURA, Jun	* Prof. Emer., Nihon University
	"	NAGAZUMI, Yoko	* Former Prof., The University of Tokyo
	"	NISHIDA, Tatsuo	* Prof. Emer., Kyoto University
	"	OHTA, Yukio,	* Prof. Emer., Tokyo Gakugei University
	"	OKADA, Hidehiro,	* Prof. Emer., Tokyo University of Foreign Studies
	"	OOE, Takao	* Prof. Emer., Tokyo University of Foreign Studies
	"	SAKAI, Kenji	* Prof. Emer., Den-en Chofu University
	"	SHIMO, Hirotoshi	*
	"	SUENARI, Michio	* Former Prof., The University of Tokyo
	"	TADA, Kensuke	* Prof. Emer., Japan Women's University
	"	TAMURA, Koichi	* Prof. Emer., Aoyama Gakuin University
	"	TANAKA, Issei	* Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	TANAKA, Tokihiko,	* Prof. Emer., Tokai University
	"	TORIUMI, Yasushi	* Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	WATANABE, Hiroyoshi,	* Prof. Emer., Dokkyo Medical University
	"	YABUKI, Susumu	* Prof. Emer., Yokohama City University
	"	YAMAGUCHI, Zuiho	* Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	YAMAZAKI, Gen'chi	* Prof. Emer., Kokugakuin University
	"	YOSHIDA, Tora	* Former Prof., Risscho University
Research Department	Research Fellow: Joint Appointments	DANIELS, Christian	* Prof., Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies
	"	FURUYA, Akihiro	* Prof., Waseda University
	"	GOTO, Akira,	* Prof., Toyo University
	"	HACHIOSHI, Makoto	* Prof., Tokyo University of Foreign Studies
	"	HAYASHI, Kayoko	* Prof., Tokyo University of Foreign Studies
	"	HIRANO, Ken'chiro,	* Prof. Emer., Waseda University;
	"	HIROSUE, Masashi	* Prof., Rikkyo University
	"	IIJIMA, Taketsugu	* Prof., Komazawa University
	"	ISHIBASHI, Takao	* Prof., Kokushikan University
	"	KASUYA, Ken'ichi	* Prof., Hitotsubashi University
	"	KATO, Naoto	* Prof., Nihon University
	"	KAWASAKI, Shinjo	* Prof., Toyo University

Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellow:	KISHIMOTO, Mio	* Prof., Ochanomizujoshi University
	Joint Appointments	KOMATSU, Hisao	* Prof., The University of Tokyo
	"	KUBOZOE, Yoshifumi	* Prof., Rissho University
	"	MIMAKI, Katsumi	* Prof. Kyoto University
	"	MIURA, Toru	* Prof., Ochanomizu University
	"	MOMIYAMA, Akira	* Prof., Saitama University
	"	MOURI, Kazuko	* Prof., Waseda University
	"	NAGASAWA, Eiji	* Prof., The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	NAGATA, Yuzo	* Prof., Meiji University
	"	NAKAGANE, Katsuji	* Prof., Aoyama Gakuin University
	"	NAKAMI, Tatsuo	* Prof., Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies
	"	ONA, Yasuyuki	* Prof., Aoyama Gakuin University
	"	UCHIYAMA, Masao	* Prof., Utsunomiya University
	"	YANAGISAWA, Akira,	* National Institutes for the Humanities, Inter-University Research Institute
	"	YOSHIDA, Mitsuo	* Prof., The University of Tokyo

6. ■ Research Fellows: Acting Appointments ■

Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellows:	AKIBA Jun	Associate Prof., Chiba University
	Acting	AMAKO Satoshi	Prof., Waseda University
	Appointments	AOYAMA Rumi	Associate Prof., Waseda University
	"	ARAI Masami	Prof., Tokyo University of Foreign Studies
	"	ARAKAWA Masaharu	Prof., Osaka University
	"	ASANO Shugo	Curator of The Museum of Yamatobunkakan
	"	BENNO Saiichi	Prof., Kanazawa University
	"	FUJIMOTO Yukio	Prof., Reitaku University
	"	FUJITA Tadashi	Prof., Kokushikan University
	"	FUKASAWA Shinji	Prof., Wako University
	"	FURUTA Kazuko	Prof., Keio University
	"	GEN Zenhei	Prof., St. Andrew's (Momoyama Gakuin) University
	"	HAGITA Hiroshi	Associate Prof., Tokyo University of Foreign Studies
	"	HAMADA Masami	Prof., Kyoto University
	"	HANADA Nariaki	Prof., Meiji Gakuin University
	"	HARA Minoru	Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	HASEGAWA Yoshio	Lecturer, Chiba Institute of Technology
	"	HAYASHI Toshio	Prof., Soka University
	"	HIRANO Satoshi	Associate Prof., The University of Tokyo
	"	HIRASE Takao	Prof., The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	HIROSE Shin'chi	A. T Kearney. Principal
	"	HORIKAWA Toru	Prof., Kyoto University of Foreign Studies
	"	HOSOYA Yoshio	Prof., Tohoku Gakuin University
	"	HU Jie	Associate Prof., Nagoya University
	"	HUANG Donglan	Associate Prof., Aichi Prefectural University
	"	IIO Hideyuki	Prof., Senshu University
	"	IKEDA Misako	Prof., Nagoya University of Commerce & Business
	"	IKEDA On	Prof. Emer., Soka University
	"	IKO Toshiya	Prof., Tsuru University
	"	IMANISHI Yuichiro	Prof., Kyushu University
	"	INOUE Kazue	Prof., The International University of Kagoshima
	"	INOUE Kazuto	Head, International Cooperation Section, Department of Planning & coordination, Nara National Research Institute for Cultural
	"	ISHIZUKA Harumichi	Prof. Emer., Hokkaido University

Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellows: Acting Appointments	ISOGAI Ken'chi	Research Fellow, International Research Institute for Studies Language and Peace Kyoto University for Foreign Studies
	"	KANAMARU Yuichi	Prof., Ritsumeikan University
	"	KARASHIMA Noboru	Prof. Emer., The University of Tokyo
	"	KASUYA Gen	Associate Prof., Nihon University
	"	KATAGIRI Kazuo	Prof. Emer., Aoyama Gakuin University
	"	KATAYAMA Akio	Prof., Tokai University
	"	KATAYAMA Tsuyoshi	Prof., Osaka University
	"	KATO Hiroyuki	Prof., Kobe University
	"	KAWAI Shin'chi	Prof., Aichi University
	"	KAWASHIMA Shin	Associate Prof., Graduate school, The University of Tokyo
	"	KEGASAWA Yasunori	Prof., Meiji University
	"	KIM Bongjin	Prof., The University of Kitakyushu
	"	KISHI Toshihiko	Prof., Kanagawa University
	"	KITAMOTO Asanobu	Associate Prof., National Institute of Informatics
	"	KOHAMA Masako	Prof., Nihon University
	"	KOJIMA Yoshitaka	Prof., Kanazawa Gakuin University
	"	KOMINAMI Ichiro	Prof., Ryukoku University
	"	KOROGI Ichiro	Associate Prof., Kanda University of International Studies
	"	KOSUGI Yasushi	Prof., Kyoto University
	"	KUBO Toru	Prof., Shinshu University
	"	KUMAMOTO Hiroshi	Prof., The University of Tokyo
	"	KURODA Takashi	Associate Prof., Tohoku University
	"	KUSUNOKI Yoshimichi	Associate Prof., University of Tsukuba
	"	MARUKAWA Tomoo	Associate Prof., The University of Tokyo
	"	MATSUMOTO Hiroshi	Associate Prof., Daito Bunka University
	"	MATSUNAGA Yasuyuki	CISMOR Fellow, Doshisha University
	"	MATSUNAMI Yoshihiro	Prof. Emer., Taisho University
	"	MATSUSHIGE Mitsuhiro	Prof., Nihon University
	"	MITANI Takashi	Prof., Hitotsubashi University
	"	MIYAZAKI Shuta	Prof., Seijo University
	"	MIZUNO Yoshifumi	Prof., Tokyo University of Foreign Studies
	"	MORIHIRA Masahiko	Associate Prof., Kyushu University
	"	MORIYASU Takao	Prof., Osaka University
	"	MOTONO Eichi	Prof., Graduate school, Waseda University
	"	MURAI Shosuke	Prof., The University of Tokyo
	"	MURATA Yujiro	Prof., The University of Tokyo

Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellows: Acting Appointments	NAKANO Maori	Associate Prof., National Institute of Japanese Literature Department of Literary Development Studies
	"	NAMIKI Yoriyisa	Prof., The University of Tokyo
	"	NISHIO Kanji	Prof., National Defense Academy of Japan
	"	NOBUHIRO Shinji	Prof., Teikyo University
	"	OGAWA Hiromitsu	Prof., The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	OHKAWARA Tomoki	Associate Prof., Tohoku University
	"	OHSAWA Masaaki	Prof., Sophia University
	"	OHTA Nobuhiro	Associate Prof., Tokyo University of Foreign Studies
	"	OHTANI Shunta	Associate Prof., Nara Women's University
	"	OKAYAMA Hajime	Prof., The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	OKUMURA Satoshi	Prof., Metropolitan University
	"	ROKUTANDA Yutaka	Associate Prof., The University of Tokyo
	"	SAKURAI Yumio	Former Prof., The University of Tokyo
	"	SAOTOME Masahiro	Associate Prof., The University of Tokyo
	"	SATO Hiroshi	Prof., Hitotsubashi University
	"	SATO Shin'ichi	Prof., The University of Tokyo
	"	SEKIMOTO Teruo	Director, The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	SEKIO Shiro	Prof., Niigata University
	"	SEO Tatsuhiko	Prof., Chuo University
	"	SHIDARA Kunihiro	Prof., Rikkyo University
	"	SHIGECHIKA Keiju	Prof., Shizuoka University
	"	SHIMAO Minoru	Associate Prof., Keio University
	"	SHIMIZU Kosuke	Prof., Kyushu University
	"	SHIMIZU Nobuyuki	Prof., Aoyama Gakuin University
	"	SHINMEN Yasushi	Prof., Chuo University
	"	SHIOZAWA Hirohito	Lecturer, Hosei University
	"	SHITOMI Yuzo	Prof., The University of Tokyo
	"	SHOGAITO Masahiro	Prof., Kyoto University
	"	SODA Saburo	Prof., Hiroshima University
	"	SUKAWA Hidenori	Prof., Yokohama National University
	"	SUNAYAMA Yukio	Prof., Aichi University
	"	SUZUKI Hiroyuki	Lecturer, Yamagata Junior College
	"	SUZUKI Hitoshi	Assistant Director, International Relations and Conflict Studies Group, Inter- disciplinary Studies Center, Institute of Developing Economics
	"	SUZUKI Ritsuko	Prof., Aichi University

Department	Title	Name	Present Post
Research Department	Research Fellows:	TACHIKAWA Musashi	Prof., Aichi Gakuin University
	Acting	TAJIMA Toshio	Prof., The University of Tokyo
	Appointments	TAKADA Yukio	Associate Prof., Meiji University
	"	TAKEDA Yukio	Prof., Gifu Shotoku Gakuen University
	"	TAKEUCHI Tsuguhito	Prof., Kobe City University of Foreign
	"	TANAKA Akihiko	Prof., The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo
	"	TANG Liang	Associate Prof., Yokohama City University
	"	TERADA Hiroaki	Prof., Kyoto University
	"	TOCHIO Takeshi	Prof. Emer., Seijo University
	"	TOKURA Hidemi	Prof., The University of Tokyo
	"	TOMIZAWA Yoshia	Associate Prof., Shimane University
	"	TSUJIMOTO Hiroshige	Associate Prof., Nanzan University
	"	TSUCHIDA Akio	Prof., Chuo University
	"	TSURUMI Naohiro	President, Yamanashi Prefectural University
	"	UCHIDA Tomoyuki	Prof., Daito Bunka University
	"	UENO Eiji	Prof., Seijo University
	"	UMEDA Hiroyuki	Prof. Emer., Reitaku University
	"	UMEHARA Kaoru	Prof. Emer., Kyoto University
	"	UMEMURA Hiroshi	Prof., Chuo University
	"	WADA Yasuyuki	Associate Prof., Ryukoku University
	"	YAMAMOTO Eishi	Prof., Keio University
	"	YAMAMOTO Takeo	Prof. Emer., National Institute of Informatics
	"	YAMAUCHI Koichi	Prof., Sophia University
	"	YAMAUCHI Tamihiro	Associate Prof., Niigata University
	"	YANAGIDA Seiji	Prof., Nara University
	"	YOSHIDA Nobuyuki	Prof., The University of Tokyo
	"	YOSHIDA Yutaka	Prof., Kobe City University of Foreign
	"	YOSHIMIZU Chizuko	Lecturer, University of Tsukuba
	"	YOSHIMURA Shintaro	Associate Prof., Hiroshima University

財団
法人

東洋文庫年報

2008年度

2009年7月31日発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫
横 原 稔

印刷者 サンワフォーム印刷(株)

東京都豊島区東池袋5-40-9 サン・ユースビル2階

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

本書は財団法人東洋文庫に対する平成20年度文部科学省補助金
の一部によって刊行されたものである。

Toyo Bunko NENPŌ

Toyo Bunko Yearbook 2008

I	The Toyo Bunko's activities in FY2008	122
II	Activities Report	128
1.	Surveys and Research	128
2.	Source Material Collection and Cataloging	141
3.	Research Publications	142
4.	Dissemination of Information	144
5.	Scientific Information Availability	145
6.	Regional Studies Program	148
7.	Contract Research	151
III	Accounting Report	153
1.	Balance Sheet of General Account	153
2.	The Increase and Decrease of General Account's Net Worth	154
3.	List of Assets	155
4.	Income & Expenditure Statement of General Account	156
IV	List of personnel	157
1.	Directors	157
2.	Councilors	158
3.	Oriental Studies Advisory Council	158
4.	Honorary Fellows	159
5.	Personnel, Research Fellows	160
6.	Research Fellows : Acting Appointments	163

THE TOYO BUNKO

Honkomagome 2-chome,28-21

Bunkyo-ku, Tokyo,

Japan
